

知床における国民参加の森林づくり活動等の 推進に関するビジョン



平成20年3月
北海道森林管理局
知床永久の森林づくり協議会

目 次

本 編

1	はじめに.....	1
2	ビジョン策定の背景.....	3
	2-1. 森林を取り巻く社会的背景.....	3
	2-2. 知床の森林を取り巻く現状と課題.....	7
3	知床における森林づくり活動等の目標像.....	11
	3-1. 基本理念.....	11
	3-2. 目指す森林の姿.....	12
4	取組の推進方向.....	13
	4-1. 知床の森林をフィールドとした森林づくり活動等の提案.....	13
	4-2. 知床の森林を次世代につなぐための体制づくり.....	15
	4-3. 知床の森林をみんなで支える仕組みづくり.....	16
	4-4. 効果的な情報発信・PR活動.....	16
5	ビジョンの実現に向けた今後の具体的な取組.....	18
	5-1. 平成20年以降の主な取組と工程.....	18
	5-2. 平成20年度に実施するツアー企画.....	18
	5-3. 「森林づくり活動」「森林環境教育」プログラム・ツアーの企画・検討例.....	18
	(別紙1) 平成20年度及び21年度以降の主な取組内容と工程.....	19
	(別紙2) 「森林づくり活動」「森林環境教育」プログラム・ツアーの企画・検討例.....	20

資料編

1. 参考データ（本文に引用した各種調査結果）	25
2. 知床の森林の現況データ	27
3. 活動フィールドの現地調査結果（一覧）	30
4. 知床における森林づくり活動に関する意識調査 結果概要	31
5. 体験活動や企業支援の取組に関する事例	55
6. 知床永久の森林づくり協議会及び仕組みづくり部会の開催状況	67
7. 知床永久の森林づくり協議会委員 名簿	69
8. 仕組みづくり部会委員 名簿	70
9. 知床の森林づくりに関する協議会設置要領	71
10. 知床永久の森林づくり協議会運営要領	72
11. 「北海道国有林の生物多様性保全を目指して」のポイント	
- 生物多様性検討委員会 取りまとめ -	74

1 はじめに

近年、森林に対する国民のニーズが多様化する中、平成 18 年 9 月に策定された新たな森林・林業基本計画において、地球温暖化防止対策の推進や優れた自然環境を有する森林の維持・保全等とともに、国民参加の森林づくりの推進が、森林の有する多面的機能の発揮に向けて重点的に取り組むべき事項の一つとされたところである。

特に、国民参加の森林づくりについては、近年、一般市民や N P O 等が行う森林ボランティア活動、森林体験活動が活発化するとともに、企業の社会的責任（C S R）活動の一環としての森林づくりへの参画が見られるところであるが、教育・環境分野と連携した広がりのある取組としては不十分であり、活動の内容は未だ充実しているとは言い難い状況である。また、積極的に森林づくりを行っている企業も限定的であり、森林・林業について広く国民の理解を得て、社会全体で支えていくという気運を醸成していくことが重要とされている。

さらに、我が国が京都議定書を締結した平成 14 年に策定された「地球温暖化防止森林吸収源 10 年対策」においても、森林吸収量 1,300 万炭素トンの目標達成に向け、健全な森林の整備・保全や木材及び木質バイオマス利用の推進等とともに国民参加の森林づくり等の推進についても対策の目標として掲げられているところである。

他方、平成 22 年に開催される生物多様性条約第 10 回締約国会議の我が国への招致も念頭に、生物多様性の保全に対するニーズに的確に応え、優れた自然環境を有する森林の維持管理等を推進するため、平成 19 年 3 月に北海道森林管理局に生物多様性検討委員会が設置され、北海道国有林の生物多様性の確保の観点から見た課題とその検討方向等について、平成 20 年 2 月に報告書として取りまとめられたところである。今後は、国民参加も得ながら生物多様性に資する実証的なプロジェクトも展開していくこととされている。

知床（斜里町及び羅臼町）の森林の約 9 割は、国有林で占められており、立木地の 9 割はダケカンバやミズナラ、トドマツなどの天然林であり、そのうちの 7 割は知床の典型的な林相ともいえる針広混交林で占められている。半島基部に見られる人工林は、トドマツ、アカエゾマツを中心に構成されており、林齢は 8 ～ 9 齢級が多く、間伐等の森林施業が必要な森林となっている。

知床の国有林の管理・経営については、斜里町側を網走南部森林管理署、羅臼町側を根釧東部森林管理署が管轄しているほか、知床森林センターにおいて、国民参加の森林づくりの促進に向けた取組や森林生態系に関する調査業務を実施しており、平成 20 年春には、斜里町ウトロ地区にボランティア等活動拠点施設を開設することとなっている。

また、知床半島の海岸沿いには、町有林や私有林などの民有林が分布しており、その多くは、保健保安林や防風・潮害防備保安林等に指定されている。このうち、幌別・岩尾別地区の町有林（開拓跡地等）では、昭和 52 年から「しれとこ 100 平方メートル運動」

において、各地から寄せられた寄付金により土地の買い取りや植樹等が行われ、現在は、「100 平方メートル運動の森・トラスト」として、森林の再生に向けた取組が続いている。

世界的にも貴重で原生的な自然環境が保全されている知床は、平成 17 年 7 月に知床世界自然遺産地域に登録されており、その陸域の 94%が国有林で占められている。北海道森林管理局では、同じ地域を森林生態系保護地域に設定し、知床の環境保全に努めているところである。

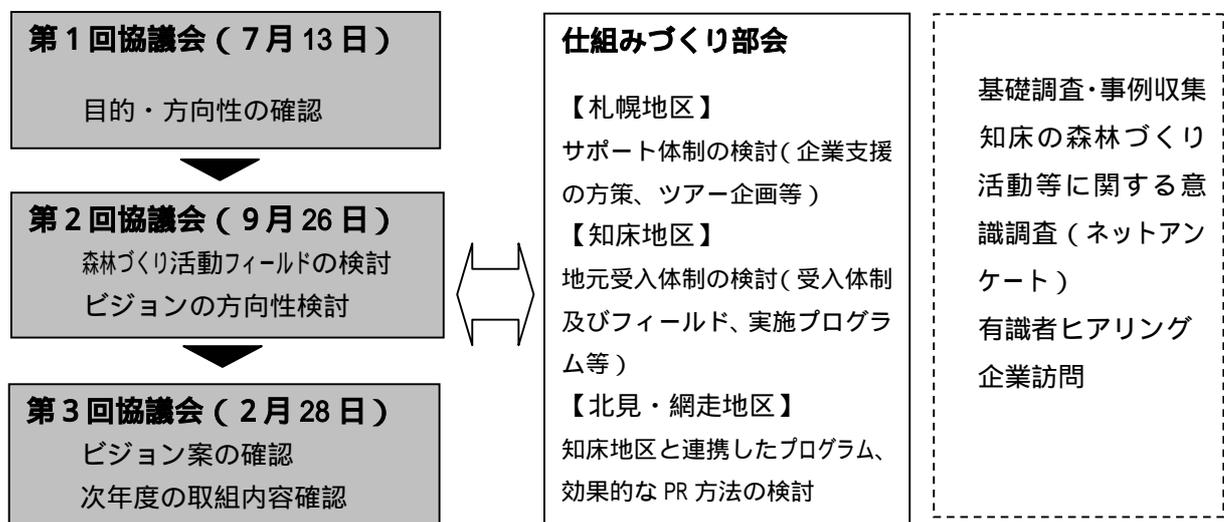
一方、知床においては、生息数が増加しているエゾシカによる樹木被害の拡大や限られた観光スポットへの来訪者の利用集中による散策路周辺の植生荒廃等の課題を抱えている。

このような中、「知床永久の森林づくり協議会」(以下「本協議会」という。)は、企業等多様な主体の参画の下、知床における国民参加の森林づくり活動や森林環境教育活動を継続的に推進するための体制や仕組みづくりを検討することを目的に平成 19 年 7 月に設置された。また、本協議会の下には、地区毎の役割に基づきより具体的な検討を行う「仕組みづくり部会」を札幌、北見・網走、知床の 3 地区に設置した。

本ビジョンは、世界自然遺産に登録された豊かな生態系を有する知床半島において、国民の森林づくりに対する機運や地球温暖化防止対策等に対する意識を高めていくため、知床の森林をフィールドとし、個人、企業、団体等の多様な主体の参加による森林づくり活動や環境教育プログラム、支援のしくみの構築に向けた今後の取組の推進方向等を示すものとして、これまで議論された結果等を踏まえて取りまとめたものである。



ビジョン策定の流れ



2 ビジョン策定の背景

2-1 ．森林を取り巻く社会的背景

(1) 二酸化炭素吸収源としての森林への期待の高まり

地球温暖化の防止を図る上で、大気中の二酸化炭素を吸収し、炭素を貯蔵する森林は、二酸化炭素吸収源として大きな役割を果たしている。

我が国では、京都議定書による温室効果ガス6%削減約束の達成に向け、1,300万炭素トン(約3.8%)程度を森林による二酸化炭素吸収量により確保することとしており、「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策」により、森林の整備や国民参加の森林づくり等の推進に取り組んでいるところである。

また、平成20年7月に開催される北海道洞爺湖サミットでは、地球環境問題が主要テーマとされており、我が国は、京都議定書のホスト国として、温暖化防止対策に主導的な役割を果たすことが期待されている。このため、多方面において、様々な温暖化対策が取り組まれているとともに森林の二酸化炭素吸収源としての期待も高まっている。

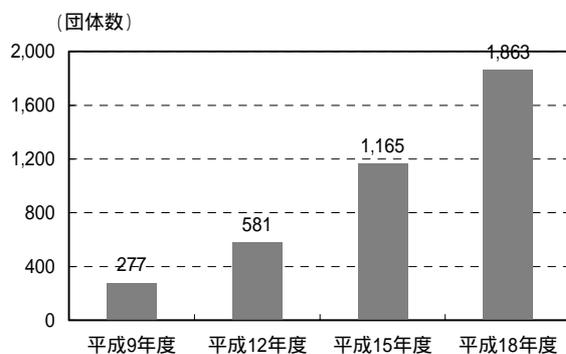
内閣府が平成19年に実施した「森林と生活に関する世論調査」によると、森林に期待する働き及び国有林に期待する働きについて、いずれも「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」とする回答が最も多くなっている。

(資料編1-1)

(2) 森林ボランティア活動の活発化や企業の環境分野での社会貢献活動の動き

地球温暖化をはじめとする環境問題への関心が高まる中、森林づくりを行っているボランティア団体数は、平成18年度に1,863団体(平成9年の約7倍)と全国的に増加している。(図表1)

図表1 森林づくりを行っているボランティア団体数の推移



出所：「森林づくり活動についてのアンケート集計結果」
(平成19年、林野庁)

また、環境分野における社会貢献活動として、寄付や社員ボランティア等による森林の整備・保全活動を実施する企業がみられるようになっている。

このような中、国有林においては、分収林制度（ ）を利用して企業が社会に貢献するとともに社員教育や顧客とのふれあいの場として森林づくりを行う「法人の森林」の設定が行われており、その現況面積及び箇所数は、年々増加している。（図表 2）

図表 2 国有林の「法人の森林」の現況面積 (単位:ha)

	平成4年度	8年度	12年度	16年度	18年度
分収造林	67 (24)	289 (118)	570 (196)	680 (239)	746 (260)
分収育林	24 (4)	436 (71)	980 (129)	1,184 (160)	1,378 (183)

- 注：1 ()書は、箇所数である。
 2 面積は、各年度期末現在の数値である。
 3 各年度の「国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」及び林野庁業務資料による。

()分収林制度には、契約者が木を植えて育てる「分収造林」や、契約者が生育途上の森林の保育や管理などに必要な費用の一部を負担し国が育てる「分収育林」がある。

一方、平成 16 年に文部科学省が実施した「ボランティア活動を推進する社会的機運醸成に関する調査研究報告書」によると、最近 5 年間のボランティア活動の経験または興味・関心について、「ボランティア活動に興味・関心を持ったことはあるが、具体的に行ったことはない」とする回答が約 46%と最も多く、今後、参加しやすい森林づくり活動の機会を提供していくことが必要と考えられる。（資料編 1 - 2）

また、企業による森林づくり活動については、市民やNPO等との連携による活動は多いとは言えず、今後は、企業と地域関係者を結ぶ仕組みづくりが必要と考えられる。（事例 1）

事例 1 地域と連携した企業の森林づくり活動



(S社緑の基金 活動の様子)

S社の緑の基金では、「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」の活動に取り組んでおり、復興の森づくり活動の推進のため、行政機関や環境市民団体、企業、地域団体などから成る実行委員会を設立している。
 活動には、一般の市民、ボランティア団体の植樹参加の応募を受け付けており、平成 19 年春には 61 団体、約 2,000 人が参加し、植樹を行った。

更に、林野庁の「企業の森林整備活動に関する検討会」が取りまとめた報告書（平成 18 年 6 月）では、企業の森林整備・保全活動の推進のポイントとして、「企業がアピールしやすいテーマの森づくり」や「地域のニーズやビジョンを明確にしたア

アプローチ」,「企業、NPO、森林所有者等の橋渡しや森林づくりをサポートする「森林づくりコミッション()」の立ち上げ」,「社員、顧客の参加や販売・消費を通じた参加の促進」等をあげている。(図表3)

() 「森林づくりコミッション」: 自治体やNPO法人が中核となり、協力する団体、森づくり活動に熱意のある個人等が集まって組織化を図る。関係者の連絡調整やフィールドの紹介、協定締結のアドバイス等を担い、企業の森づくりを支援する。

図表3 「企業の森林整備・保全活動の促進について」～検討会報告書のポイント

1	企業の森林整備・保全活動への参加意欲の喚起 企業がアピールしやすいテーマの森づくり、多様な切り口のテーマの設定 企業内の合意形成を促進するための普及啓発 地域のニーズやビジョンを明確にしたアプローチ
2	NPO等との連携の場や森林整備・保全活動の場の確保 企業、NPO、森林所有者等の橋渡しや森づくりをサポートする「森林づくりコミッション」の立ち上げと森づくり活動の支援 森林所有者が様々なフィールドを提供しやすい環境づくり 国有林の受入体制の充実(協定方式によるフィールドの提供)
3	企業のもつ人、技術、資金を活用した参加の促進 社員、顧客の参加や販売・消費を通じた参加の促進 社有林や基金を活用した参加の促進 緑の基金の充実(使途限定型募金の充実、募金の成果のフィードバック)
4	企業の森林整備・保全活動の評価 ハード(植林、保育) ソフト(普及啓発等)両面の活動の、定量的で分かりやすい評価手法の検討 評価体制の整備と評価のフィードバック

(3) 学校教育における体験活動や森林環境教育へのニーズの高まり

完全学校週5日制の実施や総合的な学習の時間の導入により、学校教育における体験学習等の場として森林が広く活用されることが期待されており、森林・林業関係者や教育関係者、ボランティア団体等の連携の下で、学校内外での森林環境教育が実施されている。

このような中、国有林においても、森林教室や体験林業など教育関係機関等との連携による森林環境教育に積極的に取り組んでおり、平成18年度の取組状況(全国)は、1,351回(参加者数99,360人)と年々増加している。(図表4)

図表4 国有林における教育関係機関等との連携による森林環境教育の取組状況

	平成14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
回数	843	880	972	1,032	1,351
参加者数	39,975	43,671	60,653	97,055	99,360

注1 : 教育関係機関等とは、小学校、中学校、高校、大学、教育委員会、その他である。

注2 : 数値は各年度の「国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」による。

平成 18 年の教育基本法の改正及び平成 19 年の教育関連 3 法の改正などを踏まえて平成 19 年度内の改訂を目指している学習指導要領においては、教育内容に関する主な改善事項として、体験活動を充実することが掲げられており、今後更に森林の活用が広がるものと考えられる。

こうした中で、修学旅行において体験学習を取り入れている学校が年々増加しており、(財)全国修学旅行研究協会の「修学旅行における体験学習について」によると、平成 18 年度の修学旅行に体験学習を取り入れたとする回答が約 78% (調査対象：全国国公立中学校 (回収率約 84.5%)) となっている。このようなニーズに対応して、一部の自治体では、体験型の修学旅行の受入体制やプログラムの整備を行い積極的に誘致する動きが見られるようになっている。(資料編 1 - 3、事例 2)

事例 2 体験型の修学旅行の受け入れを推進している事例

和歌山県では、平成 14 年から実施している体験事業「ほんまもん体験」を活用して、首都圏の高校を中心とした修学旅行の誘致を行い、平成 15 年度の 1 校から平成 20 年度は 11 校に誘致数を増やしている。

県では、大手旅行代理店への訪問、大阪府や東京都内での学校教員や修学旅行担当者向けのセミナーの開催等を進めている。また、串本町では、行政や民間が一体となり「教育旅行誘致協議会」を設立し、生徒が一般の漁家に民泊する「漁家民泊」の整備を進め、11 校中の 7 校が希望するなど誘致活動が実を結んでいる。

「ほんまもん体験」のプログラムでは、マグロ養殖体験、漁業体験、カヌー体験、紀州備長炭炭焼き体験、熊野古道散策など 305 種類もの体験活動を用意している。

(出所：和歌山県庁HP、紀伊民報、日本経済新聞)

また、総合的な学習の時間において、学校等による森林環境教育の推進に寄与することを目的として、平成 14 年度に創設された国有林の「遊々の森」制度では、森林での学習活動、体験活動に国有林のフィールドを提供しており、平成 18 年度末現在、全国で 127 箇所が設定されている。近年、「遊々の森」をはじめとする環境学習の場としての学校林活動が見直されつつあるが、全体から見ると活動は各校単独での取組にとどまり、地域的な広がりには欠けているのが現状であり、学校間のネットワークや地域社会、NPOの支援が課題となっている。(図表 5)

図表 5 「遊々の森」の協定締結数の推移

(単位：箇所)

	平成 14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
協定締結数	19	71	93	107	127

注：数値は各年度の「国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」による。

(4) 癒しや健康づくりなどの森林の多様な機能に対する国民の関心の高まり

ストレス社会といわれる現在、森林の新たな利用方法として、森林のもつ心や身体の「癒し効果」が注目されており、国民の関心や期待が高まっている。

内閣府が平成 18 年に実施した「自然の保護と利用に関する調査」によると、今よ

りももっと自然とふれあう機会を増やしたいとの回答が7割となっている。(資料編1-4、事例3)

事例3 北海道の「癒しと健康ツーリズム推進事業」の取組

北海道では、平成18年度に「森林」に着目した新たな北海道観光の魅力を創出するため、「癒しと健康ツーリズム推進事業」を実施し、旅行代理店や旅行雑誌社等を対象に、森林と食、温泉、セラピー等を組み合わせたエージェンツツアーを行った。
ツアーでは、道有林や国有林のみどころ等の視察や枝打ちなどの森林体験プログラムのほか、森林の癒し効果に関する講演や生理的効果の測定体験、地元の「食」や「温泉」の体験等を内容とし、新たな観光のあり方を提案・発信するとともに、ツーリズムの商品化に向けた意見や要望等の把握・検証を行った。(出所：北海道庁HP)

2-2 . 知床の森林を取り巻く現状と課題

(1) 知床の自然の主な特徴

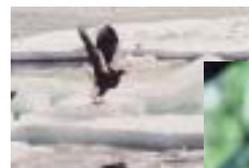
知床の生態系

知床は、北半球で最も低緯度で流水を観測できる地域であり、流水が運ぶ栄養分はプランクトンを養い知床の海を豊かなものにしてている。これを食物連鎖の基礎として、アザラシなどの海獣類やオオワシなどの鳥類を育み、海を回遊するサケ科魚類は川を遡上して、ヒグマなど山に棲む生き物の餌となるなど、生命の循環が豊かな森林を育てている。このように、知床は、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本となっている。



知床の生物多様性

知床には、固有種であるシレットコスミレやチシマコハマギクなどの希少種が生育しているほか、世界的にも希少な種であるシマフクロウやオオワシ、オジロワシにとっても重要な地域となっている。また、ヒグマやエゾシカ、トドやアザラシなどの大型哺乳類も高密度で生息しており、知床の豊かな環境が、多様な生息環境と餌資源を提供し生物多様性を支えている。



知床の植生

知床には、海浜に生育する海岸植物から標高1,660mにある高山植物まで様々な植物相が連続的に形成されている。特に、オホーツク海沿岸にある以久科原生花いくしな

園では、ハマナスやエゾスカシユリなど 100 種類以上の花を見ることができる。

森林植生としては、ミズナラやセンノキなどの温帯性の広葉樹林、これらの広葉樹とトドマツやアカエゾマツなど亜寒帯性の針葉樹が混交する針広混交林、上部にはダケカンバ林が続き、幅広く変化に富んだ林相を呈している。特に、針葉樹と広葉樹が混ざり合った針広混交林は知床の森林の典型といえる。(資料編 2 - 3)

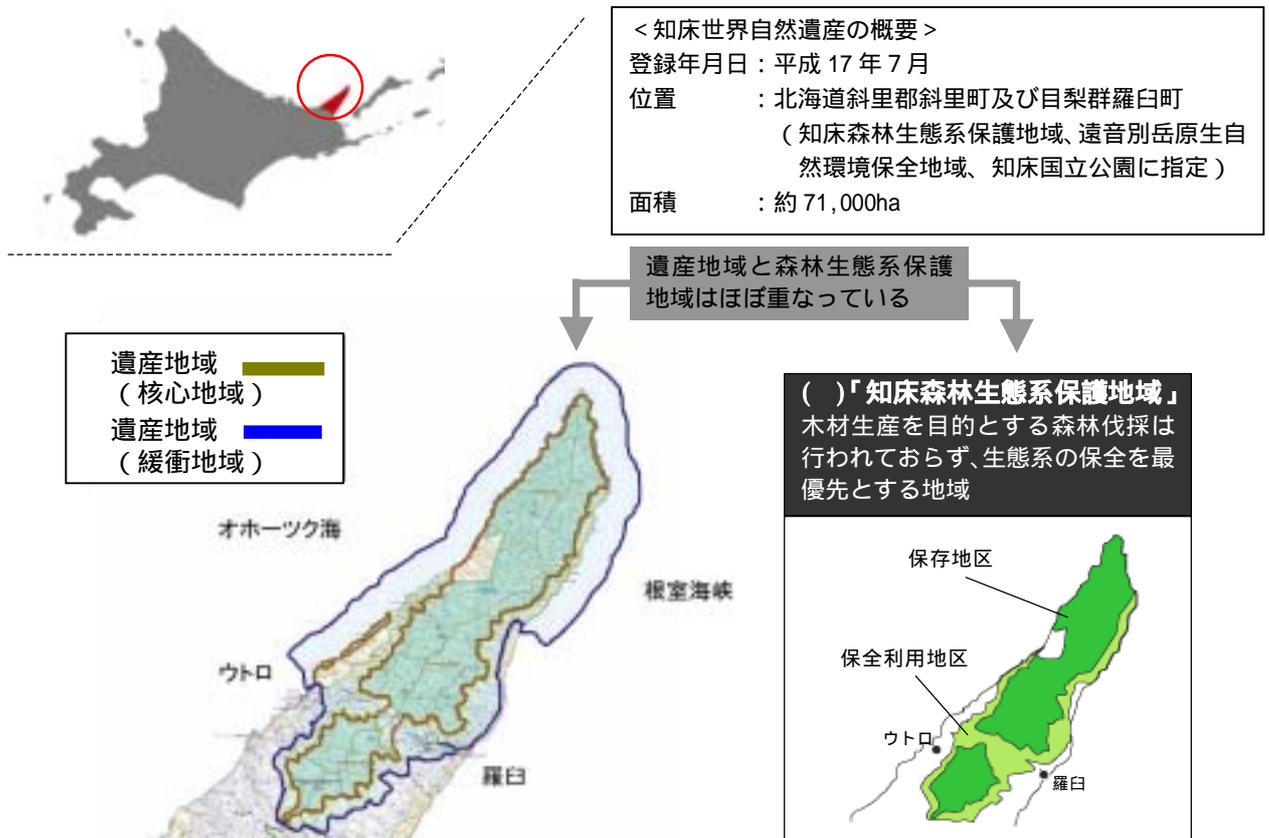
知床では、半島という狭い範囲のなかで温帯性の植生から亜寒帯性の植生、更に高山植物群落までの幅広い分布が見られる特徴をもっている。



世界自然遺産・知床

知床は、上述のような特徴的な生態系と世界的な希少種等の重要な生息地であること等が評価され、平成 17 年 7 月に世界自然遺産に登録されている。

なお、知床半島の 9 割以上が国有林であり、遺産地域については森林生態系保護地域()として原生的な森林環境の保全・管理が行われている。(図表 6)



図表 6 世界自然遺産・知床の概要

しれとこ 100 平方メートル運動の取組

昭和 52 年、知床の自然は町民全体で守るべき貴重な財産であるという認識の下、全国から寄付金を募り、国立公園内の岩尾別・幌別地区の私有地の買い上げや植樹等を行う「しれとこ 100 平方メートル運動」がスタートした。平成 9 年からは、自然の生態系の再生を目指す「100 平方メートル運動の森・トラスト」として活動が進められており、運動参加者の交流事業として、野外生活で知床を体験する知床自然教室や森林づくり作業を体験するワークキャンプ等を行っているほか、森林の再生事業として、エゾシカ対策や様々な広葉樹を育てる活動等を行っている。

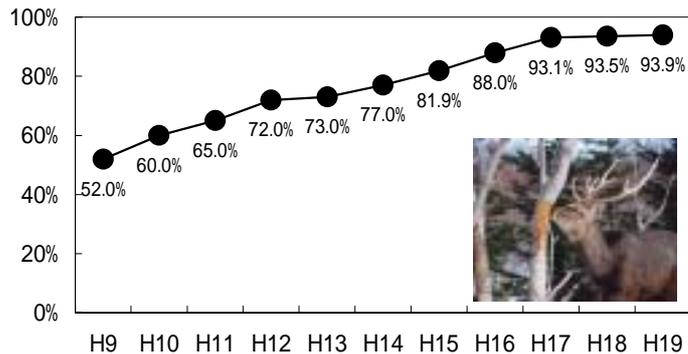
(2) 現状と課題

エゾシカによる樹木被害

北海道では、1990 年代以降、エゾシカの生息数の増加による被害が大きな問題となっており、知床においても個体数が高密度状態で推移し、樹木の食害や希少植物の減少など生態系への影響が危ぶまれている。知床世界自然遺産地域科学委員会の下に設けられたエゾシカワーキンググループにより検討が進められた「知床半島エゾシカ保護管理計画」が 2006 年に策定され、必要な対策が取られている。

知床森林センターで実施しているイチイ林木遺伝資源保存林でのイチイの食害調査においても被害の割合が年々増加していることが確認されており、今後、防除対策とともに野生動物と森林の現状を考える機会を広く提供していくことも必要である。(図表 7)

図表 7 イチイ林木遺伝資源保存林におけるイチイの食害推移 (食害木の割合)



出所：知床森林センター業務資料

遺産地域周辺の森林

知床世界自然遺産地域周辺の森林には、36～45 年生 (8～9 齢級) の間伐などの管理を行うべき人工林が散在しており、今後、針広混交林への誘導など遺産地域内と連続した森林として適切に整備していく必要がある。(資料編 2 - 2、図表 8)



図表 8 斜里町と羅臼町の森林の状況

森林の利用状況

知床においては、来訪者が森林とふれあうことができる観光スポットに限られており、来訪者が集中する知床五湖や羅臼湖などでは、利用集中による歩道の踏み外しによる植生への悪影響等が問題となっている。今後は、一部の観光スポットに集中している利用を分散させるため、遺産地域の周辺も含め、新たなスポットを創出し、来訪者に対し知床の新たな魅力を提案していく必要がある。

また、知床五湖周辺など半島中央部では、自然ガイド付きツアーが知床の楽しみ方として確立され、利用が増加しているが、来訪者のうちガイドを利用する者は1割程度に過ぎず未だ低いのが現状である。自然ガイドは、自然の解説だけでなく、自然との接し方やマナーを伝えることができ、知床の環境保全に果たす役割は大きい。



混雑する知床五湖の様子



知床五湖駐車場の様子



利用者による踏み荒らし

3 知床における森林づくり活動等の目標像

3-1 . 基本理念

「国民の財産『知床の森林』をみんなで支え、次世代につなごう」

- ・ 「知床の森林」を国民全体で永久に守り、育てていくため、知床の森林づくり活動等に対し、個人、企業、団体等の多様な主体に参加・支援をいただくとともに、知床を訪れるリピーターを増やし、各地に知床の森林を支えるサポーターをつくること
- ・ 学校での体験学習及び企業や団体の研修等における知床での森林づくり活動等を契機として、森林の整備や保全、地球温暖化等の環境問題について、考えるだけでなく行動して支える機運を醸成すること
- ・ 森林や動物といった自然科学だけでなく社会科学等も含めた幅広い分野における専門家の調査研究や活動を有効に活用しながら、知床の森林をフィールドとして、より多くの層に対し、自然の雄大さを考えるきっかけをつくり提供していくことを基本理念とする。

<基本理念の3つの柱>

(1)「次世代につなぐ森林づくり」

世界自然遺産「知床」を国民全体の財産として、将来にわたって適切に保全し、次世代に継承していくため、遺産地域内の原生的な森林の保全を念頭においたモニタリング調査や遺産地域の隣接地域での針広混交林化などの森林づくり活動や森林環境教育を通じて、知床半島全体としての生物多様性を高めていくことを目指す。

(2)「知床の森林を通じた人づくり」

学校での体験学習及び企業や団体等の研修等における知床の森林における森林づくり活動等を通じて、森林の役割・重要性や地球温暖化等の環境保全意識を高め、環境問題について自ら考え行動する人材を育てることを目指す。

(3)「みんなで支える仕組みづくり」

個人・企業・団体等の多様な主体が知床の森林づくり活動や支援に参加できるしくみを構築し、より多くの層に対して参加の機会を提供することで、知床の森林を継続的に支えていくことを目指す。

3-2 . 目指す森林の姿

P13 参照

「野生生物を育む生態系豊かな森林」

【森林づくりエリア】

森林と川と海が一体となった豊かな自然環境の中で多様な野生生物が生息する森林

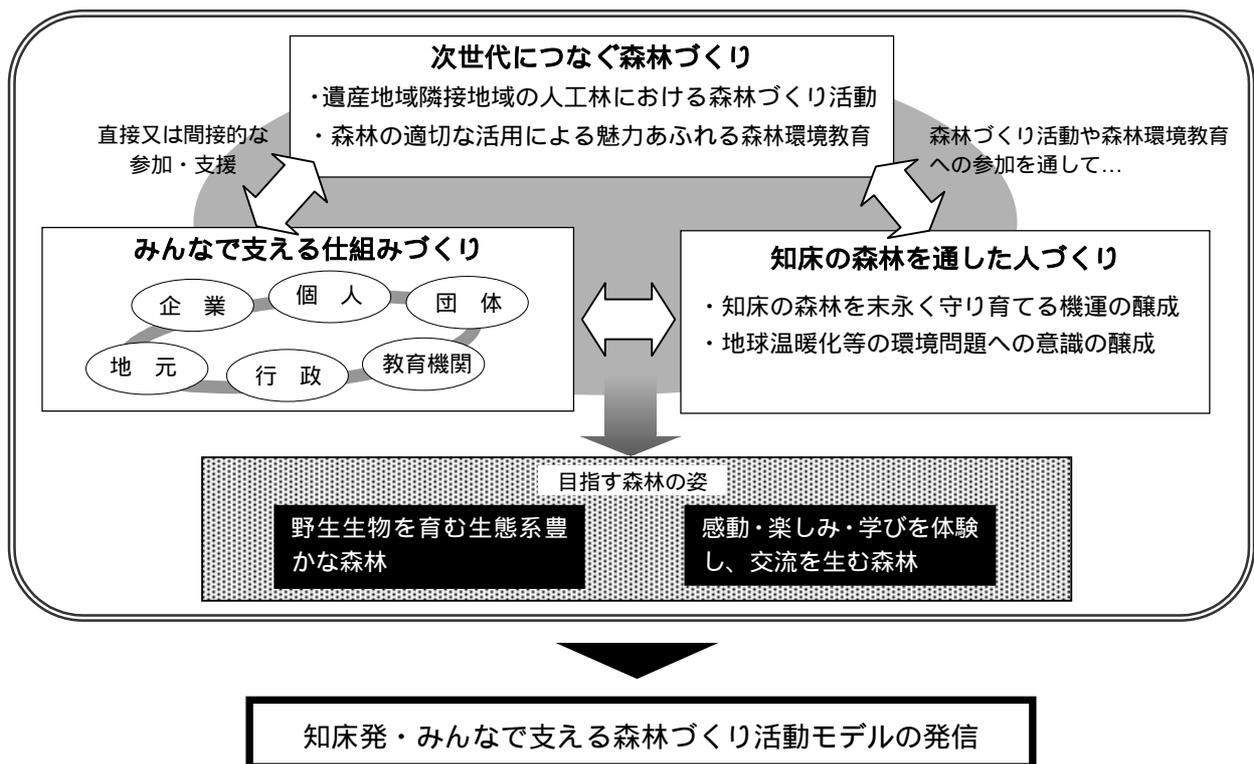
「感動・楽しみ・学びを体験し、交流を生む森林」

【森林に学び楽しむエリア】

森林に触れる感動や楽しみ、学びの場を提供し、様々な交流が生まれる森林

【参考1】 本協議会において実施した、知床における森林づくりに関する意識調査（ネットアンケート調査）の結果（以下「ネットアンケート調査結果」という。）によると、将来にわたり知床にどのような森林があってほしいかの問いに対して、「良好な景観を形成する森林」、「貴重な動植物や野生動物の成育環境が保護されている森林」の割合が高くなっている。（資料編4 - (5)-2 参照）

< 知床における森林づくり活動等のイメージ >



4 取組の推進方向

4-1 . 知床の森林をフィールドとした森林づくり活動等の提案

(1) 活動の考え方

本ビジョンにおける国民参加の当面の活動は、森林の状況やアクセス、地域の関係者の意見等を踏まえ、以下のように考えることとする。

【森林づくりエリアにおける活動内容】

(斜里町の「日の出林道」、羅臼町の「春刈古丹林道」等を中心としたエリア)()

アクセスの条件が比較的良好で、笹地等への植樹活動が可能なフィールドがあるほか、生育途中の手入れの必要なアカエゾマツやトドマツの人工林が点在しているエリアであるため、林況に応じて、植樹、下刈り、枝打ち、保育間伐、エゾシカ被害の防除対策等の森林づくり活動を行う。

また、イベント参加型で森林づくり体験を行うフィールドのほか、継続的な森林づくり活動ができるフィールドの設定も含め、今後検討していく。

【森林に学び楽しむエリアにおける活動内容】

(斜里町の「オシンコシンの滝周辺天然林」や「知床自然観察教育林」、羅臼町の「春刈古丹林道」や「望郷の森林」等を中心としたエリア)()

アクセスの条件が比較的良好で、知床らしさを感じることのできる天然林又は散策路が整備された森林で、野生動物が観察できたり、川や沼、巨木を利用した様々なテーマでの活動が可能なエリアであるため、樹木の名前を覚えたり、巨木でのツリーイング(木登り)、森林と川の生き物の観察会などの活動を行う。

このほか、知床の森林におけるエゾシカ被害の現状の観察や防除対策を体験する森林づくり活動を行う。

なお、今後の活動を進める中で、地域の活動や森林の保全に配慮しつつ、新たな活動フィールドについても検討する。

() 各フィールドの現地調査の結果及び位置については、資料編3を参照。

(2) プログラム・ツアーの検討

より幅広い層の人々が、知床における森林づくり活動に参加するためには、知床ならではの体験ができる魅力あるプログラム・ツアーを企画・実施していくことが重要である。このため、以下について検討・提案を行うこととする。

魅力あるプログラムの検討

他では体験できないような知床ならではの魅力を提供することで、プログラムへの参加意欲を高めるため、

- ・ 様々な生物が生息する知床の原生的な森林を活かし、昆虫や野生動物、森林と川と海の関係等のテーマを設定し、知床の森林の魅力を楽しく伝えるプログラムを検討する。
- ・ 知床の森林づくり活動と流水やオオワシの観察などの一般的な知床らしさを関連づけたプログラムの検討や知床の森林づくり活動を通じて地球温暖化対策に貢献できるプログラム等を検討する。
- ・ 知床の森林づくり活動と地域の漁業体験や農業体験を組み合わせたツアーや森林や野生生物等に関する教育機関（施設）等と連携したツアーを検討する。
- ・ 地元ガイドによる案内や専門家による解説、参加者限定の記念品など、ツアーの企画において、参加者の満足度や参加意欲を高めるための工夫を検討する。

参加者層や参加形態に応じたツアー・プログラムの提案

個人や団体、教育機関等が気軽に知床の森林に行くことができるツアー・プログラムを提案するため、

- ・ 宿泊費と交通費、プログラム参加費がパッケージされたツアー旅行としての企画や既存ツアーのオプションプログラムとしての企画など一般旅行者が気軽に参加できる仕組みを提案する。
- ・ 教育機関の総合学習や体験学習旅行、企業等の研修旅行としてのプログラム・ツアーの企画や長期滞在で森林づくり活動に参加できるプログラムの企画を検討し、提案する。

継続的に森林づくりに関わる仕組みの提案

参加者が知床の森林へ愛着を持つようになり、知床での活動へのリピーターやサポーターとなるために、

- ・ 緑豊かな夏の森林と雪に覆われる冬の森林を中心に、季節ごとに見られる知床の自然を活かしながら通年で楽しめるプログラムを提案する。
- ・ 活動通信の送付やインターネットを通じた活動の経過報告など参加者が継続的に森林づくりに関わるすることができる仕組みを提案する。

【参考2】 本協議会において実施した「ネットアンケート調査結果」によると、知床の森林づくり活動を魅力あるものにするために必要なことはなにかの問いに対して、「無理のない範囲（時間や金銭面など）で気軽に参加できること」が最も多く、次いで「特別の知識や技能がなくてもできること」、「一過性に終わらず長く関わり続けられること」、「日常生活ではできない貴重な体験ができること」などとなっている。（資料編4 - (6)-3 参照）

また、知床における長期・継続的な森林づくり活動のために力を入れるべきことはなにかの問いに対して、「子どもに対する環境教育活動を積極的に行う」が最も多く、次いで「企業に対する森林づくり活動への参加を積極的に呼びかける」などとなっている。（資料編4 - (6)-4 参照）

なお、具体的なプログラム・ツアーの企画・検討例は、5-2「平成20年度に実施するツアー企画」、5-3「森林づくり活動」「環境教育」プログラム・ツアーの企画・検討例」に示しており、今後、地元関係者のほか、環境教育や体験教育等に関する専門家等の意見を伺いながらプログラム・ツアーの具体化を進めていくこととする。

(3) 知床における既存の委員会等との連携

知床世界自然遺産地域科学委員会や知床世界自然遺産地域連絡会議、知床国立公園利用適正化検討会議等において、森林づくり活動や森林環境教育の企画等についての情報提供や協力要請を行ったり、各委員会等からの情報も得ながら連携して進めていくこととする。

(4) 活動に当たっての留意事項

森林づくり活動において植樹を行う際には、苗木の生産地を必ず確認するとともに、特に、知床が世界自然遺産であることも踏まえ、将来的には、その地域の母樹から採種した「実生苗」を植えるよう配慮する。

4-2. 知床の森林を次世代につなぐための体制づくり

地域の協力や企業等の支援を得ながら継続的に活動するためには、地元の団体や関係機関等との合意形成を図るとともに、企業等の支援を受けやすい体制とすることが必要であるため、資金運用の透明性を確保しながら活動する安定した組織体制を整備することが重要である。

このため、

- ・ 地元の団体、関係機関と連携・協力しながら、企業等を通じた様々な形での支援の受け皿になるとともに、森林づくり活動や森林環境教育活動のプログラム・ツアーを継続的に運営していくコーディネート体制を構築する。具体的には、平成20年度に本協議会の下に実行体制検討部会を設置し、NPO法人等の新しい組織の立ち上げに向けた調整・準備を進める。
- ・ 新しい組織において、企業等を通じた支援の定着化を図るとともに、個人・団体のツアー旅行や教育機関の総合学習や体験学習旅行等を受け入れるための体制の整備を進める。
- ・ 本協議会では、プログラム・ツアーの実施結果の検証、次年度の取組方針に対する提案や新しい組織の運営に対する助言等を行うほか、フィールドの特性・状況を踏まえつつ目指す森林の実現に向けた取組手法等を検討する。

なお、平成22年度以降は本協議会の規模を縮小し、新しい組織の運営に対するアドバイザー的体制へ移行する。

4-3 . 知床の森林をみんなで支える仕組みづくり

国民全体で、貴重な財産である知床の森林を支える気運を高めていくため、企業の社会貢献活動としての支援や個人からの支援など、全国各地から様々なかたちで知床の森林づくり活動等を支援できる仕組みを構築していく必要がある。

このため、

- ・ 企業による支援を促進・定着させるため、企業からの支援の受入体制として、新たな組織を構築（4-2）すると同時に、企業の環境分野での社会貢献活動として、企業活動に対応した支援の方法を地元企業や道内の主要企業、全国規模の大手企業に対して提案・要請していく。また、社員研修としてのフィールドの提供など支援企業が利用できる特典等についても検討・提案していく。

【例】 ・ テーマ性のある活動プログラムへの資金助成

- ・ 苗木、エゾシカ防除ネットなど活動に必要な資材の提供
 - ・ 参加者へ配布する飲料等の提供や参加記念品の開発・提供
 - ・ 活動の運営体制に対する人材の提供
 - ・ 国有林の「法人の森林」の制度や森林整備協定等の活用の推進
- ・ 個人が日常の消費活動を通じて選択的に支援に参加できるよう、企業等の特定の商品やサービスを利用することにより、企業を介して知床の森林づくり活動等を支援できる仕組みを企業に対し提案・要請する。

【例】 ・ 売上の一部が知床の森林づくり活動に寄付される知床の土産品の販売

- ・ 各種カードの利用を通じて寄付ができる仕組み 等
- ・ 個人が気軽に知床への支援に参加できるよう、コンビニエンスストアや知床のホテル等の協力を得て、身近な場所に募金箱を設置し活動への協力金を募ったり、ポスターの掲示やパンフレットを設置するなど店舗やホテル等の利用を通じて知床の森林づくり活動等を広く周知する仕組み・体制を整備する。

【参考3】 本協議会において実施した「ネットアンケート調査結果」によると、知床の森林づくり活動に参加する場合、どのような方法で参加したいかの問いに対して、「森林づくりを応援する商品等の購入や利用を通じて参加してみたい」が最も高く、次いで「森林づくりのイベント等を通じて参加してみたい」、「募金や寄付を通じて参加してみたい」などとなっている。（資料編4 - (6) - 1 参照）

4-4 . 効果的な情報発信・PR活動

知床の森林づくり活動等のプログラム・ツアーの企画や活動支援の仕組みについては、広く情報発信し効果的にPRしていくことが重要である。

このため、

- ・ 知床森林センターから、知床の森林に関するホームページを立ち上げ、情報を発信していくとともに、情報通信関連企業や旅行関係者、環境問題に取り組む団体等を通じて、知床の森林づくり活動等のプログラムやツアーの活動を広くPRする。
- ・ 教育委員会等を通じ、環境教育に取り組む学校関係者に対して知床での森林環境教育プログラムを普及させていくほか、首都圏の教育熱心なファミリー層や活動意欲のあるシニア層等にターゲットを絞った話題性のあるプログラム企画により効果的にPRしていくことを検討する。
- ・ 環境教育に取り組む団体等とも連携し、ワークキャンプなどの長期的な森林づくり活動や学校の体験学習としての森林環境教育プログラム等の企画・実施を検討する。
- ・ 全国で開催されている北海道産品フェア等の機会を活用し、知床の森林づくり活動への支援・参加を呼びかけるラベルを貼った知床の土産品を販売するなど、知床の関連商品を利用した活動のPRについて検討する。

また、我が国の貴重な森林環境の理解の醸成を図るためには、異なる自然条件における森林の扱いを理解していただく必要がある。

このため、

- ・ 世界自然遺産地域に指定されている白神山地や屋久島、さらに遺産候補地である小笠原での活動とも連携した取組を推進する。

5 ビジョンの実現に向けた今後の具体的な取組

5-1 . 平成 20 年度以降の主な取組と工程

本ビジョンの実行に当たっては、知床における森林づくり活動に係る実行体制や様々な企画内容について、関係機関との意見・情報交換を行い連携しながら、具体的なプログラム・ツアーを企画・実施していくこととする。

平成 20 年度及び 21 年度以降の主な取組内容と工程、実行体制は、(別紙 1) に示すとおりである。

5-2 . 平成 20 年度に実施するツアー企画

平成 20 年 9 月 27 日(土)に実施予定の育樹祭(森林管理局と北海道の共催)にあわせ、育樹祭での森林づくり活動と東京農業大学オホーツクキャンパスでの森林講座や旭山動物園の動物講座等を組み合わせた、知床の自然を楽しく学ぶツアーを関係機関と連携しながら企画・実施する。

(企画案)

【日程】 9 月 26 日(金)～28 日(日)

【対象】 東京圏の一般市民 (10～40 名程度)

【その他】

- ・宿泊と交通費、参加費を含むパッケージツアーとして企画することを検討する。
- ・東京農業大学世田谷キャンパスの社会人講座を通じた募集、北海道環境財団等を通じた各種団体への呼びかけを行うとともに、インターネットや情報誌等を利用して効果的に PR する。
- ・参加者に対してアンケート調査を行い、次年度以降の企画へ反映させるための基礎資料とする。

5-3 . 「森林づくり活動」「森林環境教育」プログラム・ツアーの企画・検討例

平成 21 年度以降は、関係機関と連携し、(別紙 2) に示した企画・検討例を基に、参加者の形態や規模、設定するテーマ等にあわせて、知床における森林づくり活動及び森林環境教育活動のプログラム・ツアーの企画・実施を進めていくこととする。

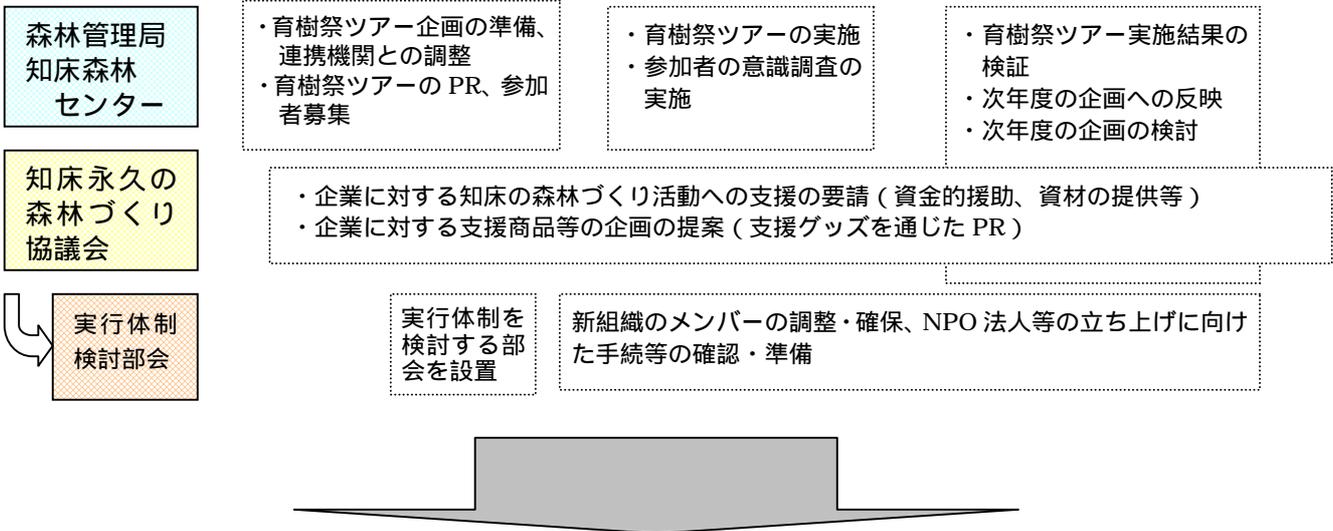
平成 20 年度及び 21 年度以降の主な取組内容と工程

平成 20 年度の主な取組内容

- ・関係機関と連携して、知床で実施する予定の育樹祭（森林管理局と北海道の共催）にあわせて、東京からのツアーを企画・実施
- ・企業の社会貢献活動としての知床の森林づくり活動への支援の提案・要請活動、支援商品（グッズ）等による支援の仕組みの検討・企業への協力要請を実施
- ・今後のツアー・プログラムの運営や支援を受け入れる新たな組織（NPO 法人等）の設立に向けた調整・準備

主な取組の行程

< 実行体制 > (4月)・・・(7月)・・・(9月)・・・(11月)・・・(1月)・・・(3月)・

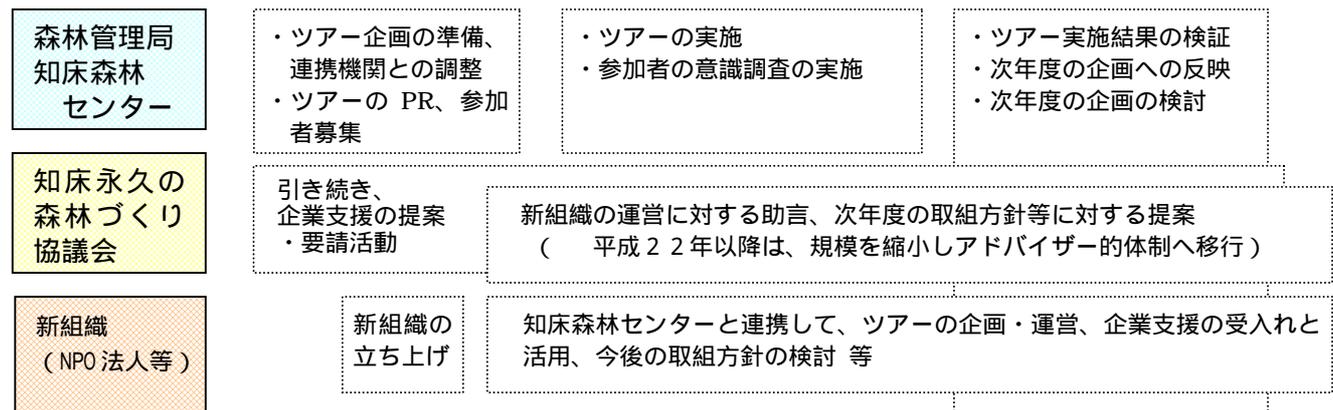


平成 21 年度以降の主な取組内容

- ・関係機関と連携して、企画・検討例（別紙 2）を基にプログラム・ツアーを企画・実施（知床森林センターがコーディネート役となり、新たな組織が運営していく。）
- ・企業支援の提案・要請活動を実施するとともに、企業支援等の受入れの本格化・定着化に取り組む（支援の受入先となる新たな組織を中心として、透明性を確保しながら寄付金等を活用していく。）

主な取組の行程

< 実行体制 > (4月)・・・(7月)・・・(9月)・・・(11月)・・・(1月)・・・(3月)・



(別紙2) 「森林づくり活動」「環境教育」プログラム・ツアーの企画・検討例

種別	森林づくり体験ツアー	森林づくり体験ツアー
ツアー名 プログラム名	1 知床・春茹古丹の森から～森林・川・海をつなぐ体験ツアー～	2 知床・秋の森林づくり活動と冬の流水ツアー～地球に優しい体験ツアー～
主な 参加対象	道内・道外の一般 20名程度 (主なターゲットはファミリー層)	道内・道外の一般 20名程度(主なターゲットは団塊世代)
コンセプト	森林づくりに参加して、多様な生き物が棲む春茹古丹の自然を育もう!	流水がもたらす知床の豊かな自然の中で、自分にできる地球に優しい取組を考えよう!
PRポイント	・笹地に森林を再生させる森林づくり活動に参加 ・春茹古丹川沿いの生態系豊かな森林の魅力を地元ガイドと共に体験 ・森林と川、羅臼の海・グルメそれぞれを楽しむ体験プログラム	・秋は、森林づくり活動と紅葉観賞ガイド付きツアーを通じて、森林づくりの意義や流水がもたらす知床の豊かな自然について学ぶ ・冬は、流水やおオワシの見学や森林内のカンジキウォークを体験、宿泊施設では、オホーツク流水トラストの取組を学び、個々でできる地球温暖化対策について考える
フィールド	春茹古丹川地区	秋:日の出林道沿人工林(又は金山川沿人工林)、野外スポーツ林、自然観察教育林 冬:オシンコシンの滝周辺天然林
開催時期 期間	夏休み期間中 8月(2泊3日) 秋の連休中 10月(2泊3日)	秋ツアー:9月(1泊2日) 冬ツアー:2月(1泊2日)
企画内容 の 具体例	[夏のプログラムテーマ～森林づくりと川の生き物探し～] 1日目 森林づくり活動(植樹体験の後には家族ごとに記念プレートを設置し記念撮影) 川遊び体験(地元ガイドの案内で春茹古丹川や森林に棲む虫や野鳥などを探すツアー、 森林と川と海の関係学ぶ) 2日目 海の体験(羅臼町の市場での競り見学、ホエールウォッチング等) グルメ(羅臼の海の幸) 3日目 フリー	秋ツアー「秋の知床・森林づくり活動と紅葉観賞ガイドツアー」 1日目:保育間伐作業を体験(知床での森林づくり活動の意義を学ぶ) 野外スポーツ林(夕陽台)とボランティア活動拠点施設の見学 2日目 自然観察教育林での紅葉観賞ガイド付きツアー(流水がもたらす知床の豊かな自然について学ぶ)
	[秋のプログラムテーマ～森林づくりと鮭の遡上見学～] 1日目 森林づくり活動(植樹体験の後には家族ごとに記念プレートを設置し記念撮影) 巨木めぐり(地元ガイドの案内で春茹古丹の巨木やキノコを探しながら散策するツアー、自然の推移による倒木更新など天然林のしくみを学ぶ) 2日目 海と川の体験(治山ダムの魚道、鮭の遡上の見学、さけますふ化場の見学等) グルメ(羅臼の海の幸) 3日目 フリー	冬ツアー「冬の知床・流水・オオワシ観察クルーズとカンジキウォーク体験」 1日目:知床博物館の見学、流水・オオワシ観察クルーズに参加 宿泊施設でオホーツク流水トラストの取組(旅館の室温設定の見直し等)を学ぶ (温泉湯たんぼサービスの利用など…) 2日目:オシンコシンの滝周辺天然林でのカンジキウォーク
参加募集 PR活動	・交通費・宿泊費・体験活動参加費を含むパッケージツアーを企画 ・夏休みと秋の連休の森林・川・海の体験ツアーとして旅行代理店等を通じてPR	・東京発の交通費、宿泊、講座参加費を含むパック料金を企画 ・団塊世代をターゲットとした2回セットのツアーとしてPR
その他	・苗木や道具等の調達や子供向けの参加記念グッズについて、企業等の協力が得られるよう、今後、支援の受入体制を整備した上で、支援を要請していく。 ・植樹の翌年以降は、下刈りなど保育活動に参加できるプログラムとして継続的に企画。 ・植栽地の成長の様子をHP又は通信などで参加者に伝えるしくみをつくる。 ・春茹古丹林道の奥は急斜面があり、マイクロバスが植栽地の手前までしか行けないため、林道を散策しながら植栽地に向かうプログラムを設定するなどの工夫が必要。	・それぞれの体験を通じて、森林づくりの指導スタッフや地元ガイド等から、森林づくり活動やトラスト運動の意義、流水がもたらす知床の自然の豊かさを伝えるとともに、参加者がツアー後も個々で取組める地球に優しい取組のアイディアなどを提案する。 ・地球に優しい取組を考えるツアーとして、企業の協力が得られるよう、支援の受け入れ体制を整備した上で、支援を要請していく。

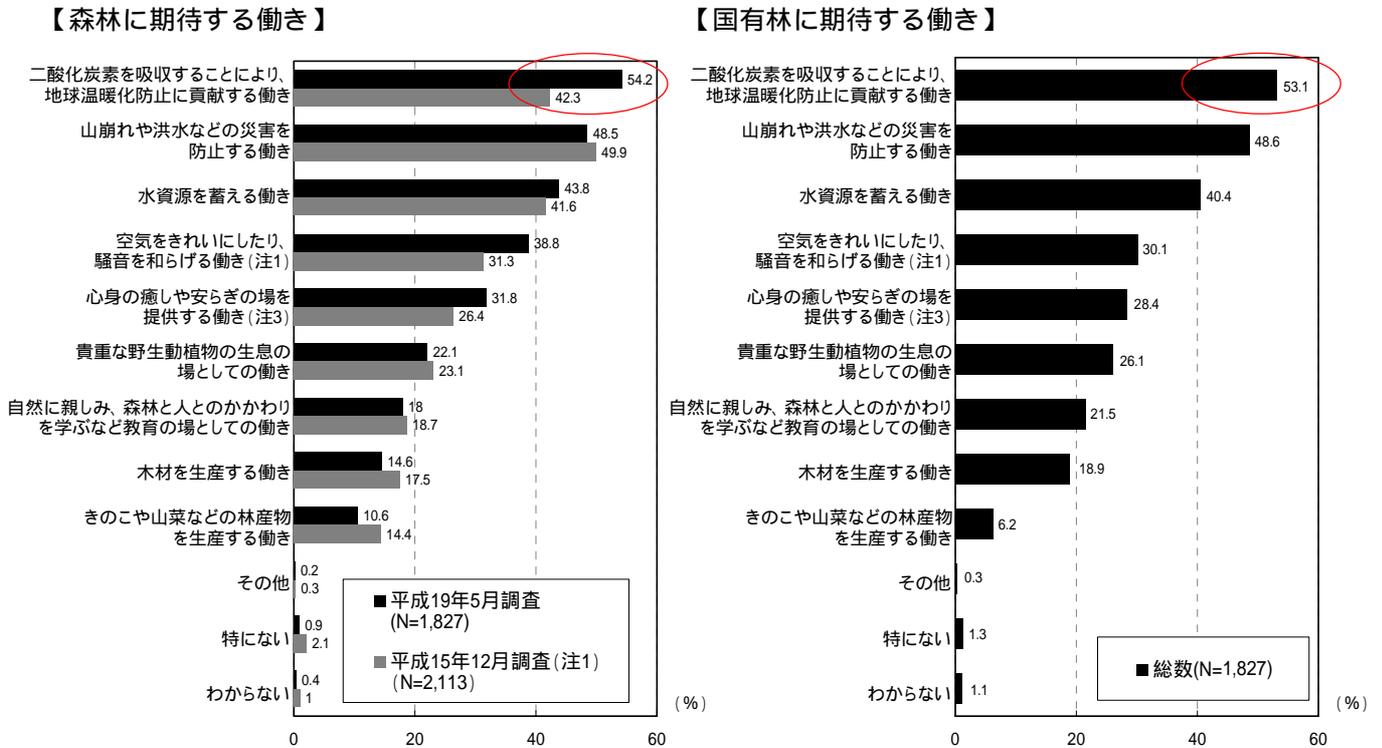
種別	森林環境教育プログラム 森林づくり活動プログラム	森林環境教育プログラム
ツアー名 プログラム名	3 知床の巨木を守ろう！～ 知床の森林のエゾシカ被害を学ぶ～	4 知床・樹木博士に挑戦！
主な 参加対象	児童・生徒・学生、社会人の団体	児童・生徒・学生、社会人の団体
コンセプト	エゾシカ被害防除巻き体験を通じて、森林のエゾシカ被害の問題を学ぶとともに、知床の巨木を保全する。	樹木博士の挑戦を通じて知床の森林の豊かさを学ぶ学習プログラム
PRポイント	・眺望のよいトレッキングコースを歩きながら、知床を代表する巨木や後継樹を守るためのエゾシカ被害防除ネット巻きを体験 ・学習の後は、森林を楽しむネイチャープログラムを実施	・知床の樹木の名前を覚えて「知床樹木博士」に認定。 ・葉の特徴を含めて識別する「夏テスト」と冬芽や樹皮だけで識別する「冬テスト」も実施 ・テストの後は、森林を楽しむネイチャープログラム
フィールド	イチイ林木遺伝資源保存林～オシンコシンの滝周辺天然林	オシンコシンの滝周辺天然林
開催時期 期間	6月～10月（1日）	夏テスト 6月～10月（1日） 冬テスト 12月～4月（1日）
企画内容 の 具体例	[知床の森林のトレッキングとエゾシカ被害防除ネット巻き体験] (1) 移動中の車内で、知床の森林の特徴についてレクチャー (2) 森林内のトレッキングコースで巨木や眺望を楽しみつつ、エゾシカ被害の状況を確認したり、エゾシカの角の実物に触れるなどエゾシカの問題について学習 (3) 5人一組程度のグループに分かれ、エゾシカ被害防除ネット巻きを体験 (エゾシカ被害を受けている巨木やその後継樹に防除ネットを巻きつける作業) (4) 終了後は、ネイチャーゲームなど森林を楽しむプログラムを実施	(1) オシンコシンの滝周辺天然林をフィールドとして、コースを設定 樹木の種類は30種程度を目標に選定し、プレートで表示 学習用コースとテスト用の認定コースを設置 知床の森林の特徴や樹木の覚え方を記した事前学習資料(夏版・冬版)を作成 認定コース用のテスト用紙を作成 (2) 事前学習資料は1週間前に学校に送付して、学校で予習 (3) 当日は、スタッフが知床の森林の特徴や樹木の覚え方のポイントをレクチャー レクチャー後は、学習用コースで30分程度の自己学習 (4) テストは、認定コースで実施 (コースを回りながらテスト用紙に樹木の名前を記入) (5) 知床森林センターで、テスト用紙を回収 正解数に応じて10級～3段の樹木博士認定証を発行 (認定基準: 1種類10級、2種類9級、3種類8級、4種類7級、5種類6級、6種類5級、7種類4級 8種類3級、9種類2級、10種類1級、11種類初段、20種類2段、30種類3段) (6) テスト終了後は、オシンコシンの滝の町道からの見学やアニマル・トラッキングなど森林を楽しむ ネイチャープログラムを実施
参加募集 PR活動	・教育委員会を通じて、環境教育や修学旅行等のプログラムとして、学校(学年・クラス)単位での参加を呼びかける。 ・HP等を通じて、社員研修等の一定規模の団体受入についてPRする。	・教育委員会を通じて、環境教育や修学旅行等として、学校単位での参加を呼びかける。 ・HP等を通じて、社員研修等の一定規模の団体受入についてPRする。
その他	・防除資材等の調達について、企業等の協力が得られるよう、今後、支援の受け入れ体制を整備した上で、支援を要請していく。	・事前学習資料やレクチャーで知床らしい森林生態系の特徴のポイントをプラス。 (資料は、知床森林センターで作成) ・樹木のプレート設置について、地元の専門家やボランティア、企業の協力が得られるよう、今後、支援の受け入れ体制を整備した上で、支援を要請していく。

種別	森林環境教育プログラム
ツアー名 プログラム名	5 羅臼町「望郷の森」を調べよう!
主な 参加対象	児童・生徒・学生
コンセプト	森林調査体験と巨木ツリーイング体験を通じて羅臼の自然を学ぶ学習プログラム
PRポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「望郷の森」天然林で、専用の調査道具を使って森林調査を体験 ・「望郷の森」散策路コースから海を眺望、森林と海が隣接する羅臼の自然の特徴を学ぶ ・学習の後は、天然林内に点在する巨木に登り野鳥の気分を体験
フィールド	望郷の森(羅臼町生活環境保全林)
開催時期 期間	6月～10月(1日又は半日)
企画内容 の 具体例	<p>[森林調査体験] 林内に点在するミズナラやダケカンバの巨木を見学 グループに分かれて、森林の調査を体験 グループごとにアドバイザーが付き、測定方法などを指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20m×50mで調査区域を設定。(区域内に巨木を含めるように配慮する) ・調査区域内の樹木の本数、樹木の種類を記録 ・調査区域内で一番大きな樹木の幹の太さ、高さ、葉や木肌などの特徴を記録 ・グループごとにまとめた記録を発表 <p>グループごとの結果から、「望郷の森」全体に何種類の樹木があり、何本の樹木があるのかを計算し、その結果を参加者に伝える</p> <p>[望郷の森散策と巨木ツリーイング] 散策路から海を眺望しながら、森林と海が隣接する羅臼の自然の特徴をレクチャー 森林内の巨木でツリーイング体験など森林を楽しむプログラムを実施</p>
参加募集 PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会を通じて、環境教育のプログラムとして、学校(学年・クラス)単位での参加を呼びかける。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・調査に必要な道具(輪尺、メジャー、測竿、樹木図鑑など)の調達について、地元企業等の協力が得られるよう、今後、支援の受け入れ体制を整備した上で、支援を要請していく。

資料編

参考データ（本文に引用した各種調査結果）

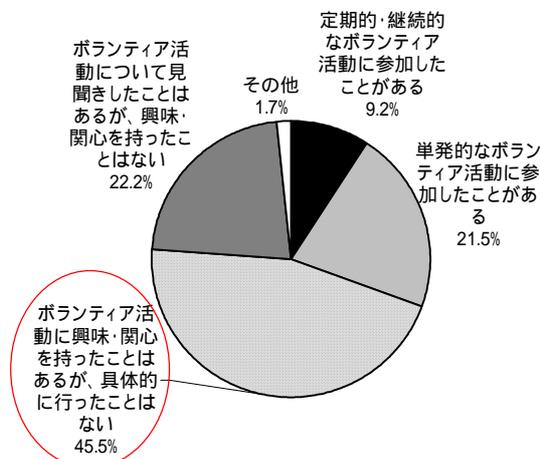
参考図表 1：森林に期待する働き及び国有林に期待する働き



(注1)平成15年12月調査では、「あなたは、今後、森林の働きに何を期待しますか」と聞いている。
 (注2)平成15年12月調査までは、「大気を浄化したり、騒音をやわらげる働き」となっている。
 (注3)平成15年12月調査では、「心身の癒しや安らぎ、レクリエーションの場を提供する働き」となっている。

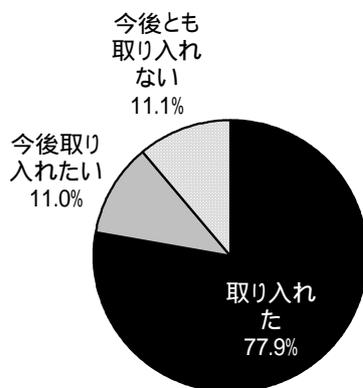
出所：平成19年「森林と生活に関する世論調査」(内閣府)

参考図表 2：最近5年間のボランティア活動の経験または興味・関心



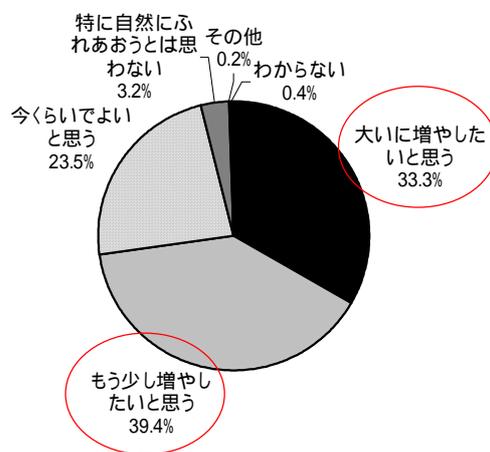
出所：平成16年「ボランティア活動を推進する社会的機運醸成に関する調査研究報告書」(文部科学省)

参考図表 3 : 平成 18 年度の修学旅行に体験学習を取り入れた学校数
 (N=2,660 : 全国の国公立中学校)



出所 : 平成 18 年度研究調査報告「修学旅行における体験学習について」
 ((財)全国修学旅行研究協会)

参考図表 4 : 自然とふれあう機会をもっとふやしたいと思うか



出所 : 平成 18 年「自然の保護と利用に関する調査」(内閣府)

知床（斜里町及び羅臼町）の森林の現況データ

1 国有林・民有林の割合

斜里町の森林面積のうち、87%が国有林で残り 13%が民有林、羅臼町の森林面積のうち、92%が国有林で残り 8%が民有林である。知床全体で見ると約 9 割が国有林で占められている。

国有林と民有林の面積（割合）

区 分	森林面積 (ha)	面積 (ha)	
		国有林 (ha)	民有林 (ha)
斜 里 町	57,319	49,794 (87%)	7,525 (13%)
羅 臼 町	37,922	34,918 (92%)	3,004 (8%)
合 計	95,241	84,712 (89%)	10,529 (11%)

注：北海道の網走東部地域森林計画書及び根釧根室地域森林計画書、北海道森林管理局の網走東部国有林の地域別の森林計画書及び根釧根室国有林の地域別の森林計画書の市町村別森林資源表による。

2 天然林・人工林の割合

斜里町の立木地（天然林と人工林の計）の 83%、羅臼町の立木地の 94%が天然林であり、知床全体でみると、立木地の約 9 割が天然林で占められている。

天然林と人工林の面積（割合）

区 分	森林面積 (ha)	無立木地 等 (ha)	立木地 (ha)			(人工林 の年齢級の ピーク*)	
			計	天然林			
				天然林	人工林		
斜里町	国有林	49,794	14,727	35,067	30,920 (88%)	4,147 (12%)	(9 年齢級)
	民有林	7,525	256	7,270	4,059 (56%)	3,211 (44%)	(8 年齢級)
	計	57,319	14,983	42,337	34,979 (83%)	7,358 (17%)	
羅臼町	国有林	34,918	10,080	24,838	23,844 (96%)	995 (4%)	(8 年齢級)
	民有林	3,004	131	2,872	2,233 (78%)	639 (22%)	(8 年齢級)
	計	37,922	10,211	27,710	26,077 (94%)	1,634 (6%)	
合 計	95,241	25,194	70,047	61,056 (87%)	2,273 (3%)		

注：1 北海道の網走東部地域森林計画書及び根釧根室地域森林計画書、北海道森林管理局の網走東部国有林の地域別の森林計画書及び根釧根室国有林の地域別の森林計画書の市町村別森林資源表による。

- 2 無立木地とは、伐採跡地及び未立木地、林地以外の土地である。
- 3 *の「年齢級ピーク」は各森林計画区全体の人工林の年齢級である。
- 4 四捨五入の関係で、計が合わないものがある。

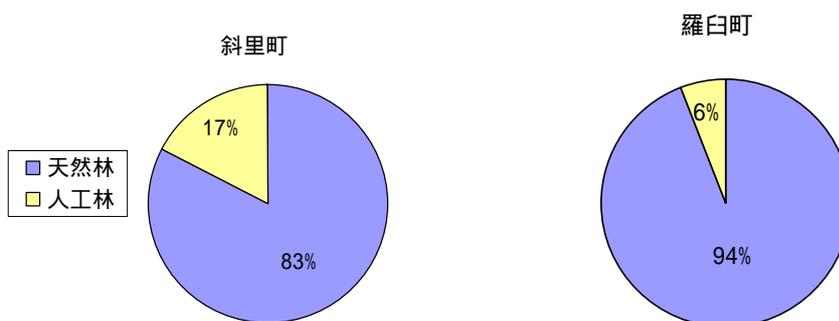


図 1 天然林と人工林の割合

3 知床世界自然遺産地域内の林相（国有林）

知床世界自然遺産地域内の針広混交林の割合は、斜里町では約 8 割、羅臼町では約 6 割、両町全体で見ると約 7 割と高い割合を占めている。また、遺産地域内と地域外の林相の傾向は、ほぼ同様となっている。

知床世界自然遺産地域内の林相

	世界自然遺産地域内				(参考) 地域外			
	立木地 面積 (ha)	内訳 (ha)			立木地 面積 (ha)	内訳 (ha)		
		広葉樹 林	針広混 交林	針葉樹 林		広葉樹 林	針広混 交林	針葉樹 林
斜里町	10,510	1,330 (13%)	8,782 (84%)	398 (4%)	24,557	1,545 (6%)	18,803 (77%)	4,210 (17%)
羅臼町	7,279	2,440 (34%)	4,261 (59%)	579 (8%)	17,560	9,182 (52%)	7,383 (42%)	995 (6%)
合計	17,789	3,770 (21%)	13,043 (73%)	977 (6%)	42,117	10,727 (25%)	26,186 (62%)	5,205 (12%)

注：1 北海道森林管理局業務資料による。
2 四捨五入の関係で、計が合わないものがある。

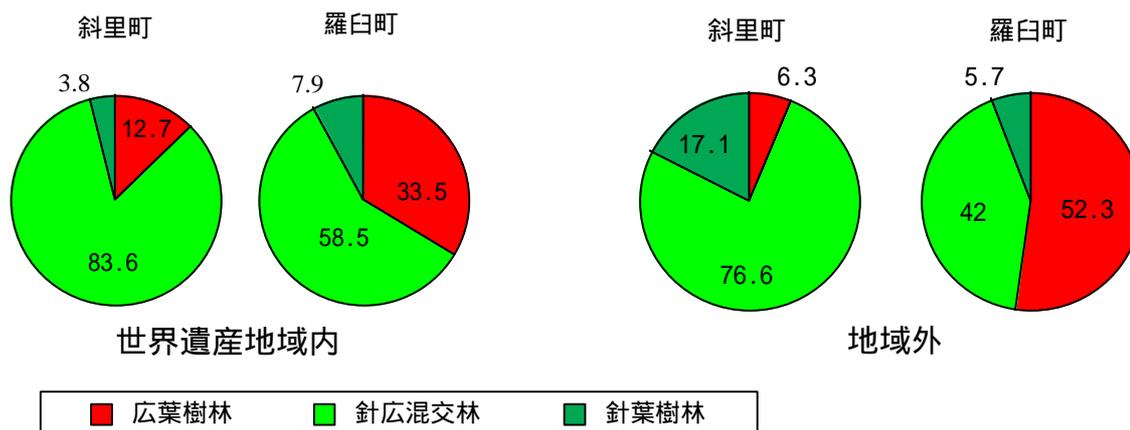


図 2 林相別の森林面積割合 (世界遺産地域内と地域外)

注：図中の数字は面積割合を示す

4 主要樹種の面積割合 (%)

人工林では、主にトドマツとアカエゾマツが植えられている。

また、天然林の主要樹種を見ると、斜里町、羅臼町ともにダケカンバ、トドマツ、エゾマツの割合が高い。

人工林の主要樹種の面積割合

人工林 (樹種)	斜里町 (人工林面積：4,147ha)	羅臼町 (人工林面積：994.5ha)
トドマツ	50.8 %	56.9 %
アカエゾマツ	31.5 %	42.9 %
カラマツ	15.7 %	0 %

注：1 北海道森林管理局業務資料による。

天然林の主要樹種の面積割合

天然林 (樹種)		斜里町 (天然林面積：30,920ha)	羅臼町 (天然林面積：23,844ha)
針葉樹	トドマツ	33.0	19.6
	エゾマツ	8.5	9.8
	アカエゾマツ	0	0.8
	イチイ	0.6	0
広葉樹	ダケカンバ	20.4	44.1
	ミズナラ	12.4	0.6
	シナノキ	3.0	0
	イタヤカエデ	0.7	0
	その他広葉樹	20.2	24.5

注：1 北海道森林管理局業務資料による。

活動フィールドの現地調査結果 (一覽)

番号	町名	フィールド名	所有	アクセス			駐車場	人工林	森林づくり			環境教育					備考		
				マイクロバス	普通車	四駆車両			植樹	保育	シカ対策	針広混交	高山植物	巨木	浅い沢	サケ遡上		ワシ類	散策路等
	羅臼	春茹古丹林道	国有林	×											沢			H20以降植栽予定(治山)	
		精神川林道	国有林 町有林	×															地すべり工事跡地
		望郷の森	町有林																
		ざいもく岩環境防災林	町有林																クジラ観察が可能
		熊越の滝	国有林													沢			
		英嶺山	国有林																
		羅臼温泉歩道	国有林																
		羅臼湖	国有林																
	斜里	日の出林道	国有林													滝			H20育樹祭候補地
		金山川河口	国有林																
		オンネベツ川 (真鯉林道)	国有林	×	×	×	×												
		オペケブ林道	国有林																
		チャラッセナイ林道 (オペケブ林道分岐)	国有林	×															
		オシンコシンの滝周 辺天然林	国有林 町有林																H21歩道整備予定地
		イチイ林木遺伝資源 保存林	国有林	×															
		宇登呂林道	国有林	×															
		知床森林スポーツ林 (国設知床野営場)	国有林																ツリーイング可能
		知床自然観察教育林 (ボンホロ沼)	国有林													沼			



青色斜線部は人工林(国有林)

1. 調査の内容

(1) 目的

首都圏の都市住民および道民における知床半島の森林と森林づくり活動に対する関心や、どのような森林づくりへの参加形態を望んでいるのか、などの意向を把握し、今後、知床における多様な主体の参加による森林づくり活動を促す仕組みを検討するにあたっての参考資料とする。

(2) 調査方法

方法	インターネットアンケート調査
対象	・首都圏(1都3県)の都市住民 ・北海道内在住者
実施	平成17年11月8日～9日

首都圏、北海道それぞれについて、「知床を訪れたことがある人」、「訪れたことがない人」のサンプル数およびその中の「10・20代」、「30代」、「40代」、「50代以上」の各年代のサンプル数が同程度となるよう回収を行った

(3) 設問の内容

項目	設問
1. 日頃の森林の利用について	・過去1年間に仕事以外で森林や山に行ったかどうか(行った回数) ・森林や山に行った目的 ・直近で行った森林や山までの距離
2. 森林や緑を守るボランティア活動の経験および今後の参加意向	・ここ数年間での森林や緑を守るためのボランティア活動の参加経験 ・今後の参加意向
3. 知床を訪れたことがある人の旅行動向	・訪問回数 ・訪問時期(遺産登録の前後) ・知床を訪れた目的 ・滞在日数 ・旅行の企画や手配の手段
4. 知床への今後の訪問意向	・今後、行ってみたいかどうか(行ってみたい理由、行きたくない理由)
5. 知床の森林についてのイメージ・印象	・知床の森林のイメージ・印象 ・将来にわたり知床にどのような森林があってほしいか
6. 知床における森林づくり活動について	・知床の森林づくりに参加するとしたら、どのような方法で参加してみたいか ・知床の森林づくり活動を魅力あるものにするために必要と思うこと ・知床における長期・継続的な森林づくり活動のために力を入れるべきこと

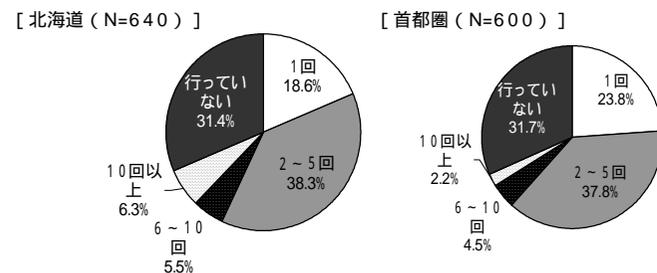
2. 結果概要

(1) 日頃の森林の利用について

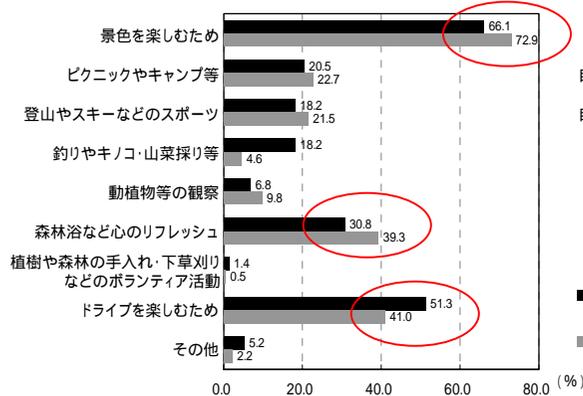
北海道、首都圏の住民とも過去1年間に山や森林に仕事以外で行ったという人は全体の約7割となり、頻度としては、「2～5回」が約4割、「1回」が約2割となっている。目的としては、「景色を楽しむため」、「ドライブを楽しむため」、「森林浴などの心のリフレッシュ」などが多い。

森林や山に行く場合、自宅からどのくらいの距離にある場所に行くかをみると、北海道では「自宅から1～3時間未満」あるいは「自宅から1時間未満」にある比較的近い場所に行く人がほとんどだが、首都圏では周囲に自然が少ないこともあり、自宅から3時間以上かかる場所まで行く人も多い。

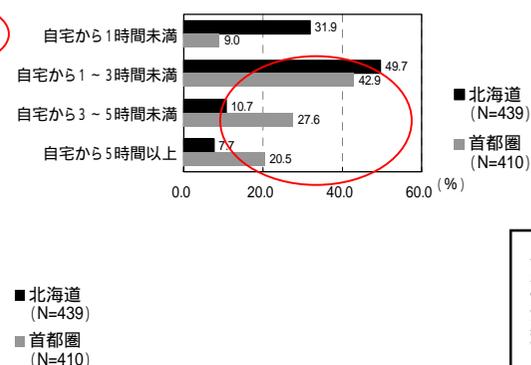
図表(1)-1 過去1年間に仕事以外で森林や山に行った回数



図表(1)-2 森林や山に行った目的(複数回答)



図表(1)-3 直近で行った森林や山までの距離



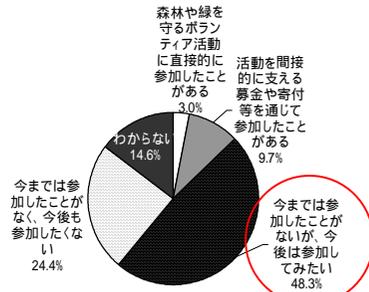
(4) 回答者の概要

	北海道	首都圏	計
全体	640	600	1240
男性	306	304	610
10・20代	60	63	123
30代	77	59	136
40代	85	80	165
50代以上	84	102	186
女性	334	296	630
10・20代	100	87	187
30代	83	91	174
40代	75	70	145
50代以上	76	48	124

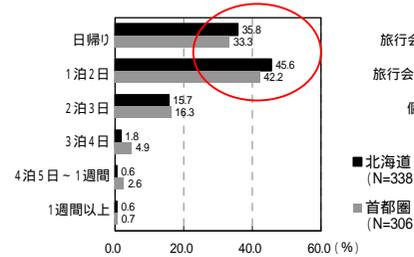
(2) 森林や緑を守るボランティア活動の経験および今後の参加意向

森林や緑を守るボランティア活動に直接的に参加、または募金や寄付等を通じて間接的に参加したという人は、約1割となっている。
一方、「今まで参加したことはないが、今後は参加してみたい」が約5割と今後、参加してみたいと思っている人も多い。

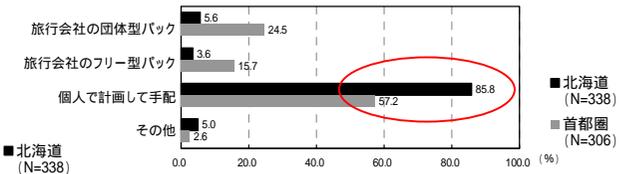
図表(2)-1 森林や緑を守るボランティア活動の経験および今後の参加意向



図表(3)-1 滞在日数



図表(3)-2 旅行の企画や手配の手段



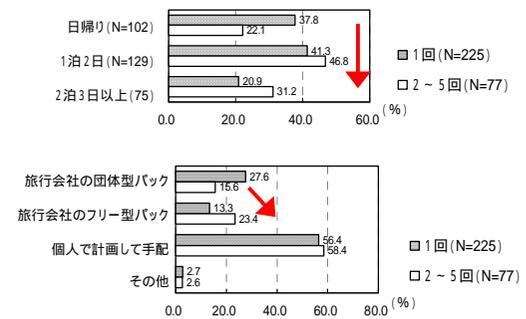
(3) 知床を訪れたことがある人の旅行動向

知床に訪問したことがある人に対し、その旅行形態や目的について尋ねた。(回答者は、年齢が高くなるにつれ、遺産登録以前に訪れた人が大半を占める) 北海道、首都圏ともに知床への滞在は「日帰り」「1泊2日」の人が8割近くを占める。北海道の場合、「個人で計画して手配」が約8割、首都圏住民の場合、「個人で計画して手配」が約6割、旅行会社のパックを利用した人が約4割となっている。知床を訪れた目的としては、「景色を楽しむため」「観光スポットを訪れるため」が多く、日帰り客に対して宿泊客ではそれに「温泉」(道内では13.2% 47.4%と大きく増加)が加わるとともに、「登山や自然散策」などの活動がみられる。

《訪問回数による旅行形態の違い》

首都圏住民でみると、初めて訪問した人に対して、何度か訪問経験がある人では、日帰りから宿泊へ移行し、パック旅行の場合も団体ツアーではなくフリー型を利用している傾向がみられる

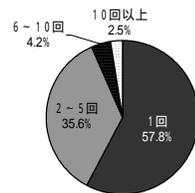
図表(3)-3 首都圏住民における訪問回数別の旅行形態



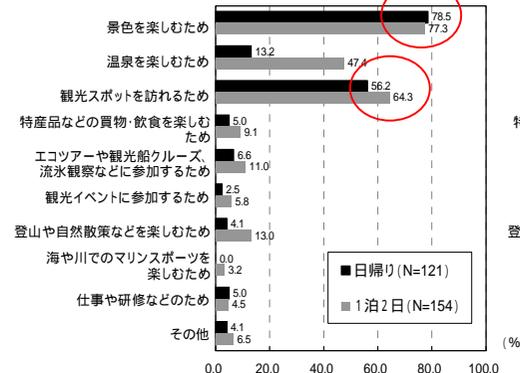
図表(3)-4 知床を訪れた目的 (複数回答)

[知床に訪問したことがある回答者の概要 -訪問時期(遺産登録前後)と訪問回数]

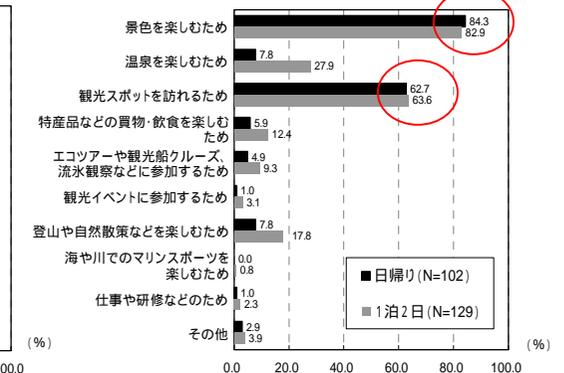
	登録される前		登録された後		登録される前と登録された後	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
北海道 (N=338)						
10~20代 (N=80)	47	58.8	12	15.0	21	26.3
30代 (N=85)	59	69.4	8	9.4	18	21.2
40代 (N=85)	58	68.2	7	8.2	20	23.5
50代 (N=88)	76	86.4	5	5.7	7	8.0
首都圏 (N=306)						
10~20代 (N=77)	48	62.3	25	32.5	4	5.2
30代 (N=75)	56	74.7	15	20.0	4	5.3
40代 (N=77)	66	85.7	6	7.8	5	6.5
50代 (N=77)	60	77.9	7	9.1	10	11.4



[北海道 (N=275)]



[首都圏 (N=231)]



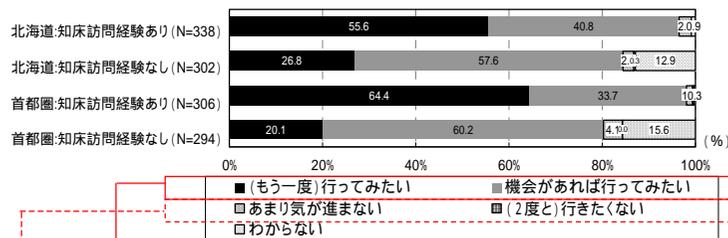
(4) 知床への今後の訪問意向

「今後、知床に行ってみたいですか」と尋ねたところ、知床を訪れた人では「もう一度行ってみたい」が半数以上、「機会があれば行ってみたい」を合わせると約9割となっている。知床を訪れたことがない人では2~3割の人が「行ってみたい」、5~6割の人が「機会があれば行ってみたい」と答えている。

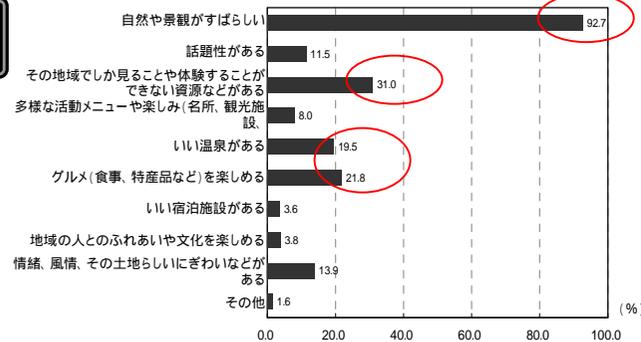
知床に「行ってみたい」理由としては、「自然や景観が素晴らしい」が約9割と最も高く、次いで「その地域でしか見ることや体験することができない資源などがある」が約3割となっている。

一方、「行きたくない」理由として「目的地までが遠い」が多くあげられている。

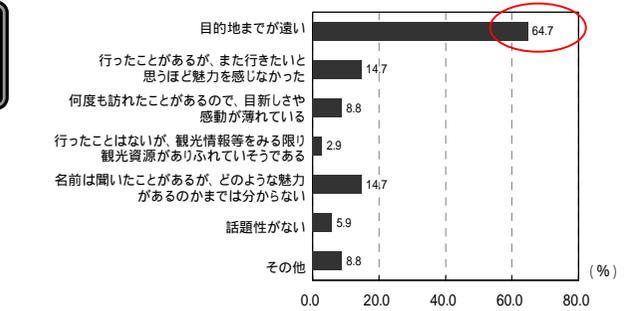
図表(4)-1 知床への訪問意向 (北海道・首都圏/知床訪問経験別)



行ってみたい理由
(N=1,117)



気がすまない、行きたくない理由
(N=34)



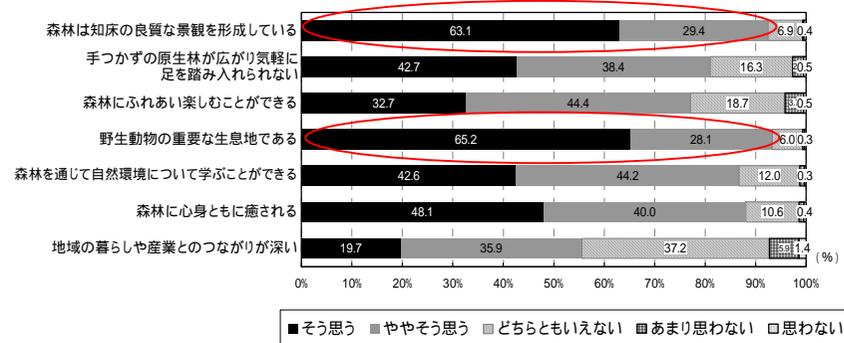
(5) 知床の森林についてのイメージ・印象

知床の森林についてのイメージ・印象を尋ねたところ、「そう思う」の割合が高い項目として「知床の良質な景観を形成している」、「野生動物の重要な生息地である」となっている。これを受けて、将来にわたり知床にどんな森林があってほしいかの問いに対して、「良好な景観を形成する森林」、「貴重な動植物や野生動物の成育環境が保護されている森林」の割合が高くなっている。

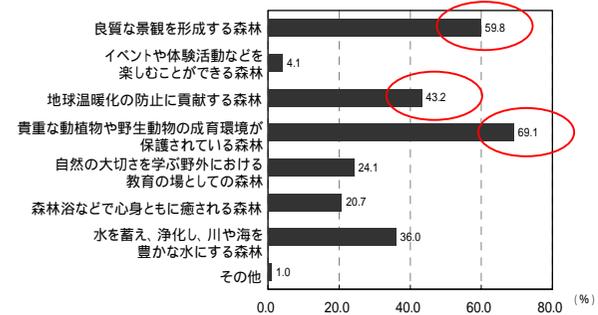
また、それらに次いで「地球温暖化の防止に貢献する森林」、「水を蓄え、浄化し、川や海を豊かな水にする森林」といった森林の有する機能が発揮される項目の割合が高くなっている。

世界自然遺産ということもあり、森林に関しては、そのイメージにふさわしい景観を形成する、また、その貴重な価値が認められている動植物等の保護などに対する関心の高さがうかがえる。

図表(5)-1 知床の森林のイメージ・印象



図表(5)-2 将来にわたり知床にどのような森林があってほしいか (複数回答)



(6) 知床における森林づくり活動について

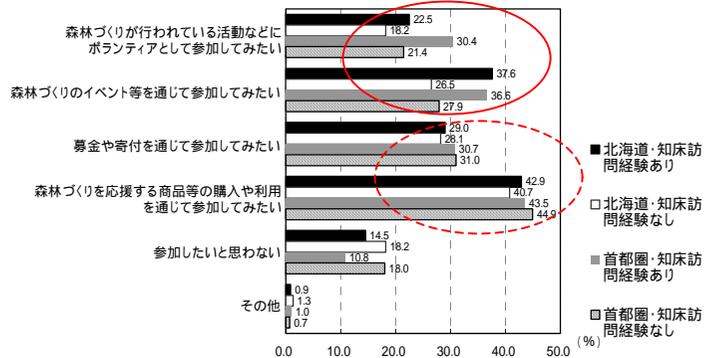
【知床の森林づくり活動に参加するとしたらどのような方法で参加したいか】

知床を訪れたことがある人もない人も、何らかのかたちで「参加してみたい」との意向を示しており、「参加したいと思わない」は10～20％となっている。

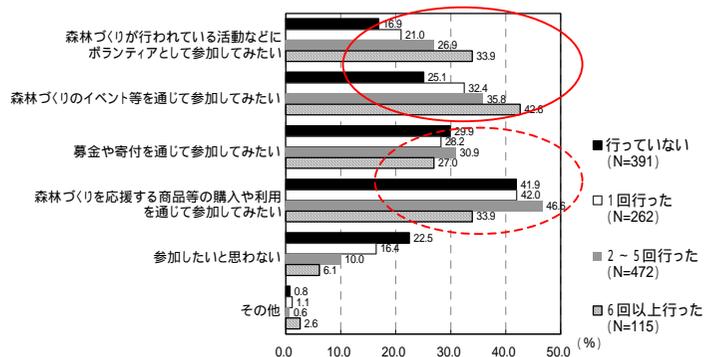
知床訪問経験のある人に対して、ない人では「森林づくりが行われている活動などにボランティアとして参加」、「森林づくりのイベント等を通じて参加」といった直接的な参加を選択する割合が低くなっているが、「募金や寄付を通じて」、「森林づくりを応援する商品等の購入や利用を通じて」間接的に参加する方法では、訪問経験に関らず同程度の割合で選択されている。

普段から森林や山に行く人と行かない人とでみると、よく行く人では直接的な参加を選択する割合が高く、行かない人ほど低くなっているが、間接的な参加（特に商品等の購入を通じた参加）に関しては、森林や山にあまり行かない人でも参加意向がみられる。

図表(6)-1 A-知床の森林づくりに参加するとしたら、どのような方法で参加してみたいか (複数回答：北海道・首都圏/知床訪問経験別)



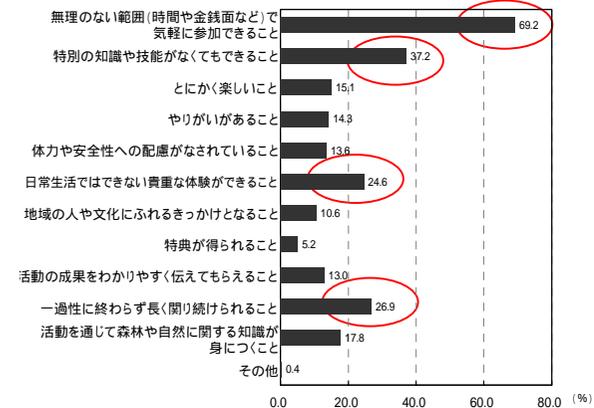
図表(6.)-2 B-知床の森林づくりに参加するとしたら、どのような方法で参加してみたいか (複数回答：過去1年間に森林や山に行った頻度別)



【知床の森林づくり活動を魅力あるものにするために必要と思うこと】

知床の立地が本州および道内においてもアクセスが困難なこともあり、「無理のない範囲（時間や金銭面など）で気軽に参加できること」が最も高く、次いで「特別の知識や技能がなくてもできること」、「一過性に終わらず長く関り続けられること」、「日常生活ではできない貴重な体験ができること」などとなっている。

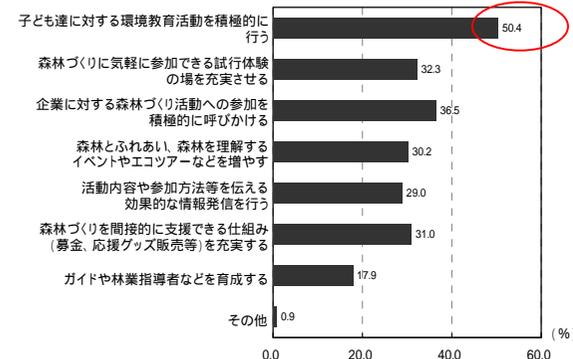
図表(6)-3 知床の森林づくり活動を魅力あるものにするために必要なこと (複数回答)



【知床における長期・継続的な森林づくり活動のために力を入れるべきこと】

「子ども達に対する環境教育活動を積極的に行う」が約50%と最も多いほか、「企業に対する森林づくり活動への参加を積極的に呼びかける」などが求められている。

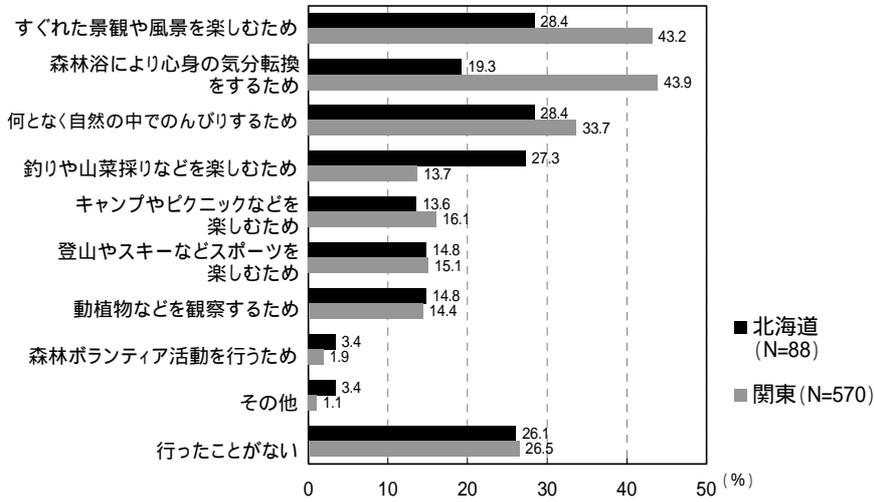
図表(6)-4 知床における長期・継続的な森林づくり活動のために力を入れるべきこと (複数回答)



1. 平成19年「森林と生活に関する世論調査」(内閣府)

森林の利用(ここ1年間くらいの間主にどのような目的をもって、山や森などへ行きましたか)

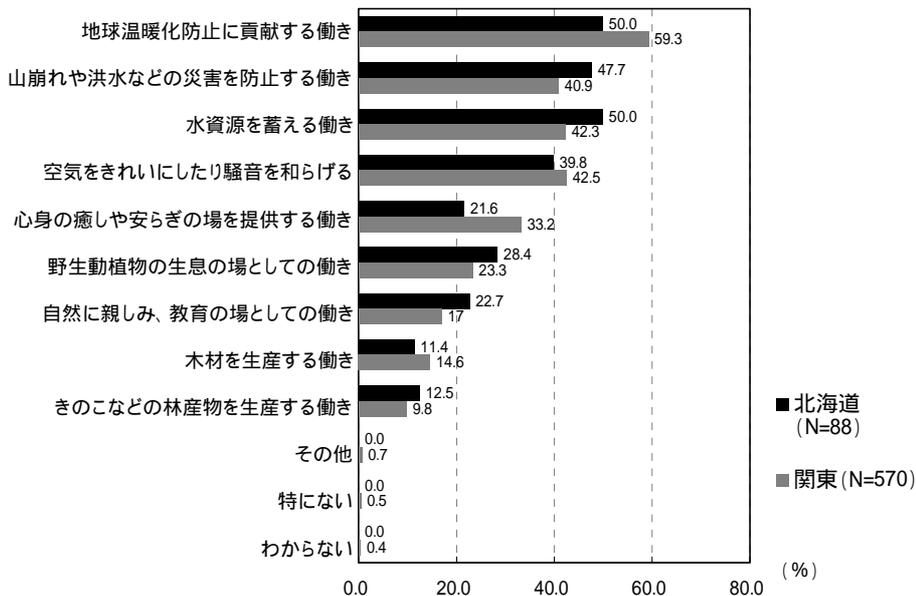
地域別(北海道・関東)



年齢別

	該当者数	すぐれた景観や風景を楽しむため	森林浴により心身の気分転換をするため	何となく自然の中でのんびりするため	釣りや山菜採りなどを楽しむため	キャンプやピクニックなどを楽しむため	登山やスキーなどスポーツを楽しむため	動植物などを観察するため	森林ボランティア活動を行うため	その他	行ったことがない
20～29歳	170	37.1	28.8	37.1	15.3	24.7	25.9	7.6	1.2	-	24.7
30～39歳	297	36.4	33.3	32.0	15.8	30.3	19.9	12.5	3.0	0.3	21.5
40～49歳	317	37.9	37.5	31.5	15.5	21.8	17.7	10.4	1.9	0.9	22.1
50～59歳	390	42.8	43.8	34.1	22.8	10.3	9.7	13.1	3.1	1.0	25.1
60～69歳	352	42.0	42.0	31.0	25.0	11.4	8.8	15.9	2.8	1.4	25.9
70歳以上	301	29.6	29.6	18.3	14.0	7.6	3.0	12.6	4.7	4.7	44.2

森林に期待する働き



2. 予備調査 (WEB 調査による知床訪問経験者の年代別出現率)

札幌圏 [N=818]

	10・20代	30代	40代	50代
サンプル数	220	200	200	198
1年以内	24	12	14	14
3年以内	21	32	17	25
5年以内	11	13	16	19
6年以上前	23	47	74	69
覚えていない	10	2	8	5
わからない	0	0	1	0
全体(積み上げ)	99	106	130	132
出現率	0.45	0.53	0.65	0.67

首都圏 [N=876]

	10・20代	30代	40代	50代
サンプル数	276	200	200	200
1年以内	13	6	6	13
3年以内	11	7	11	15
5年以内	4	3	4	7
6年以上前	10	19	43	40
覚えていない	1	0	2	0
わからない	0	0	0	0
全体(積み上げ)	39	35	66	75
出現率	0.14	0.18	0.33	0.38

3. 集計結果表

(Q1) 森林や山に行った目的 [× 知床訪問経験・性別・年代別]

		調査数	景色を楽しむため	ピクニックやキャンプ等	登山やスキーなどのスポーツ	釣りやキノコ・山菜採り等	動植物等の観察	森林浴など心のリフレッシュ	植樹や森林の手入れ・下草刈りなどのボランティア活動	ドライブを楽しむため	その他
知床訪問経験あり	北海道全体	274	72.3	20.1	19.7	18.2	7.3	31.4	1.1	55.8	5.8
	男性	138	66.7	26.1	21.7	24.6	7.2	27.5	1.4	58.0	5.1
	女性	136	77.9	14.0	17.6	11.8	7.4	35.3	0.7	53.7	6.6
	首都圏全体	244	77.0	23.4	21.3	4.9	11.5	39.8	0.4	40.2	1.6
	男性	135	72.6	23.0	27.4	5.9	11.1	37.8	0.0	44.4	1.5
	女性	109	82.6	23.9	13.8	3.7	11.9	42.2	0.9	34.9	1.8
知床訪問経験なし	北海道全体	165	55.8	21.2	15.8	18.2	6.1	29.7	1.8	43.6	4.2
	男性	85	51.8	24.7	18.8	24.7	8.2	25.9	3.5	43.5	2.4
	女性	80	60.0	17.5	12.5	11.3	3.8	33.8	0.0	43.8	6.3
	首都圏全体	166	66.9	21.7	21.7	4.2	7.2	38.6	0.6	42.2	3.0
	男性	72	56.9	23.6	22.2	8.3	12.5	37.5	1.4	40.3	2.8
	女性	94	74.5	20.2	21.3	1.1	3.2	39.4	0.0	43.6	3.2

		調査数	景色を楽しむため	ピクニックやキャンプ等	登山やスキーなどのスポーツ	釣りやキノコ・山菜採り等	動植物等の観察	森林浴など心のリフレッシュ	植樹や森林の手入れ・下草刈りなどのボランティア活動	ドライブを楽しむため	その他
知床訪問経験あり	北海道全体	274	72.3	20.1	19.7	18.2	7.3	31.4	1.1	55.8	5.8
	10・20代	65	75.4	10.8	23.1	7.7	7.7	27.7	0.0	56.9	0.0
	30代	71	69.0	26.8	26.8	22.5	9.9	32.4	0.0	62.0	8.5
	40代	71	70.4	28.2	11.3	14.1	5.6	35.2	0.0	59.2	9.9
	50代以上	67	74.6	13.4	17.9	28.4	6.0	29.9	4.5	44.8	4.5
	首都圏全体	244	77.0	23.4	21.3	4.9	11.5	39.8	0.4	40.2	1.6
	10・20代	42	86.4	19.7	13.6	3.0	13.6	37.9	0.0	36.4	1.5
	30代	45	79.4	31.7	22.2	3.2	9.5	44.4	0.0	44.4	1.6
	40代	37	62.3	18.0	29.5	6.6	8.2	29.5	1.6	42.6	1.6
	50代以上	41	79.6	24.1	20.4	7.4	14.8	48.1	0.0	37.0	1.9
知床訪問経験なし	北海道全体	165	55.8	21.2	15.8	18.2	6.1	29.7	1.8	43.6	4.2
	10・20代	66	57.1	26.2	21.4	11.9	2.4	21.4	2.4	38.1	4.8
	30代	63	55.6	20.0	20.0	6.7	2.2	26.7	0.0	53.3	2.2
	40代	61	56.8	24.3	8.1	21.6	8.1	40.5	0.0	45.9	2.7
	50代以上	54	53.7	14.6	12.2	34.1	12.2	31.7	4.9	36.6	7.3
	首都圏全体	166	66.9	21.7	21.7	4.2	7.2	38.6	0.6	42.2	3.0
	10・20代	44	63.6	20.5	13.6	0.0	4.5	36.4	0.0	45.5	6.8
	30代	48	72.9	25.0	29.2	4.2	4.2	39.6	0.0	43.8	2.1
40代	36	61.1	22.2	25.0	5.6	5.6	38.9	0.0	50.0	2.8	
50代以上	38	68.4	18.4	18.4	7.9	15.8	39.5	2.6	28.9	0.0	

(Q2) 過去1年間に仕事以外で森林や山に行った回数 [× 知床訪問経験・性別、年代別]

		調査数	1回	2 } 5回	6 } 10回	10回以上	行っていない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	20.1	46.4	7.4	7.1	18.9
	男性	166	18.7	45.2	9.6	9.6	16.9
	女性	172	21.5	47.7	5.2	4.7	20.9
	首都圏全体	306	23.5	46.7	6.2	3.3	20.3
	男性	168	18.5	52.4	6.6	3.0	19.6
知床訪問経験なし	北海道全体	302	16.9	29.1	3.3	5.3	45.4
	男性	140	18.6	29.3	5.0	7.9	39.3
	女性	162	15.4	29.0	1.9	3.1	50.6
	首都圏全体	294	24.1	28.6	2.7	1.0	43.5
	男性	136	21.3	25.7	5.2	0.7	47.1
女性	158	26.6	31.0	0.6	1.3	40.5	

		調査数	1回	2 } 5回	6 } 10回	10回以上	行っていない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	20.1	46.4	7.4	7.1	18.9
	10・20代	80	25.0	47.5	5.0	3.8	18.8
	30代	85	15.3	52.9	10.6	4.7	16.5
	40代	85	21.2	43.5	10.6	8.2	16.5
	50代以上	88	19.3	42.1	3.4	11.4	23.9
	首都圏全体	306	23.5	46.7	6.2	3.3	20.3
	10・20代	77	27.3	53.3	5.2	0.0	14.3
	30代	75	20.0	54.7	6.7	2.7	16.0
	40代	77	26.0	40.3	2.6	10.4	20.8
	50代以上	77	20.8	39.0	10.4	0.0	29.9
知床訪問経験なし	北海道全体	302	16.9	29.1	3.3	5.3	45.4
	10・20代	80	13.8	33.8	1.3	3.8	47.5
	30代	75	25.3	29.3	2.7	2.7	40.0
	40代	75	10.7	26.7	6.7	5.3	50.7
	50代以上	72	18.1	26.4	2.8	9.7	43.1
	首都圏全体	294	24.1	28.6	2.7	1.0	43.5
	10・20代	73	32.9	24.7	1.4	1.4	39.7
	30代	75	20.0	38.7	2.7	2.7	36.0
	40代	73	19.2	26.0	4.1	0.0	50.7
	50代以上	73	24.7	24.7	2.7	0.0	48.0

(Q3) 直近で行った森林や山までの距離 [× 知床訪問経験・性別、年代別]

		調査数	自宅 未 満 か ら 1 時	3 自 宅 間 か ら 未 満 1 }	5 自 宅 間 か ら 未 満 3 }	間 自 宅 上 か ら 5 時
知床訪問経験あり	北海道全体	274	28.8	46.4	14.2	10.6
	男性	138	29.7	45.7	15.9	8.7
	女性	136	27.9	47.1	12.5	12.5
	首都圏全体	244	7.0	42.6	25.0	25.4
	男性	135	7.4	45.9	24.4	22.2
知床訪問経験なし	北海道全体	165	37.0	55.2	4.8	3.0
	男性	85	35.3	57.6	3.5	3.5
	女性	80	38.8	52.5	6.3	2.5
	首都圏全体	166	12.0	43.4	31.3	13.3
	男性	72	16.7	37.5	33.3	12.5
女性	94	8.5	47.9	29.8	13.8	

		調査数	自宅 未 満 か ら 1 時	3 自 宅 間 か ら 未 満 1 }	5 自 宅 間 か ら 未 満 3 }	間 自 宅 上 か ら 5 時
知床訪問経験あり	北海道全体	274	28.8	46.4	14.2	10.6
	10・20代	65	33.8	27.7	16.9	21.5
	30代	71	18.3	56.3	15.5	9.9
	40代	71	26.8	50.7	12.7	9.9
	50代以上	67	37.3	49.3	11.9	1.5
	首都圏全体	244	37.0	55.2	4.8	3.0
	10・20代	66	10.6	40.9	21.2	27.3
	30代	63	3.2	38.1	25.4	33.3
	40代	61	8.2	49.2	27.9	14.8
	50代以上	54	5.6	42.6	25.9	25.9
知床訪問経験なし	北海道全体	165	37.0	55.2	4.8	3.0
	10・20代	42	31.0	57.1	9.5	2.4
	30代	45	42.2	48.9	6.7	2.2
	40代	37	43.2	56.8	0.0	0.0
	50代以上	41	31.7	58.5	2.4	7.3
	首都圏全体	166	12.0	43.4	31.3	13.3
	10・20代	44	15.9	47.7	20.5	15.9
	30代	48	10.4	43.8	29.2	16.7
	40代	36	13.9	38.9	41.7	5.6
	50代以上	38	7.9	42.1	36.8	13.2

(Q4) 森林や緑を守るボランティア活動の経験および今後の参加意向 [× 知床訪問経験・性別、年代別]

	調査数	がある	がある	活動を間接的に支える募金や寄付等を通じて参加したこと	が、今後は参加してみたい	く、今後は参加したくない	わからぬ
知床訪問経験あり	北海道全体	338	3.5	9.4	51.4	24.2	11.2
	男性	166	5.4	9.0	48.7	25.9	10.8
	女性	172	1.7	9.8	54.0	22.6	11.6
	首都圏全体	306	3.5	11.1	53.9	19.2	13.7
	男性	168	4.1	7.1	54.1	19.6	16.0
	女性	138	2.8	15.9	53.6	18.8	10.8
知床訪問経験なし	北海道全体	302	2.9	8.9	43.7	27.1	18.5
	男性	140	2.1	4.2	43.5	30.7	20.0
	女性	162	3.7	12.9	43.8	24.0	17.2
	首都圏全体	294	2.0	9.5	45.5	27.8	15.9
	男性	136	0.7	8.0	44.8	28.6	18.3
	女性	158	3.1	10.7	46.2	27.2	13.9

	調査数	がある	がある	活動を間接的に支える募金や寄付等を通じて参加したこと	が、今後は参加してみたい	く、今後は参加したくない	わからぬ
知床訪問経験あり	北海道全体	338	3.5	9.4	51.4	24.2	11.2
	10・20代	80	2.5	11.2	55.0	21.2	10.0
	30代	85	2.3	5.8	58.8	21.1	11.7
	40代	85	2.3	11.7	50.5	18.8	16.4
	50代以上	88	6.8	9.0	42.0	35.2	6.8
	首都圏全体	306	3.5	11.1	53.9	19.2	13.7
	10・20代	77	5.1	12.9	59.7	10.3	12.9
	30代	75	5.3	13.3	58.6	13.3	13.3
	40代	77	1.2	10.3	48.0	28.5	11.6
	50代以上	77	2.5	7.7	49.3	24.6	16.8
知床訪問経験なし	北海道全体	302	2.9	8.9	43.7	27.1	18.5
	10・20代	80	3.7	8.7	50.0	27.5	11.2
	30代	75	1.3	10.6	48.0	22.6	17.3
	40代	75	4.0	8.0	41.3	26.6	22.6
	50代以上	72	2.7	8.3	34.7	31.9	23.6
	首都圏全体	294	2.0	9.5	45.5	27.8	15.9
	10・20代	73	4.1	17.8	46.5	16.4	17.8
	30代	75	2.6	4.0	46.6	33.3	13.3
	40代	73	1.3	6.8	50.6	27.3	15.0
	50代以上	73	0.0	9.5	38.3	34.2	17.8

(Q7) 知床に訪れた目的 [× 性別、年代別]

	調査数	景色を楽しむため	温泉を楽しむため	観光スポットを訪れるため	特産品などの買物・飲食を楽しむため	エコツアーや観光船クルーズ、流水観察などに参加するため	観光イベントに参加するため	登山や自然散策などを楽しむため	海や川でのマリンスポーツを楽しむため	仕事や研修などのため	その他
北海道全体	338	77.8	32.8	62.4	8.8	9.1	4.7	11.5	2.9	4.4	5.0
男性	166	76.5	31.3	59.6	8.4	10.8	3.6	12.6	3.0	6.0	4.2
女性	172	79.0	34.3	65.1	9.3	7.5	5.8	10.4	2.9	2.9	5.8
首都圏全体	306	85.6	24.1	64.0	11.1	8.4	3.5	16.9	0.6	1.9	3.5
男性	168	86.9	23.8	60.1	6.5	5.3	3.5	19.0	0.0	2.9	3.5
女性	138	84.0	24.6	68.8	16.6	12.3	3.6	14.4	1.4	0.7	3.6

	調査数	景色を楽しむため	温泉を楽しむため	観光スポットを訪れるため	特産品などの買物・飲食を楽しむため	エコツアーや観光船クルーズ、流水観察などに参加するため	観光イベントに参加するため	登山や自然散策などを楽しむため	海や川でのマリンスポーツを楽しむため	仕事や研修などのため	その他
北海道全体	338	77.8	32.8	62.4	8.8	9.1	4.7	11.5	2.9	4.4	5.0
10・20代	80	76.2	25.0	61.2	11.2	8.7	5.0	12.5	2.5	3.7	5.0
30代	85	71.7	38.8	68.2	7.0	12.9	9.4	15.2	4.7	2.3	8.2
40代	85	80.0	31.7	61.1	10.5	2.3	3.5	8.2	4.7	4.7	4.7
50代以上	88	82.9	35.2	59.0	6.8	12.5	1.1	10.2	0.0	6.8	2.2
首都圏全体	306	85.6	24.1	64.0	11.1	8.4	3.5	16.9	0.6	1.9	3.5
10・20代	77	85.7	20.7	68.8	12.9	11.6	3.8	18.1	0.0	0.0	2.5
30代	75	90.6	25.3	66.6	16.0	8.0	4.0	22.6	2.6	2.6	2.6
40代	77	79.2	23.3	58.4	6.4	6.4	2.5	12.9	0.0	2.5	3.8
50代以上	77	87.0	27.2	62.3	9.0	7.7	3.8	14.2	0.0	2.5	5.1

(Q8) 直近で知床を訪れた際の滞在日数 [× 性別、年代別]

	調査数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日 1週間	1週間以上
北海道全体	338	35.8	45.6	15.7	1.8	0.6	0.6
男性	166	38.6	42.8	14.5	2.4	1.2	0.6
女性	172	33.1	48.3	16.9	1.2	0.0	0.6
首都圏全体	306	33.3	42.2	16.3	4.9	2.6	0.7
男性	168	35.1	40.5	18.5	3.6	1.8	0.6
女性	138	31.2	44.2	13.8	6.5	3.6	0.7

	調査数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日 1週間	1週間以上
北海道全体	338	35.8	45.6	15.7	1.8	0.6	0.6
10・20代	80	43.8	32.5	21.3	0.0	1.3	1.3
30代	85	32.9	52.9	10.6	2.4	0.0	1.2
40代	88	31.8	44.7	18.8	3.5	1.2	0.0
50代以上	80	35.2	51.1	12.5	1.1	0.0	0.0
首都圏全体	306	33.3	42.2	16.3	4.9	2.6	0.7
10・20代	77	36.4	35.1	18.2	6.5	2.6	1.3
30代	75	30.7	45.3	13.3	5.3	4.0	1.3
40代	77	32.5	41.6	15.6	7.8	2.6	0.0
50代以上	77	33.8	46.8	18.2	0.0	1.3	0.0

(Q9) 直近で知床を訪れた際の旅行手配 [× 性別、年代別]

	調査数	旅行会社のツアー	旅行会社のツアー	個人で計画	その他
北海道全体	338	5.6	3.6	85.8	5.0
男性	166	5.4	2.4	88.5	3.6
女性	172	5.8	4.7	83.1	6.4
首都圏全体	306	24.5	15.7	57.2	2.6
男性	168	20.8	10.1	66.7	2.4
女性	138	29.0	22.5	45.7	2.9

	調査数	旅行会社のツアー	旅行会社のツアー	個人で計画	その他
北海道全体	338	5.6	3.6	85.8	5.0
10・20代	80	7.5	2.5	85.0	5.0
30代	85	7.1	4.7	83.5	4.7
40代	88	2.4	2.4	91.8	3.5
50代以上	80	5.7	4.6	83.0	6.8
首都圏全体	306	24.5	15.7	57.2	2.6
10・20代	77	22.1	20.8	55.8	1.3
30代	75	13.3	24.0	60.0	2.7
40代	77	28.6	10.4	54.6	3.9
50代以上	77	33.8	7.8	54.6	3.9

	調査数	自然や景観がすばらしい	話題性がある	その地域でしか見ることや源などがある	多様な活動メニューや楽しみ(名所、観光施設、イベント)がある	いい温泉がある	グルメ(食事、特産品など)を楽しめる	いい宿泊施設がある	地域の人のふれあいや文化を楽しめる	情緒、風情、その土地らしさにぎわいなどがある	その他	
知床訪問経験あり	北海道全体	338	89.6	10.6	24.5	7.1	32.2	23.3	7.1	1.7	8.5	1.4
	10・20代	80	86.2	20.0	30.0	5.0	21.2	16.2	3.7	2.5	7.5	2.5
	30代	85	89.4	10.5	30.5	4.7	34.1	21.1	5.8	3.5	7.0	0.0
	40代	85	92.9	5.8	16.4	9.4	31.7	25.8	12.9	0.0	8.2	2.3
	50代以上	88	89.7	6.8	21.5	9.0	40.9	29.5	5.6	1.1	11.3	1.1
	首都圏全体	306	96.0	5.5	31.0	8.4	16.0	18.3	3.2	5.2	10.1	0.3
	10・20代	77	97.4	9.0	24.6	7.7	19.4	18.1	2.5	3.8	16.8	0.0
	30代	75	96.0	2.6	37.3	6.6	12.0	22.6	4.0	6.6	9.3	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	75.4	14.5	26.4	6.6	11.2	17.5	1.3	2.9	11.9	1.6
	10・20代	80	70.0	18.7	27.5	6.2	10.0	16.2	1.2	3.7	12.5	1.2
	30代	75	73.3	8.0	29.3	8.0	6.6	12.0	2.6	5.3	13.3	1.3
	40代	75	77.3	12.0	24.0	5.3	13.3	20.0	1.3	2.6	14.6	1.3
	50代以上	72	81.9	19.4	25.0	6.9	15.2	22.2	0.0	0.0	6.9	2.7
	首都圏全体	294	71.4	10.5	29.9	6.4	8.8	19.0	0.6	4.0	20.0	2.3
	10・20代	73	64.3	15.0	27.3	5.4	5.4	19.1	1.3	0.0	27.3	4.1
	30代	75	72.0	9.3	28.0	12.0	9.3	26.6	0.0	4.0	16.0	2.6
40代	73	71.2	10.9	28.7	5.4	12.3	10.9	1.3	6.8	21.9	2.7	
50代以上	73	78.0	6.8	35.6	2.7	8.2	19.1	0.0	5.4	15.0	0.0	

(Q13) 知床の印象・イメージ [× 知床訪問経験・性別、年代別]

知床の良好な景観を形成している

	調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない		
知床訪問経験あり	北海道全体	338	66.3	29.3	4.1	0.3	0.0	
	男性	166	72.3	22.9	4.2	0.6	0.0	
	女性	172	60.5	35.5	4.1	0.0	0.0	
	首都圏全体	306	68.0	29.7	2.3	0.0	0.0	
	男性	168	67.3	29.8	3.0	0.0	0.0	
	女性	138	68.8	29.7	1.5	0.0	0.0	
	知床訪問経験なし	北海道全体	302	61.6	28.5	8.3	0.7	1.0
		男性	140	65.0	23.6	10.7	0.0	0.7
女性		162	58.6	37.7	6.2	1.2	1.2	
首都圏全体		294	56.1	29.9	13.3	0.0	0.7	
男性		136	51.5	34.6	13.2	0.0	0.7	
女性		158	60.1	26.0	13.3	0.0	0.6	
知床訪問経験あり		北海道全体	338	66.3	29.3	4.1	0.3	0.0
		10・20代	80	57.5	37.5	5.0	0.0	0.0
	30代	85	69.4	25.9	3.5	1.2	0.0	
	40代	85	70.6	24.7	4.7	0.0	0.0	
	50代以上	88	67.1	29.6	3.4	0.0	0.0	
	首都圏全体	306	68.0	29.7	2.3	0.0	0.0	
	10・20代	77	63.6	32.5	3.9	0.0	0.0	
	30代	75	74.7	25.3	0.0	0.0	0.0	
知床訪問経験なし	北海道全体	302	61.6	28.5	8.3	0.7	1.0	
	10・20代	80	53.8	33.8	11.3	1.3	0.0	
	30代	75	60.0	29.3	8.0	1.3	1.3	
	40代	75	65.3	24.0	8.0	0.0	2.7	
	50代以上	72	68.1	26.4	5.6	0.0	0.0	
	首都圏全体	294	56.1	29.9	13.3	0.0	0.7	
	10・20代	73	49.3	35.6	13.7	0.0	1.4	
	30代	75	40.0	29.3	16.0	0.0	1.3	
40代	73	57.5	27.4	15.1	0.0	0.0		
50代以上	73	64.4	27.4	8.2	0.0	0.0		

手つかずの原生林が広がり気軽に足を踏み入れられない

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	思わない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	51.8	35.8	10.9	1.5	0.0
	男性	166	57.8	31.9	9.0	1.2	0.0
	女性	172	45.9	39.5	12.8	1.7	0.0
	首都圏全体	306	44.4	35.9	16.7	2.6	0.3
知床訪問経験なし	北海道全体	302	40.7	38.1	16.9	3.0	1.3
	男性	140	40.7	35.0	19.3	3.6	1.4
	女性	162	40.7	40.7	14.8	2.5	1.2
	首都圏全体	294	32.3	44.2	21.4	1.7	0.3
	男性	136	36.0	44.1	17.7	1.5	0.7
	女性	158	29.1	44.3	24.7	1.9	0.0

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	無回答
知床訪問経験あり	北海道全体	338	51.8	35.8	10.9	1.5	0.0
	10・20代	80	35.0	46.3	15.0	3.8	0.0
	30代	85	52.9	37.7	8.2	1.2	0.0
	40代	85	63.5	28.2	8.2	0.0	0.0
	50代以上	88	54.6	31.8	12.5	1.1	0.0
	首都圏全体	306	44.4	35.9	16.7	2.6	0.3
	10・20代	77	36.4	33.8	26.0	2.6	1.3
	30代	75	45.3	40.0	12.0	2.7	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	40.7	38.1	16.9	3.0	1.3
	10・20代	80	28.8	43.8	22.5	5.0	0.0
	30代	75	44.0	38.7	13.3	2.7	1.3
	40代	75	45.3	29.3	20.0	1.3	4.0
	50代以上	72	45.8	40.3	11.1	2.8	0.0
	首都圏全体	294	32.3	44.2	21.4	1.7	0.3
	10・20代	73	27.4	45.2	23.3	2.7	1.4
	30代	75	30.7	42.7	24.0	2.7	0.0
知床訪問経験なし	40代	73	31.5	49.3	17.8	1.4	0.0
	50代以上	73	39.7	39.7	20.6	0.0	0.0

森林にふれあい楽しむことができる

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	思わない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	33.7	44.7	17.5	4.1	0.0
	男性	166	41.6	39.2	16.3	3.0	0.0
	女性	172	26.2	50.0	18.6	5.2	0.0
	首都圏全体	306	38.2	43.1	14.7	3.9	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	31.8	41.1	21.9	4.3	1.0
	男性	140	28.6	40.7	25.0	5.0	0.7
	女性	162	34.6	41.4	19.1	3.7	1.2
	首都圏全体	294	26.5	38.8	21.1	2.4	1.0
	男性	136	22.8	50.0	22.8	2.9	1.5
	女性	158	29.8	48.1	19.6	1.9	0.6

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	無回答
知床訪問経験あり	北海道全体	338	33.7	44.7	17.5	4.1	0.0
	10・20代	80	33.8	43.8	18.8	3.8	0.0
	30代	85	30.6	44.7	20.0	4.7	0.0
	40代	85	32.9	47.1	12.9	7.1	0.0
	50代以上	88	37.5	43.2	18.2	1.1	0.0
	首都圏全体	306	38.2	43.1	14.7	3.9	0.0
	10・20代	77	44.2	42.9	9.1	3.9	0.0
	30代	75	40.0	45.3	12.0	2.7	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	31.8	41.1	21.9	4.3	1.0
	10・20代	80	33.8	40.0	25.0	1.3	0.0
	30代	75	36.0	38.7	21.3	2.7	1.3
	40代	75	26.7	42.7	26.7	1.3	2.7
	50代以上	72	30.6	43.1	13.9	12.5	0.0
	首都圏全体	294	26.5	38.8	21.1	2.4	1.0
	10・20代	73	27.4	46.6	21.9	2.7	1.4
	30代	75	33.3	40.0	18.7	5.3	2.7
知床訪問経験なし	40代	73	21.9	50.7	26.0	1.4	0.0
	50代以上	73	23.3	58.9	17.8	0.0	0.0

野生動物の重要な生息地である

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	68.3	26.6	4.7	0.3	0.0
	男性	166	71.7	22.9	4.8	0.6	0.0
	女性	172	65.1	30.2	4.7	0.0	0.0
	首都圏全体	306	69.3	26.8	3.9	0.0	0.0
	男性	168	67.3	28.0	4.8	0.0	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	64.9	26.2	7.3	0.7	1.0
	男性	140	64.3	24.3	10.0	0.7	0.7
	女性	162	65.4	27.8	4.9	0.6	1.2
	首都圏全体	294	57.5	33.3	8.5	0.3	0.3
	男性	136	54.4	35.3	9.6	0.0	0.7
女性	158	60.1	31.7	7.6	0.6	0.0	

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	無回答
知床訪問経験あり	北海道全体	338	68.3	26.6	4.7	0.3	0.0
	10・20代	80	67.5	23.8	7.5	1.3	0.0
	30代	85	71.8	24.7	3.5	0.0	0.0
	40代	85	74.1	20.0	5.9	0.0	0.0
	50代以上	88	60.2	37.5	2.3	0.0	0.0
	首都圏全体	306	69.3	26.8	3.9	0.0	0.0
	10・20代	77	66.2	29.9	3.9	0.0	0.0
	30代	75	73.3	24.0	2.7	0.0	0.0
	40代	77	68.8	27.3	3.9	0.0	0.0
	50代以上	77	68.8	26.0	5.2	0.0	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	64.9	26.2	7.3	0.7	1.0
	10・20代	80	56.3	31.3	12.5	0.0	0.0
	30代	75	68.0	21.3	6.7	2.7	1.3
	40代	75	64.0	28.0	5.3	0.0	2.7
	50代以上	72	72.2	23.6	4.2	0.0	0.0
	首都圏全体	294	57.5	33.3	8.5	0.3	0.3
	10・20代	73	52.1	35.6	11.0	0.0	1.4
	30代	75	62.7	28.0	8.0	1.3	0.0
	40代	73	53.4	38.4	8.2	0.0	0.0
	50代以上	73	61.6	31.5	6.9	0.0	0.0

森を通じて自然環境について学ぶことができる

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	41.1	46.7	10.7	2.4	0.0
	男性	166	45.8	41.0	11.5	1.8	0.0
	女性	172	36.6	52.3	9.9	1.2	0.0
	首都圏全体	306	45.1	42.5	11.8	0.7	0.0
	男性	168	38.1	46.4	14.3	1.2	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	42.7	42.4	12.6	1.3	1.0
	男性	140	39.3	44.3	14.3	1.4	0.7
	女性	162	45.7	40.7	11.1	1.2	1.2
	首都圏全体	294	46.9	44.2	12.2	0.7	0.0
	男性	136	168.0	35.3	49.3	14.7	0.7
女性	158	138.0	46.8	41.1	12.0	0.0	

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	無回答
知床訪問経験あり	北海道全体	338	41.1	46.7	10.7	2.4	0.0
	10・20代	80	36.3	50.0	11.3	2.5	0.0
	30代	85	45.9	40.0	12.9	1.2	0.0
	40代	85	38.8	50.6	9.4	1.2	0.0
	50代以上	88	43.2	46.6	9.1	1.1	0.0
	首都圏全体	306	45.1	42.5	11.8	0.7	0.0
	10・20代	77	44.2	46.8	7.8	1.3	0.0
	30代	75	49.3	41.3	9.3	0.0	0.0
	40代	77	44.2	41.6	13.0	1.3	0.0
	50代以上	77	42.9	40.3	16.9	0.0	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	42.7	42.4	12.6	1.3	1.0
	10・20代	80	31.3	52.5	16.3	0.0	0.0
	30代	75	50.7	33.3	12.0	2.7	1.3
	40代	75	46.7	40.0	10.6	0.0	2.7
	50代以上	72	43.1	43.1	11.1	2.8	0.0
	首都圏全体	294	46.9	44.2	12.2	0.7	0.0
	10・20代	73	35.6	46.6	16.4	1.4	0.0
	30代	75	48.0	40.0	12.0	0.0	0.0
	40代	73	38.4	45.2	11.0	0.0	0.0
	50代以上	73	43.8	45.2	11.0	0.0	0.0

森林に心身ともに癒される

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	思わない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	48.8	41.7	8.9	0.6	0.0
	男性	166	52.4	38.0	9.0	0.1	0.0
	女性	172	45.4	45.4	8.7	0.6	0.0
	首都圏全体	306	54.9	35.6	9.5	0.0	0.0
	男性	168	50.6	36.3	13.1	0.0	0.0
女性	138	60.1	34.8	5.1	0.0	0.0	
知床訪問経験なし	北海道全体	302	46.4	38.1	13.2	1.3	1.0
	男性	140	40.7	37.9	18.6	2.1	0.7
	女性	162	51.2	38.3	8.6	0.6	1.2
	首都圏全体	294	41.8	44.6	10.9	2.0	0.7
	男性	136	33.8	50.0	11.8	2.9	1.5
女性	158	48.7	39.9	10.1	1.3	0.0	

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	無回答
知床訪問経験あり	北海道全体	338	48.8	41.7	8.9	0.6	0.0
	10・20代	80	57.5	33.8	8.8	0.0	0.0
	30代	85	47.1	43.5	9.4	0.0	0.0
	40代	85	47.1	40.0	11.8	1.2	0.0
	50代以上	88	44.3	48.9	5.7	1.1	0.0
	首都圏全体	306	54.9	35.6	9.5	0.0	0.0
	10・20代	77	59.7	29.9	10.4	0.0	0.0
	30代	75	65.3	30.7	4.0	0.0	0.0
	40代	77	46.8	42.9	10.4	0.0	0.0
	50代以上	77	48.1	39.0	13.0	0.0	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	46.4	38.1	13.2	1.3	1.0
	10・20代	80	40.0	43.8	16.3	0.0	0.0
	30代	75	45.3	38.7	13.3	1.3	1.3
	40代	75	56.0	32.0	9.3	0.0	2.7
	50代以上	72	44.4	37.5	13.9	4.2	0.0
	首都圏全体	294	41.8	44.6	10.9	2.0	0.7
	10・20代	73	42.5	42.5	11.0	2.7	1.4
	30代	75	42.7	40.0	12.0	4.0	1.3
	40代	73	41.1	48.0	11.0	0.0	0.0
	50代以上	73	41.1	48.0	9.6	1.4	0.0

地域の暮らしや産業とのつながりが深い

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	思わない
知床訪問経験あり	北海道全体	338	22.2	41.4	29.9	4.4	2.1
	男性	166	29.5	35.5	26.5	5.4	3.0
	女性	172	15.1	47.1	33.1	3.5	1.2
	首都圏全体	306	21.9	36.6	35.3	5.9	0.3
	男性	168	22.0	33.3	35.7	8.3	0.6
女性	138	21.7	40.6	34.8	2.9	0.0	
知床訪問経験なし	北海道全体	302	18.9	32.8	38.7	7.6	2.0
	男性	140	14.3	32.1	42.9	9.3	1.4
	女性	162	22.8	33.3	35.2	6.2	2.5
	首都圏全体	294	15.3	32.0	45.9	5.8	1.0
	男性	136	14.7	27.9	47.8	7.4	2.2
女性	158	15.8	35.4	44.3	4.4	0.0	

		調査数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わな	無回答
知床訪問経験あり	北海道全体	338	22.2	41.4	29.9	4.4	2.1
	10・20代	80	20.0	45.0	23.8	7.5	3.8
	30代	85	24.7	40.0	32.9	1.2	1.2
	40代	85	22.4	45.5	28.2	3.5	2.4
	50代以上	88	21.6	37.5	34.1	5.7	1.1
	首都圏全体	306	21.9	36.6	35.3	5.9	0.3
	10・20代	77	24.7	37.7	31.2	6.5	0.0
	30代	75	21.3	38.7	36.0	4.0	4.0
	40代	77	19.5	37.7	36.4	5.2	1.3
	50代以上	77	22.1	32.5	37.7	7.8	0.0
知床訪問経験なし	北海道全体	302	18.9	32.8	38.7	7.6	2.0
	10・20代	80	11.3	35.0	38.8	11.3	3.8
	30代	75	18.7	30.7	42.7	6.7	1.3
	40代	75	21.3	30.7	38.7	6.7	2.7
	50代以上	72	25.0	34.7	34.7	5.6	0.0
	首都圏全体	294	15.3	32.0	45.9	5.8	1.0
	10・20代	73	16.4	24.7	50.7	6.9	1.4
	30代	75	12.0	38.7	42.7	5.3	1.3
	40代	73	13.7	28.8	49.3	8.2	0.0
	50代以上	73	19.2	35.6	41.1	2.7	1.4

(Q14) 将来にわたり知床にどのような森林があってほしいか [× 知床訪問経験・性別、年代別]

	調査数	良質な景観を形成する森林	イベントや体験活動などを楽しむことができる森林	地球温暖化の防止に貢献する森林	貴重な動植物や野生動物の生息環境が保護されている森林	自然の大切さを学ぶ野外における教育の場としての森林	森林浴などで心身ともに癒される森林	水を蓄え、浄化し、川や海を豊かな水にする森林	その他	
知床訪問経験あり	北海道全体	338	59.1	4.4	41.4	66.2	26.0	21.8	36.6	1.4
	男性	166	62.0	5.4	34.3	64.4	28.3	19.2	37.9	1.8
	女性	172	56.3	3.4	48.2	68.0	23.8	24.4	35.4	1.1
	首都圏全体	306	69.2	4.2	36.9	71.5	26.4	21.8	32.0	0.6
知床訪問経験なし	北海道全体	302	55.9	4.3	44.0	68.2	22.5	20.1	34.4	0.6
	男性	140	63.5	3.5	35.7	65.0	22.8	17.8	31.4	0.7
	女性	162	49.3	4.9	51.2	70.9	22.2	22.2	37.0	0.6
	首都圏全体	294	54.7	3.4	51.0	70.7	21.0	18.7	40.8	1.0
	男性	136	59.5	2.9	41.1	67.6	24.2	16.1	36.0	1.4
	女性	158	50.6	3.7	59.4	73.4	18.3	20.8	44.9	0.6

	調査数	良質な景観を形成する森林	イベントや体験活動などを楽しむことができる森林	地球温暖化の防止に貢献する森林	貴重な動植物や野生動物の生息環境が保護されている森林	自然の大切さを学ぶ野外における教育の場としての森林	森林浴などで心身ともに癒される森林	水を蓄え、浄化し、川や海を豊かな水にする森林	その他	
知床訪問経験あり	北海道全体	338	59.1	4.4	41.4	66.2	26.0	21.8	36.6	1.4
	10・20代	80	67.5	11.2	40.0	55.0	27.5	28.7	23.7	0.0
	30代	85	52.9	3.5	38.8	72.9	30.5	20.2	36.4	1.1
	40代	85	63.5	1.1	41.1	61.1	22.3	23.5	41.1	4.7
	50代以上	88	53.4	2.2	45.4	75.0	23.8	15.9	44.3	0.0
	首都圏全体	306	69.2	4.2	36.9	71.5	26.4	21.8	32.0	0.6
	10・20代	77	75.3	3.8	33.7	68.8	28.5	27.2	23.3	0.0
	30代	75	60.0	5.3	36.0	78.6	29.3	20.0	36.0	1.3
知床訪問経験なし	北海道全体	302	55.9	4.3	44.0	68.2	22.5	20.1	34.4	0.6
	10・20代	80	57.5	5.0	46.2	65.0	25.0	20.0	40.0	1.2
	30代	75	57.3	5.3	37.3	66.6	21.3	18.6	38.6	1.3
	40代	75	52.0	4.0	46.6	65.3	26.6	20.0	28.0	0.0
	50代以上	72	56.9	2.7	45.8	76.3	16.6	22.2	30.5	0.0
	首都圏全体	294	54.7	3.4	51.0	70.7	21.0	18.7	40.8	1.0
	10・20代	73	53.4	2.7	38.3	68.4	27.3	26.0	42.4	0.0
	30代	75	48.0	5.3	58.6	70.6	20.0	13.3	42.6	1.3
	40代	73	49.3	4.1	50.6	67.1	23.2	23.2	39.7	1.3
	50代以上	73	68.4	1.3	56.1	76.7	13.6	12.3	38.3	1.3

(Q15) 知床の森林づくりへの参加形態 [× 知床訪問経験・性別、年代別]

	調査数	活動などに参加してみたい	森林づくりが行われているエリア	森林づくりのイベント等を通じて参加したい	募金や寄付を通過して参加したい	等しい購入や利用を通過して参加したい	森林づくりを応援する商品	参加したいと思わない	その他
知床訪問経験あり	北海道全体	338	22.4	37.5	28.9	42.8	14.4	0.8	
	男性	166	24.6	37.3	28.9	34.3	16.2	1.8	
	女性	172	20.3	37.7	29.0	51.1	12.7	0.0	
	首都圏全体	306	30.3	36.6	30.7	43.4	10.7	0.9	
	男性	168	29.1	33.9	26.7	47.6	11.9	1.1	
	女性	138	31.8	39.8	35.5	38.4	9.4	0.8	
知床訪問経験なし	北海道全体	302	18.2	26.4	28.1	40.7	18.2	1.3	
	男性	140	21.4	25.0	25.0	37.8	23.5	0.7	
	女性	162	15.4	27.7	30.8	43.2	13.5	1.8	
	首都圏全体	294	21.4	27.8	30.9	44.8	18.0	0.6	
	男性	136	21.3	23.5	28.6	39.7	25.7	0.7	
	女性	158	21.5	31.6	32.9	49.3	11.3	0.6	

	調査数	活動などに参加してみたい	森林づくりが行われているエリア	森林づくりのイベント等を通じて参加したい	募金や寄付を通過して参加したい	等しい購入や利用を通過して参加したい	森林づくりを応援する商品	参加したいと思わない	その他
知床訪問経験あり	北海道全体	338	22.4	37.5	28.9	42.8	14.4	0.8	
	10・20代	80	30.0	36.2	38.7	33.7	16.2	0.0	
	30代	85	16.4	40.0	32.9	40.0	12.9	1.1	
	40代	85	23.5	42.3	17.6	44.7	10.5	2.3	
	50代以上	88	20.4	31.8	27.2	52.2	18.1	0.0	
	首都圏全体	306	30.3	36.6	30.7	43.4	10.7	0.9	
	10・20代	77	27.2	41.5	35.0	33.7	10.3	0.0	
	30代	75	37.3	44.0	36.0	52.0	5.3	0.0	
	40代	77	28.5	33.7	24.6	42.8	14.2	2.5	
	50代以上	77	27.2	41.5	35.0	33.7	10.3	0.0	
知床訪問経験なし	北海道全体	302	18.2	26.4	28.1	40.7	18.2	1.3	
	10・20代	80	18.7	37.5	36.2	31.2	12.5	1.2	
	30代	75	20.0	21.3	22.6	36.0	25.3	2.6	
	40代	75	20.0	22.6	26.6	44.0	21.3	0.0	
	50代以上	72	13.8	23.6	26.3	52.7	13.8	1.3	
	首都圏全体	294	21.4	27.8	30.9	44.8	18.0	0.6	
	10・20代	73	30.1	28.7	35.6	36.9	20.5	0.0	
	30代	75	25.3	28.0	24.0	48.0	14.6	0.0	
40代	73	13.6	26.0	30.1	46.5	17.8	2.7		
50代以上	73	16.4	28.7	34.2	47.9	19.1	0.0		

(Q16) 知床の森林づくり活動を魅力あるものにするために必要なこと [×知床訪問経験・性別、年代別]

		調査数	加 金銭面など でできること	無理のない 範囲(時間や 範囲)で気軽 に参加	特別の知識 や技能がな くてもでき ること	とにかく楽 しいこと	やりがい があること	体力や安全 性への配慮 がなされて いること	重 な体験がで きること	日常生活 ではできな い貴重な 体験がで きること	き つかけとな ること	地 域の人や文 化にふれ ること	特 典が得られ ること	活 動の成果を わかりやす く伝えるこ と	一 過性に終 わらず長 く関わり 続けるこ と	活 動を通じて 森林や自然 に関する知 識が身につ くこと	そ の他
知床訪問経験あり	北海道全体	338	66.5	41.7	15.9	13.3	13.0	22.4	11.8	6.2	14.4	26.0	18.0	0.5			
	男性	166	68.0	38.5	13.8	13.8	11.4	21.0	15.0	6.6	12.0	27.7	18.0	1.2			
	女性	172	65.1	44.7	18.0	12.7	14.5	23.8	8.7	5.8	16.8	24.4	18.0	0.0			
	首都圏全体	306	72.8	36.9	16.3	14.7	13.0	29.4	9.8	4.2	11.4	26.4	14.7	0.3			
	男性	168	72.0	36.9	15.4	16.6	13.6	26.7	8.9	5.3	10.7	25.5	11.3	0.5			
	女性	138	73.9	36.9	17.3	12.3	12.3	32.6	10.8	2.8	12.3	27.5	18.8	0.0			
知床訪問経験なし	北海道全体	302	66.5	34.4	14.9	15.5	13.2	26.8	8.9	4.9	12.5	25.1	19.2	0.3			
	男性	140	65.7	30.7	13.5	13.5	19.2	27.8	5.7	7.1	11.4	20.7	17.1	0.7			
	女性	162	67.2	37.6	16.0	17.2	8.0	25.9	11.7	3.0	13.5	29.0	20.9	0.0			
	首都圏全体	294	71.0	35.0	12.9	13.6	15.3	19.7	11.9	5.1	13.2	29.9	19.3	0.3			
	男性	136	65.4	32.3	9.5	11.7	15.4	18.3	11.7	7.3	13.2	30.8	20.5	0.7			
	女性	158	75.9	37.3	15.8	15.1	15.1	20.8	12.0	3.1	13.2	29.1	18.3	0.0			

		調査数	加 金銭面など でできること	無理のない 範囲(時間や 範囲)で気軽 に参加	特別の知識 や技能がな くてもでき ること	とにかく楽 しいこと	やりがい があること	体力や安全 性への配慮 がなされて いること	重 な体験がで きること	日常生活 ではできな い貴重な 体験がで きること	き つかけとな ること	地 域の人や文 化にふれ ること	特 典が得られ ること	活 動の成果を わかりやす く伝えるこ と	一 過性に終 わらず長 く関わり 続けるこ と	活 動を通じて 森林や自然 に関する知 識が身につ くこと	そ の他
知床訪問経験あり	北海道全体	338	66.5	41.7	15.9	13.3	13.0	22.4	11.8	6.2	14.4	26.0	18.0	0.5			
	10・20代	80	66.2	38.7	13.7	20.0	16.2	28.7	10.0	6.2	18.7	16.2	11.2	0.0			
	30代	85	65.8	43.5	20.0	12.9	9.4	22.3	11.7	4.7	7.0	25.8	21.1	1.1			
	40代	85	67.0	41.1	16.4	9.4	9.4	17.6	14.1	8.2	17.6	29.4	18.8	1.1			
	50代以上	88	67.0	43.1	13.6	11.3	17.0	21.5	11.3	5.6	14.7	31.8	20.4	0.0			
	首都圏全体	306	72.8	36.9	16.3	14.7	13.0	29.4	9.8	4.2	11.4	26.4	14.7	0.3			
	10・20代	77	63.6	44.1	23.3	23.3	10.3	31.1	6.4	2.5	3.8	20.7	14.2	0.0			
	30代	75	82.6	37.3	9.3	16.0	10.6	32.0	14.6	2.6	13.3	26.6	17.3	0.0			
	40代	77	71.4	32.4	14.2	14.2	9.0	28.5	7.7	3.8	15.5	33.7	14.2	1.2			
	50代以上	77	74.0	33.7	18.1	5.1	22.0	25.9	10.3	7.7	12.9	24.6	14.2	1.2			
知床訪問経験なし	北海道全体	302	66.5	34.4	14.9	15.5	13.2	26.8	8.9	4.9	12.5	25.1	19.2	0.3			
	10・20代	80	66.2	41.2	22.5	20.0	8.7	31.2	5.0	7.5	7.5	18.7	12.5	0.0			
	30代	75	66.6	36.0	13.3	20.0	12.0	29.3	12.0	4.0	17.3	25.3	21.3	0.0			
	40代	75	72.0	29.3	14.6	10.6	14.6	22.6	6.6	1.3	14.6	29.1	20.8	1.3			
	50代以上	72	61.1	30.5	8.3	11.1	18.0	23.6	12.5	6.9	11.1	29.1	20.8	1.3			
	首都圏全体	294	71.0	35.0	12.9	13.6	15.3	19.7	11.9	5.1	13.2	29.9	19.3	0.3			
	10・20代	73	71.2	42.4	17.8	16.4	9.5	16.4	12.3	5.4	10.9	28.7	16.4	0.0			
	30代	75	77.3	33.3	13.3	6.6	6.6	29.3	14.6	5.3	14.6	26.6	12.0	0.0			
	40代	73	68.4	32.8	13.6	17.8	13.6	16.4	9.5	2.7	13.6	35.5	20.5	0.0			
	50代以上	73	67.1	31.5	6.8	13.6	31.5	16.4	10.9	6.8	13.6	28.7	28.7	1.3			

調査票（WEB アンケート）

予備調査

このアンケートは、知床の森林についての印象・イメージや、森林づくり活動などについてみなさまのご意見をうかがいするものです。調査結果は、「知床永久の森林づくり協議会」(※)において、今後の知床の森林づくり活動の進め方について検討する際の資料として活用させていただきます。

※「知床永久の森林づくり協議会」については、こちらをご覧ください。↓
<http://www.hokkaido.kokuroungo.jp/voku/news/1907siretoko-moridokuni/0006vour&ai-setti.html>

Q1 あなたはこれまで知床を訪れたことがありますか。【必須】

- 訪れたことがある <GO>
- 訪れたことがない <GO>

本調査

森林の利用についてお聞きします。

Q1 過去1年間に、森林や山に仕事以外で行きましたか。それは、主にどのような目的でしたか。あてはまるものを全て選んでください。【必須チェックは×つでも】

- 景色を楽しむため
- ピクニックやキャンプ等
- 登山やスキーなどのスポーツ
- 釣りやキノコ・山菜採り等
- 動植物等の観察
- 森林浴など心身のリフレッシュ
- 植樹や森林の手入れ・下草刈りなどのボランティア活動
- ドライブを楽しむため
- その他
- 行っていない <E0> → Q4へ

Q2 過去1年間に仕事以外で何回森林や山に行きましたか。【必須】

- 1回
- 2～5回
- 6～10回
- 10回以上

Q3 Q1で回答した森林や山は、自宅からどのくらい離れていますか。直近で訪れた森林や山についてお答えください。【必須】

- 自宅から1時間未満
- 自宅から1～3時間未満
- 自宅から3～5時間未満
- 自宅から5時間以上

Q04 これ数年くらいの間に、森林や緑を守るためのボランティア活動(※)に参加したことがありますか。
(※ ボランティア団体や企業など多様な主体によって、台風による風倒被害地の森林の復興や、森林に関する普及啓発等を目的として、植樹、下草刈りなどの作業や森林環境教育活動が実施されています。)【必須(チェックは1つでも)】

- 森林や緑を守るボランティア活動に直接的に参加したことがある
- 活動を間接的に支える基金や寄付等を通じて参加したことがある
- 今まで参加したことはないが、今後は参加してみたい (E0)
- 今まで参加したことがなく、今後も参加したくない (E0)
- わからない (E0)

知床への訪問についてお聞かせします。

Q05 これまで知床を訪れたことがありますか。
「ある」方は、何回くらい訪れたことがありますか。【必須】

- 1回
- 2～5回
- 6～10回
- 10回以上
- 訪れたことがない → Q10へ

知床を訪れたことが「ある」と答えた方にかかけます。

Q06 それは、知床が世界自然遺産に登録される前でしたか、後でしたか。
(世界自然遺産へは、平成17年7月17日に正式に登録されました。)【必須】

- 登録される前のみ訪れたことがある
- 登録された後のみ訪れたことがある
- 登録される前と登録された後で訪れたことがある

Q07 直近で知床を訪れた目的は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。【必須(チェックは1つでも)】

- 景色を楽しみたい
- 温泉を楽しみたい
- 観光スポット(34床五湖やカムイワッカの滝など)を訪れるため
- 特産品などの買物・飲食を楽しみたい
- エコツアーや観光船クルーズ、流氷観察などに参加するため
- 観光イベント(34床ファンタジア、らうす漁火まつりなど)に参加するため
- 登山や自然観察などを楽しみたい
- 海や川でのマリンスポーツを楽しみたい
- 仕事や研修などのため
- その他

Q08 直近で知床を訪れた際、知床に何日間滞在されましたか。
(ツアーなどで観光地とセットで旅行された場合、知床に滞在した日数のみお答えください。)【必須】

- 日帰り
- 1泊2日
- 2泊3日
- 3泊4日
- 4泊5日～1週間(6泊7日)
- 1週間(6泊7日)以上

Q09 直近で知床へ訪れた際の旅行の企画や手配はどのようにされましたか。【必須】

- 旅行会社の団体型(ツアー添乗員やガイドが同行する団体型)のツアー旅行)
- 旅行会社のフリー型(ツアー添乗員などが同行しないフリー型)のツアー旅行)
- 個人で計画して手配
- その他

Q10 今後、知床に行ってみたいですか。【必須】

- (もう一度)行ってみたい → Q11へ
- 機会があれば行ってみたい → Q11へ
- あまり気が進まない → Q12へ
- (2度と)行きたくない → Q12へ
- わからない

Q11 Q10で「(もう一度)行ってみたい」「機会があれば行ってみたい」と答えた方にうかがいます。その理由としてあてはまるものを3つまで選んでください。【必須(1～3個)】

- 自然や景観が素晴らしい
- 話題性がある
- その地域でしか見ることや体験することができない資源などがある
- 多様な活動メニューや楽しみ(名所、観光施設、イベント)がある
- いい温泉がある
- グルメ(食事、特産品など)を楽しめる
- いい宿泊施設がある
- 地域の人のふれあいや文化を楽しめる
- 情緒、風情、その土地らしさに惹かれるなどがある
- その他

Q12 Q10で「あまり気が進まない」「(2度と)行きたくない」と答えた方にうかがいます。その理由としてあてはまるものを3つまで選んでください。【必須(1～3個)】

- 目的地までが遠い
- 行ったことがあるが、また行きたいと思わず魅力を感じなかった
- 何度も訪れたことがあるので、目新しさや感動が薄れている
- 行ったことはないが、観光情報等を見る限り、観光資源があまり見られていそうである
- 名前が聞いているが、どのような魅力があるのかまでは分からない
- 話題性が低い
- その他

知床の森林についての説明文をお読みの上、以下の設問にお答えください。

知床は、平成17年に、「屋久島」「白神山地」に次いで日本で3番目となる「世界自然遺産」に登録されました。世界自然遺産として登録された陸地の9割以上は国営森林であり、その全てを「森林生態系保護地域」として環境保全に努めています。知床半島には、その世界自然遺産区域を中心に良好な自然が広がっていますが、周辺地域には人工林や荒廃地などがみられ、また、近年では増えすぎたエゾシカの食害による森林被害といったことが課題となっています。このような課題に取り組むために、関係機関等により知床における森林づくり(※)についてさまざまな検討を行っているところであり、みなさまのご意見をおうかがいしたいと思います。



- ※本調査において「森林づくり」とは、以下のようなものを指します。
- ・森林を造成、維持するための、植え付け(植林)、下刈り、除伐、間伐、枝打ちなどの作業
 - ・エゾシカによる食害から樹木を守る防獣ネット巻き
 - ・鳥の巣箱かけやえさ場づくりなどの野生動物の保護活動
 - ・生物や自然環境などの調査
 - ・登山道や自然歩道などの葎刈や補修活動 など

Q013 知床の「森林」の印象またはイメージについてお答えください。
該当するものを1つだけ選んでください。【必須】

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
森林は知床の良質な景観を形成している	<input type="radio"/>				
手つかずの原生林が広がり気軽に足を踏み入れられない	<input type="radio"/>				
森林にふれあひ、楽しむことができる	<input type="radio"/>				
野生動物植物の重要な生息地である	<input type="radio"/>				
森林を通じて自然環境について学ぶことができる	<input type="radio"/>				
森林に心身ともに癒される	<input type="radio"/>				
地域の暮らしや産業とのつながりが深い	<input type="radio"/>				

Q014 所々にわたり知床ごどのような森林があってほしいと思いますか
あなたの考え方に近いものを3つまで選んでください。【必須(1～3個)】

- 良質な景観を形成する森林
- イベントや体験活動などを楽しむことができる森林
- 地球温暖化の防止に貢献する森林
- 貴重な動物植物や野生動物の生育環境が保護されている森林
- 自然の大切さを学ぶ野外における教育の場としての森林
- 森林浴などで心身ともに癒される森林
- 水を蓄え、浄化し、川や湖を豊かな水にする森林
- その他

Q015 今後あなたが知床の森林づくりに参加するとしたら、どのような方法で参加してみたいと思いますか。あてはまると思うものを3つまで選んでください。【必須(1～3個)】

- 森林づくりが行われている活動などにボランティアとして参加してみたい
- 森林づくりのイベント等を通じて参加してみたい
- 基金や寄付を通じて参加してみたい
- 森林づくりに関する商品等の購入や利用を通じて参加してみたい
- 参加したいと思わない
- その他

Q016 知床の森林づくり活動を魅力あるものにするために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまると思うものを3つまで選んでください。【必須(1～3個)】

- 無理のない(短時間や全日など)で気軽に参加できること
- 特別の知識や技能がなくてもできること
- どこかへ親しむこと
- やりがいがあること
- 体力や安全性への配慮がなされていること
- 日常生活ではできない(貴重な体験ができること
- 地域の人や文化にふれるきっかけとなること
- 特典が得られること
- 活動の成果がわかりやすく伝えられること
- 一度性に合わず長く関わられ続けること
- 活動を通じて森林や自然に関する知識が身につくこと
- その他

Q017 森林を守り育てるためには長い年月と費用がかかりますが、知床における長期・継続的な森林づくり活動のために、今後どのようなことに力を入れていければよいと思いますか。あなたの考え方に近いものを3つまで選んでください。【必須(1～3個)】

- 子ども連中に対する環境教育活動を積極的に行う
- 森林づくりに気軽に参加できる旅行体験の場を充実させる
- 企業に対する森林づくり活動への参加を積極的に呼びかける
- 森林とふれあい、森林を理解するイベントやエコツアーなどを増やす
- 活動内容や参加方法等を伝える効果的な情報発信を行う
- 森林づくりを間接的に支援できる仕組み(基金、応援グッズ販売等)を充実する
- ガイドや林業指導者などを育成する
- その他

Q018 あなたの居住地をお答えください。【必須】

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道-札幌市 | <input type="radio"/> 北海道-旭川市 |
| <input type="radio"/> 北海道-江別市 | <input type="radio"/> 北海道-帯広市 |
| <input type="radio"/> 北海道-石狩市 | <input type="radio"/> 北海道-釧路市 |
| <input type="radio"/> 北海道-小樽市 | <input type="radio"/> 北海道-その他市町村 |
| <input type="radio"/> 北海道-北広島市 | <input type="radio"/> 東京都 |
| <input type="radio"/> 北海道-恵庭市 | <input type="radio"/> 神奈川県 |
| <input type="radio"/> 北海道-千歳市 | <input type="radio"/> 千葉県 |
| <input type="radio"/> 北海道-苫小牧市 | <input type="radio"/> 埼玉県 |
| <input type="radio"/> 北海道-函館市 | |

Q19 あなたの職業をお答えください。【必須】

- 会社員・公務員・団体職員
- 自営業
- 自由業
- パートタイマー・アルバイト
- 主婦(夫)
- 無職
- 学生
- その他

体験活動や企業支援の取組に関する事例

1. 企業等による森林づくり活動支援

(1) 資金提供による支援

企業財団、公益信託等による活動支援

A社	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の緑化事業（植樹等）、環境NGOへの支援・助成の実施を目的に、1991年に環境財団を設立。 ・支援・助成事業のほか、国際会議・シンポジウム等の支援・共催や、「もりのくに・にっぽん運動」（森を護り、育て、その恵みを生かして持続的に循環させていくことの大切さを広く訴える運動）としてショッピングセンター内でのイベント等を通じて、市民への森林保護、環境保全の普及啓発活動などにも取り組んでいる。
B社	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境」をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年にみどりの基金を設立。店頭でのお客様からの募金と加盟店の協力、本部からの寄付金を基に、環境市民団体への支援活動や自然環境保護・保全、地域環境美化活動、広報活動などを実施。 ・北海道「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」、霧多布湿原でのナショナルトラスト活動の推進、自然学校プロジェクト、国有林での森林マラソンへの特別協賛などさまざまな取組を展開している。
C社	<ul style="list-style-type: none"> ・1983年に公益信託を設立。自然環境の保全、育成に関する活動や研究に対する助成や支援を実施している。 ・都市近郊の緑地を活動対象として選び、自然とふれあうことのできる森づくりを目指した活動への資金援助、小・中・高等学校での「自然観察路コンクール」や写真展、シンポジウムの開催など幅広い活動に取り組んでいる。
D社	<ul style="list-style-type: none"> ・環境分野で活躍する人材の育成支援、環境保全に関する活動・研究に対する支援を行うとともに、環境教育等の振興を通して地球環境保全に資することを目指して、1999年に環境財団を設立。 ・環境教育を総合的に推進するNGO等と共同で開催する「市民のための環境公開講座」や、大学生・大学院生の環境分野のCSOにおけるインターン制度、学術研究への助成など、「木を植えるより、木を植える人を育てたい」というコンセプトに基づいた人材育成を主要テーマとした多様な取組を展開している。
地元銀行等	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年に地元銀行を中心として自然環境保護をコンセプトの中心においた「自然環境保護ファンド（愛称：尾瀬紀行）」の運用を開始。ファンドの販売会社および委託会社がそれぞれ収益した信託報酬の一部を（財）尾瀬保護団体へ寄付。財団を通じて群馬・新潟・福島の3県にまたがる尾瀬地区の自然環境保護に貢献できる。

(各社HPより作成)

(2) 多様な主体による活動における企業の支援

トキの野生復帰連絡協議会（新潟県）	
概要	<p>佐渡島内において現在順調に保護増殖が行われているトキが野生復帰できるよう、農業関係者、森林組合、教育担当者、観光業者らと、これまでに、トキの野生復帰のための保全活動を行ったことのある NPO 等 30 団体間で新たな協働の場を設けることにより、中短期目標の共有化をはかり、各団体における個別の活動が野生復帰に寄与できる体制として「トキの野生復帰連絡協議会」を設置。産官学農市民等が連携し、トキ交流会館を拠点に、トキのエサ場づくり、森づくり、エサ場創造型の農業の普及、河川の近自然化の推進、保全型ツーリズムの開発などを推進している。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><u>協議会メンバー</u></p> <p>明日の・のうら 21 推進委員会、トキの田んぼを守る会、岩首村づくり委員会、トキの野生復帰を目指す農業者の会、佐渡トキ保護会、新潟大学トキ野生復帰プロジェクト、新潟県学校ビオトープ連絡協議会、NPO 樹木・環境ネットワーク協会、NPO しまみらい振興機構、新潟県生協、民間企業（音楽関連会社、旅行会社等）、(財)自然環境研究センター、里地ネットワーク（事務局）...など</p> <p style="text-align: center;"><u>オブザーバー</u></p> <p>トキ交流会館、佐渡市トキ推進室、佐渡トキ保護センター、新潟県環境企画課 佐渡地域振興局、北陸農政局、環境省</p> </div> <p>【取組】 体験学習・修学旅行の受け入れ、トキ学習体験コースの提供等（トキのビオトープづくり体験と生き物調べ、「トキの先生」(専門家)に話を聞く、荒れ地の復元作業、ドジョウ池づくり体験 など）</p>
活動支援・しくみ	<p>【資金調達（企業等とのパートナーシップの募集）】</p> <p>協議会に参加している地区団体、保全団体をはじめ、佐渡島内外の多くの人々により、トキの野生復帰に向けた活動、ビオトープや森林保全が進められ、また意識啓発も進んでいるが、より大きな動きをつくるための人材、資金が求められている。協議会では、企業等とのパートナーシップを求める呼びかけをHP等で行っている。また、企業とビオトープづくりを行う地区とのコーディネートを担い、実施費用、寄付金の場合、受け入れ態勢、取組期間等について個別に相談を受け付けている。</p>

（出所：「トキの野生復帰連絡協議会」HP）

住民・企業・行政の協働による熊野古道保全（三重県）	
概要	<p>平成 16 年に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」。熊野古道伊勢路では、従来から古道の発掘と保全（清掃、草刈等）に努める地元住民によるボランティア活動が行われていた。また、活動とともに地元を中心として「熊野古道ガイド養成講座」が開催され、調査研究や古道を観光客に紹介する語り部の育成等を実施。現在は、「熊野古道語り部友の会」を結成し、会員は 220 名ほどになっている。これらの地元の活動を、企業、行政それぞれの役割に応じてサポートし、持続的な観光地づくりを推進している。</p>
活動支援・しくみ	<p>【観光窓口、PR 等...「東紀州観光まちづくり公社」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語り部への依頼を受ける窓口、ガイド養成講座の開催、熊野古道マップの作成等。 <p>【企業による支援】</p> <p>（資金調達）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元銀行が、期間を限定した「熊野古道定期」を発行し、預金残高に応じて古道保全活動への寄付を行っている。 <p>（地域貢献活動としての取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元バス会社は、「クリーンアップ・ウォーク」を実施し、四日市市や津市、松坂市などからバスを運行、参加者を募集し、古道の清掃ウォークを実施 ・E 社三重支店では、古道保存会と協力し、社員が清掃活動を行っている。

（出所：「観光」2007 No.488）

「温 DOWN 化計画」キャンペーン	
概要	<p>WWF（世界自然保護基金）ジャパンが、さまざまな分野の団体・企業に協力を呼びかけ、市民が参加できる温暖化防止アクションを提案していく「温 DOWN 化計画」キャンペーン。温暖化防止活動に取り組む団体や企業が、次々と参加していくプラットフォームの形式で進めていくものであり、運営主体は「温 DOWN 化計画」実行委員会（環境省、(財)水と緑の惑星保全機構、WWF ジャパン、エコロジーオンラインで構成）。各企画への協力会社は、F データ通信・システム構築会社、G 情報サービス会社経営研究所、H 運送会社、I 電子機器メーカーおよび関連会社、J ガス会社などとなっている。（2006 年 3 月にてキャンペーン終了）</p> <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム開催 ・エコクッキング体験会 ・ブログにより「身近な」温暖化について考え、共有する場の提供「身近に感じた温暖化ストーリー」 ・グリーン電力、グリーン電力商品の購入の提案 など

（出所：「温 DOWN 化計画」HP）

(3) 商品の利用や購入を通じた支援

関連商品による支援

キャンペーンによる寄付(1)

K食品会社では、富士山の天然水を100%使用した「K生ビール富士山」の発売(1994年4月)を機に、環境保全活動の一環として「富士山環境保全キャンペーン」を1999年より実施。「ありがとう富士山」をキャッチコピーに富士山山開き期間中、当商品の売上金の一部を山梨県・静岡両県に寄付し、富士山の環境保全活動に役立てている。

キャンペーンによる寄付(2)

L通信サービス会社では、「エコケータイで地球を守ろうキャンペーン」(温暖化防止に貢献するため、ケナフ繊維を材料とする携帯電話を販売)で集まった収集益の一部を日本の世界自然遺産を守る団体に寄付している。

夕張支援(1)

北海道とM商事との連携協定に基づく取組として、4月下旬から3週間、コンビニチェーンのNや駅構内の売店等を経営するO社等が連携し、夕張関連商品の販売や観光PRを行う夕張支援フェアを行った。

東京都内9店舗と北海道内10店舗で夕張メロン果汁を使用したゼリーなど夕張関連商品の特集コーナーを設置し、その収益の一部を夕張市へ寄付するほか、夕張市関連の観光パンフレットやポスターの掲示を行った。

夕張支援(2)

P食品会社では、夕張支援のための寄付金10円が商品価格に含まれた夕張メロン関連の菓子を全国で発売。6月末に発売開始から現時点の出荷数から類推された想定寄付金の一部を夕張市の復興基金「幸福の黄色いハンカチ基金」へ贈呈した。この取組の反響が大きかったことから、追加生産によりさらなる支援を行っている。

応援グッズの販売

Q航空会社では、知床財団が展開する「人とクマが共に安心して暮らせる知床を目指す」活動の一環である「知床キムンカムイ・プロジェクト」の趣旨に賛同し、2005年から3年間で総額2,500万円を目途とした寄付を実施。また、同財団への寄付グッズの販売開始を通して一般の人にも寄付グッズ購入を通じた同プロジェクト参加の機会を設け、売上の一部を更なる活動支援のために寄付している。

消費者の利用・購入を通じた支援

クレジットカード利用

Rクレジットカード会社では、クレジットカードの利用に対する一定割合の金額が提携団体に寄付され、様々な活動に役立てられる「社会貢献カード」を設定している。(カード利用者の負担はない)。社会貢献カードは、「日本野鳥の会カード」や「赤い羽根カード」などの種類があり、例えば「日本野鳥の会カード」の場合は、利用額の0.5%がクレジットカード会社から(財)日本野鳥の会へ寄付され、バードウォッチングの指導者育成や土地買取りや協定による野鳥保護地区の保全、野鳥の生息地の定期的なモニタリング調査などの活動に使われる仕組み。

定期積金によるCO₂削減

S信用金庫は、契約者に日常生活で二酸化炭素(CO₂)の排出削減を求める環境配慮型の定期積金(一般家庭版、事業所版)を販売する。同商品では、契約者に対し、「テレビなど家電製品の種電源を切った」「自動車でなく公共交通や徒歩で出かけた」など15項目からなる1週間分のチェックシートを配布し、各項目ごとに実践すると1週間でどの程度のCO₂が削減できたかがわかる。記入後のシートを持ち込むと、エコバッグや環境に優しい洗剤などをもらうことができ、契約者に具体的なCO₂削減の行動を求める金融商品となっている。

エコカード基金

T石油精製・元売り会社のエコカード基金では、T社クレジットカードの「エコ」会員からの寄付金(毎年500円)と自社グループの売上の一部などをもとに、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを推進。NPOやNGO、研究機関などのパートナーとともに、地域社会や政府の協力を得て、発展途上国に向けた支援や次世代を担う子どもたちへの環境教育に取り組んでいる。プロジェクトの活動の一つとして、北海道富良野市では、山からタネや実生を採取して苗畑で育て、地域で植林する人々に提供したり、苗木育成や植林活動を通じた環境教育プログラムを実施している。

環境配慮型商品の販売

U食品会社は、間伐材を利用したカートカン商品を販売し、自動販売機やスーパーなどの小売店を通じて消費者に提供している。商品の売上の一部は、「緑の基金」に寄付されるため、カートカン商品を選択することで多くの人々が“いつのまにか”日本の森林整備(間伐作業、苗木購入費等)循環型環境社会に貢献できることをPRしており、オリジナルキャラクター等により普及啓発を行っている。

2. 森林環境教育、体験ツアー等の展開事例

道内複数地をまわる森林スタディツアー

国際環境 N G O FoE Japan は、2005 年「森林と村落を訪ねるツアーシリーズ」として、北海道森林スタディーツアーを実施。6 月 30 日～7 月 4 日の 4 泊 5 日で、旭川、士別、下川、斜里、知床、釧路をまわり、各地の森林および自然復興事業地を見学した。

【ツアーの概要】

- ・道内材推進に取り組む日本製紙旭川工場を見学
- ・北海道森林管理局森林技術センターにて樹木の生育等について学ぶ
F S C 森林認証をとった下川町の森林、製材工場等を見学するとともに林業と町おこしについての地元の方からの話を聞く
- ・斜里町にて「しれとこ 100 平方メートル運動」の歴史と現在について、また、エゾジカ問題について考察
- ・知床自然観察林を散策。野生動物との関り等についてふれながら豊かな自然にふれる
- ・釧路湿原再生事業の位置づけや現状、トラスト運動地としての課題等についての話を聞き、湿原や再生地を散策

(出所 : FoE Japan H P)

北海道の「癒しと健康ツーリズム推進事業」の取組

北海道では、05 年、「森林」に着目した「観光」の北海道ブランドづくりを創出するため、「癒しと健康ツーリズム推進事業」を実施。旅行代理店や旅行雑誌社等を対象に、森林と食、温泉、セラピー等を組み合わせた、エージェントツアーを行った。

例 10/11・12...釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町

(内容)

- ・国有林の見どころ等の視察
- ・森林体験プログラム (林業体験 (間伐・枝打ち)、湿原散策)
- ・森林セラピーに関する講演や生理的効果の測定体験
- ・地元の「食」や「温泉」の体験
- ・その他 (史跡国泰寺・郷土館見学、愛冠岬・霧多布岬見学、霧多布湿原センター見学、水鳥観察館 (厚岸町) 見学)

(出所 : 平成 19 年「癒しと健康ツーリズム推進事業」実施報告書)

企業による「環境貢献」ツアーの企画

V旅行会社のWグループ会社 「エコツアーブランド「GREENSHOES」第1弾「CO2 ゼロ旅行」

- ・ V旅行会社のWグループ会社では、エコツアーブランド「GREENSHOES（グリーンシューズ）」の第一弾商品として、関連会社の4社で共同開発した「CO2 ゼロ旅行」を、法人旅行・教育旅行向け団体旅行を中心に販売。地球に優しい旅行のスタイルとして展開
- ・ 「CO2 ゼロ旅行」は、旅行中の移動などで排出されるCO2を、その排出量に相当する自然エネルギーを購入することで、間接的に相殺する旅行
- ・ 例えば、東京発の新幹線で行く京都2泊3日旅行の場合
参加者は、通常の旅行代金に加算して、500円程度のグリーン電力代金、1団体に付き1枚のグリーン電力証書発行代をW社に支払う。
W社が預かった代金は、グリーン電力発電の維持拡大に利用される。
参加者や団体には、旅行終了後も実施の記念としてグリーン電力証書とバッジが配布される。
- ・ パッケージツアーとしてW社が「CO2 ゼロ旅行」を販売。環境エネルギー政策研究所がCO2排出量相殺に必要なグリーン電力量を算出し、自然エネルギー関連会社のX社が発行したグリーン電力証書を、音楽関連会社のY社が調達、提供するというしくみとなっている。

(出所：JTB HP、NIKKEI NET)

「旅のハイブリッド」モニターツアー（愛知県）

愛知県観光協会が同県と共同で旅行をしながら環境保護や地域文化に貢献する「旅のハイブリッド」の有料モニターツアーを実施。レジ袋を減らしたショッピングや海岸清掃といった体験を通じて旅行者はエコポイントを獲得。獲得したエコポイントは1ポイント=20円に換算し、棚田保全活動や森林間伐、コノハズクの保護など旅行者が希望する活動に寄付される。

(出所：NIKKEI NET (06/11/18))

学びと体験活動のパッケージ

Z旅行会社 「シニアカレッジ」

- ・ 向学心の高い全国の50歳以上を対象とした国立大学の生涯学習プログラムで、観光+大学教養講座のパッケージ
- ・ Z旅行会社と共同による開講。宿や交通、観光等の手配をZ旅行会社で請け負う。シニアサマーカレッジは会員制で、入会にあたって、50歳以上の方であれば学歴等の条件はなく、また入学試験等も一切なく、希望すれば入会することができる。
- ・ 現在、全国7校の国立大学が参加。各地域の郷土色豊かな文化や伝統、自然、産業などを題材とした講義を展開
- ・ 2週間程度のプログラムで、遠隔地からの参加者も多く、ホテルなどを宿泊場所として受講。シニアのロングステイにつながる。

(出所：NIKKEI NET (06/11/18))

東京農業大学 オホーツク実学市民公開講座

東京農業大学オホーツクキャンパス（網走市）では、オホーツク学を学ぶ市民公開講座を実施。これまでのテーマは、「海の生態系における『オホーツク学』の展開」、「知床 - 世界遺産登録と環境共生・地域活性化の課題を展開して -」、「新しいツーリズムが拓く オホーツクの可能性」、「オホーツクの魅力再発見と体験型教育による地域活性化の可能性」などであり、専門家による基調講演やパネルディスカッションなどを行っている。

（出所：東京農業大学HP）

森林を学び・楽しむ体験プログラム

駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター「樹木博士認定コース」

「樹木博士」とは：樹木の名前を葉や枝等から識別できる人のこと。識別できた樹木の本数で、段・級の認定を受ける。

【樹木博士認定会の実施方法】

- 1週間程度前に当ふれあいセンターから事前学習資料（樹木図鑑）が送付され、自己学習
- 事前学習コースで各樹木の名前を葉や枝などに直接触れながらその特徴をつかみ覚える休憩・自己学習（15分程度）
- テストコースで、樹木を識別し、樹種名を当てるテストを実施
- 正解数により、段・級位を決定し、認定書を手渡す

（出所：駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンターHP）

北海道 野幌森林づくり塾（2005年3月）

- ・枝打ち体験後に、その落とした枝や、その他いろんな樹種の枯れ枝を採取し、バードコールづくりを行った。
- ・様々な木、樹種に触れ、樹皮をフロッタージュ（こすり絵）したり冬芽をスケッチしたりして野幌の樹の図鑑をつくり、木の名前を勉強
- ・終了式では、塾生に修了証書を授与

（出所：石狩森林管理署プレスリリース）

愛知県 矢作川森の健康診断

- ・年に一度6月頃、独自の調査方法で、人工林を調査。
- ・1チーム5-8名で、チームリーダーは森林ボランティアが、サブリーダーに自然観察サポーターと地元サポーターがつき、林業の話や昆虫や野鳥観察なども交えて楽しく科学的に実施
- ・決められた山林で、簡単な道具を使って、人工林の混み具合、植物の多様性、土壌の豊かさなどを計測・観察する（一ヶ所半日程度）
- ・診断結果は研究者グループが集計分析し、誰でもわかる報告書にまとめ、報告会で発表する。報告書には参加者の氏名や感想なども掲載

（出所：「矢作川水系森林ボランティア協議会」HP）

3. 体験型教育旅行における受け入れの推進

(1) 受入れ推進体制

和歌山県ほんまもん体験倶楽部

和歌山県では、02年から体験事業の1つとして売り出している「ほんまもん体験」を活用して首都圏での修学旅行誘致を行っている。05年度：1高校（埼玉1） 06年度：5高校（埼玉3、千葉2） 07年度：4高校（埼玉2、神奈川1、千葉1） 08年度：11高校（埼玉8、神奈川1、東京1、青森1）の誘致に成功。

【誘致活動】

- ・県は、08年3～6月にかけて首都圏にある大手旅行代理店の延べ50営業所を訪問、首都圏向けにダイレクトメール1000通送るなどの誘致活動を実施。また、「体験・学び・感動の修学旅行セミナー」と題して大阪市内、東京都内でそれぞれ学校教員や修学旅行担当者向けのセミナーを開催。
- ・県内でも特に、串本町では08年度から串本町教育旅行誘致協議会が進めている「漁家民泊」（漁師の家に泊まって体験）を初めてセールスし、7校が希望するなど体験型の修学旅行誘致活動が実を結んでいる。このような取組を受け、県内のみなべ町では観光協会が教育旅行誘致専門委員会を設立、梅の収穫やウミガメ産卵地、魚市場見学などを取り入れ、2年間で数回の修学旅行誘致に成功した。
- ・修学旅行の生徒には、305ある「ほんまもん体験」のプログラムからマグロ養殖体験、漁業体験、カヌー、紀州備長炭炭焼き体験、熊野古道散策等を用意。

「ほんまもん体験倶楽部」

体験現場を提供する会員組織（約400人）で、県の支援も受け個人の生産者やJA、森林組合、市町村観光協会などで構成される。事務局の仕事は体験先の紹介、実技プランの作成や受け入れの調整、新規企画の提案、インストラクター養成講座と多岐にわたる。事務局長は国が選んだ観光カリスマの1人刀根浩志氏。

「ほんまもん倶楽部」で提供するテーマおよびプログラム

【自然観察体験】

自然散策、自然・歴史散策（棚田百選に選ばれた「あらぎ島」）、滝めぐり、巨樹めぐり、熊野古道自然観察ウォーク、
海の自然観察（磯の生物観察ウォーク）...など

【農林漁業体験】

水耕みづば作業体験、緑化木生産の作業体験、野菜の作業体験、シイタケの作業体験、鮎つかみどり、森林間伐体験、森林ボランティア体験（森林パトロール、植林、間伐等）、みかん収穫&マーガレードづくり、米づくり塾、漁業地引網漁&干物づくり体験、はえなわ漁体験、車エビ収穫体験、本マグロ養殖体験、...など

（出所：和歌山県庁HP、紀伊民報、日本経済新聞）

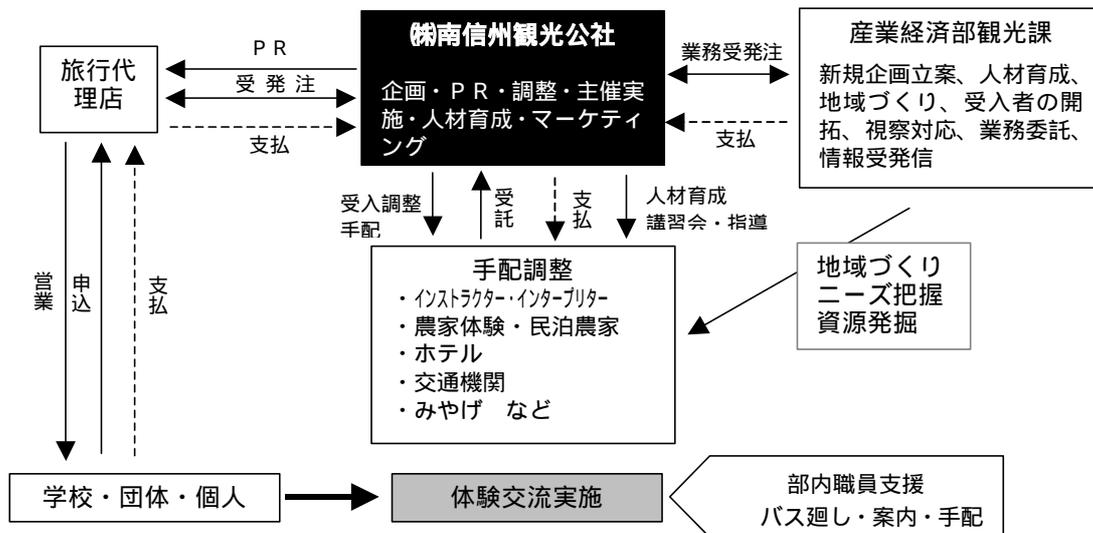
長野県飯田市の体験教育旅行の推進体制

長野県飯田市は、南信州・伊那谷の豊かな里山の自然と農業を活用した体験教育旅行を96年からスタートし、初年度の8団体100人の利用者が05年には260団体（学校107、団体153）来客数2万1,500人、プログラム延べ利用者4万5,000人という実績をあげている。

成功要因として、農家民泊と市内旅館・ホテルをセットとした宿泊様式、農業体験にエコツーリズム、グリーンツーリズムをはじめ郷土料理などの食体験や地域の人々との交流などの約150のバラエティに富んだプログラム。（プログラムは生徒による選択式）事業システムの確立などがあげられている。

【推進体制のしくみ】

飯田・下伊那地域の18市町村と地元企業の出資により第3セクターとして設立された「株南信州観光公社」が中心となり、体験教育旅行をはじめ企業研修、グループ旅行、カルチャーセミナーなどで南信州を訪れる利用者のコーディネートを担当している。公社の主要業務は、事業企画・PR・調整・主催実施・清算・人材育成・マーケティング等であり、体験教育旅行に関しては宿泊施設・インストラクター・交通機関・みやげ等の各種手配調整業務を行っている。また、旅行代理店へのプロモーションも重要な業務の1つとなっている。



「市民インストラクター制度」の活用

飯田市における体験教育旅行で提供するプログラムのインストラクターは、必ずしも専門職ではなく、プログラムの仕事に明るい人が見学者の案内人を志望し、公社に登録している市民であり、農家からサラリーマン、主婦等も含まれる（ボランティアではなく報酬が支払われる）。06年度現在、インストラクターに登録している市民は約2,000人にのぼり、こうした点で地域ぐるみの事業という特色が認められる。

（出所：「月刊レジャー産業」2006.02）

(2) 道内における修学旅行の動向

平成15年度 来道修学旅行宿泊実態調査結果(北海道経済部観光振興課)をみると、道内における修学旅行宿泊地は1位が札幌市、2位がニセコ町、3位が富良野市となっている。

また、06年より京都・奈良への修学旅行が多かった関東地区の公立中学校で、修学旅行に航空機利用を解禁する動きが広がっており、道内各自治体で自然環境、農業体験等を売り物とした誘致活動が取組まれている。

図表 道内宿泊地上位市町村

順位	市町村名	学校数(校)	延宿泊生徒数(人泊)	生徒数構成比(%)
1位	札幌市	373	88,216	15.8%
2位	ニセコ町	208	68,575	12.3%
3位	富良野市	273	60,695	10.9%
4位	倶知安町	131	42,940	7.7%
5位	虻田町	187	34,773	6.2%

(出所：平成15年来道修学旅行宿泊実態調査結果(北海道経済部))

【道内各地での修学旅行誘致活動の例】

旭川市	長く交流を深めている鹿児島県さつま市で地元高校に動物園などをPR
函館市	児童・生徒向けの専門HP「函館・北海道修学旅行ガイド」を開設。歴史やアウトドア体験を紹介
登別市	航空機利用が可能になった横浜市や千葉市にキャンペーン。観光協会は台湾にもプロモーション
白老町	仙台市、東京、名古屋市、大阪市、福岡市の旅行会社を訪問し、アイヌ民族博物館などを売り込み
東川町	写真甲子園出場校などに農業体験ツアーの様子などを紹介したDVD発送
ニセコ町	ニセコ高原のペンションなど15軒が「ポテト共和国」を作り、自然体験や手作り体験を売り物に誘致
池田町など 4町	4町で連携「十勝東北部地域歓呼事業検討委員会」を発足、旅行社向けの修学旅行誘致ツアーを開催
鹿追町	自然体験観光の北海道ネイチャーセンターが、台湾の高校から道内で初めて修学旅行を受け入れ

(出所：日本経済新聞(06/03/23))

道内修学旅行の先進事例（ニセコ町）

道内におけるアウトドア観光の先進地であり、修学旅行を多く受入れているニセコ町の修学旅行プランをみると、管内のアウトドアメニューや農業体験等のプログラムに加え、比較的アクセスのよい札幌、小樽のほか、函館、白老、洞爺湖、登別等の観光と組み合わせたプランなどがみられる。

【修学旅行プランの例】

関西圏A高校	1日目	関西空港 = 函館空港 - トラピスチヌ修道院 - 函館山夜景（函館泊）
	2日目	ホテル - 函館朝市 - ニセコ（昼食） - ラフティング（ニセコペンション泊）
	3日目	ペンション - 小樽班別研修（昼食） 白い恋人パーク、札幌市内研修 羊が丘展望台（札幌泊）
	4日目	ホテル - 札幌市内班別研修 - 新千歳空港 = 関西空港

（関西圏A校HPより）

【修学旅行プランの例】

岡山県B高校	1日目	伊丹空港 = 新千歳空港 - 白老ポロトコタン - 昭和新山 - ニセコ（ニセコ泊）
	2日目	ホテル（ニセコ） - ラフティング - ニセコパノラマライン - 神威岬（遊歩道散策） - 札幌市内（アサヒビール園）（札幌泊）
	3日目	ホテル - 札幌駅 - 小樽（小樽運河、オルゴール堂） チョコレートファクトリー - 市内観光（札幌泊）
	4日目	ホテル - 美しが丘展望台 - 大倉山ジャンプ競技場 - 新千歳空港 = 広島空港

（岡山県B校HPより）

「ポテト共和国」体験メニュー

- ・テニス、登山、ハイキング、パークゴルフ、カヌー、フィッシング、乗馬体験、散策、ゴンドラ搭乗（ニセコアンヌプリ）、熱気球搭乗体験
- ・アイスクリームづくり、バターづくり、ソーセージづくり、ジャムづくり、陶芸教室、リースづくり、パンづくり
- ・牧場見学・乳搾り、イモ堀
- ・ラフティング、釣り、マウンテンバイク

（「ポテト共和国」HPより）

知床永久の森林づくり協議会及び仕組みづくり部会の開催状況

第1回 知床永久の森林づくり協議会（平成19年7月13日（金））

< 議題 >

国民参加の森林づくりの現状と課題
知床自然の森林づくりの現状と課題
協議会のスケジュールについて

知床永久の森林づくり協議会 仕組みづくり部会

（札幌地区 平成19年9月5日（水））

（知床地区 平成19年9月7日（金））

< 議題 >

仕組みづくり部会の進め方について
知床に関する各委員会等との連携・調整について
知床の森林づくり活動に関する検討課題について
委員からの提案
地区毎のテーマの検討
（札幌地区：サポート体制（企業支援の方策、ツアー企画等）
（知床地区：地元としての役割の検討（受入体制・実施プログラム等）
知床半島の森林・森林づくり活動に対する意識調査（アンケート）
について

第2回 知床永久の森林づくり協議会（平成19年9月26日（水））

< 議題 >

知床に関する各委員会等との連携・調整の考え方について
第一回仕組みづくり部会等の結果について
ビジョン策定の目的について
知床の森林づくり活動フィールドの検討について
実効性の高いビジョン・素案について
意識調査（アンケート）の実施について

知床永久の森林づくり協議会 仕組みづくり部会

(北見・網走地区 平成19年12月17日(月))

(知床地区 平成19年12月18日(火))

(札幌地区 平成19年12月21日(金))

< 議題 >

森林づくり体験等プログラム(ツアー)の具体化を進めるフィールドについて

森林づくり体験等プログラム(ツアー)の具体例及び次年度以降の
実行体制等について

知床森林づくりに関する意識調査(アンケート)の結果

第3回 知床永久の森林づくり協議会(平成20年2月28日(木))

< 議題 >

知床における国民参加の森林づくり活動等の推進に関するビジョン
のとりまとめについて

来年度以降の実行体制について

上記のほか必要に応じて、協議会委員や有識者への個別ヒアリング及び企業訪問を実施し、今後の進め方に対する具体的なご意見・提案を頂いた。

< ヒアリング・企業訪問等の実施状況 >

- ・ 9月6・7日 委員ヒアリング
- ・ 10月 1日 道内企業訪問
- ・ 10月 3日 道外企業訪問
- ・ 10月4・5日 委員ヒアリング
- ・ 11月29・30日 委員ヒアリング、道外企業訪問
- ・ 12月 12日 委員ヒアリング
- ・ 12月 17日 有識者ヒアリング
- ・ 12月 25日 有識者ヒアリング
- ・ 2月4・6日 関係団体ヒアリング
- ・ 2月 14日 委員ヒアリング
- ・ 2月21・22日 委員ヒアリング
- ・ 2月27・28日 委員ヒアリング

知床永久の森林づくり協議会委員 名簿

氏 名	所 属 等
秋山 英敏	セブン-イレブンみどりの基金理事
今井 鉄男	ウトロ漁業協同組合代表理事組合長
上野 洋司	知床斜里町観光協会会長
楓 千里	(株) JTBパブリッシング法人事業部部長
菅野 光洋	北海道旅客鉄道(株) 開発事業本部副本部長
黒瀧 秀久	東京農業大学教授 オホーツク実学センター長
鈴木 順策	オホーツクみどりネットワーク代表
鈴木 幸夫	朝日新聞北海道支社広告チーム マネージャー
田澤 由利	(株) ワイズスタッフ代表取締役
田中 勝博	羅臼漁業協同組合代表理事組合長
辻井 達一	(財) 北海道環境財団理事長
辻中 義一	知床羅臼町観光協会会長
中川 元	斜里町立知床博物館館長
丹羽 祐而	(株) 丹羽企画研究所代表取締役
坂東 元	旭川市旭山動物園副園長
村田 均	斜里町長
森 信也	(財) 知床財団理事長
森本 全	(株) A N A 総合研究所主席研究員部長
脇 紀美夫	羅臼町長

敬称略 五十音順

< オブザーバー >

環境省釧路自然環境事務所 国立公園企画官 長田 啓
 北海道網走支庁 産業振興部長 巻口 公治

仕組みづくり部会委員 名簿

(札幌地区、知床地区、北見・網走地区)

	氏 名	所 属 等
札幌地区	菅野 光洋 久保田 学 鈴木 幸夫 丹羽 祐而 森末 忍	北海道旅客鉄道(株) 開発事業本部副本部長 (財)北海道環境財団 企画事業課長 朝日新聞北海道支社広告チーム マネージャー (株)丹羽企画研究所 代表取締役 (株)北海道AIPA 情報社 事業支援室 プランナー
知床地区	石見 公夫 上野 洋司 田澤 道広 三浦 里紗 村田 良介 山中 正実	知床ガイド協議会 会長 知床斜里町観光協会 会長 羅臼町((財)知床財団出向 羅臼地区担当次長) 知床羅臼町観光協会 事務局長 斜里町 環境保全課長 知床財団 事務局長
北見・網走区	飯田 一夫 黒瀧 秀久 鈴木 順策 田澤 由利 巻口 公治	A N Aセールス北海道北見網走支店長 東京農業大学オホーツク実学センター長 オホーツクみどりネットワーク代表 (株)ワイズ スタッフ 代表取締役 北海道網走支庁 産業振興部長

敬称略 五十音順

<ヒアリングを実施した有識者、関係団体>

- ・オホーツク圏観光連盟会長
- ・(社)北海道観光連盟副会長
- ・(社)日本経済団体連合会自然保護協議会
- ・(社)日本ユネスコ協会連盟
- ・NPO法人教育支援協会

知床の森林づくりに関する協議会設置要領

1 目的

地球暖化対策の第一約束期間が間近に迫っている中で、森林吸収量の目標達成を図っていくため、森林整備の推進とともに国民に対する森林づくり意識の醸成、森林環境教育の強化を通じて、国民参加の森林づくりの一層の促進を図ることとしている。

一方、我が国を代表する森林を有する知床においては、その核心地域の保全とともに、周辺地域に散在する人工林や荒廃地等において、広葉樹林化をはじめとする多様な森づくりを推進し、半島全体として生物多様性を高めていくこと等が課題となっている。

これらの課題に取り組むため、企業等多様な主体の参画の下、知床における国民参加の森林づくりを継続的に推進するための体制や仕組みづくりの検討を行う協議会を設立するものである。

2 名称

協議会の名称を「知床永久の森林づくり協議会」とする。

3 委員の構成

協議会の委員は、地元関係者、学識経験者及び知床における森林づくり活動をサポートする企業等で構成する。

4 委員会の運営及び検討事項

別に定める「知床永久の森林づくり協議会運営要領」による。

知床永久の森林づくり協議会運営要領

1 検討事項

協議会は、企業等多様な主体の参画の下、知床における国民参加の森林づくりや森林環境教育を推進するために必要な以下の事項について検討するものとする。

(1) 知床の現状と課題について

- ア 知床の森林の現状と課題（生物多様性の観点からみた課題を含む。）
- イ 企業等多様な主体による国民参加の森林づくり活動の現状と課題
- ウ 森林環境教育の現状と更なる推進のための課題
- エ その他知床を取り巻く現状と課題

(2) 知床における新たな国民参加の森林づくりについて

- ア 企業等多様な主体の参画可能性
- イ 多様な主体が支援する参加しやすい森林づくりの仕組み
- ウ 継続的な国民参加の森林づくり活動のための体制及び仕組み
- エ その他知床における国民参加の森林づくりを推進するために必要な事項

(3) 知床における森林環境教育の推進について

- ア 知床の自然を活かした森林環境教育のフィールドの提供
- イ 教育機関（都市部含む。）と連携した森林環境教育の手法
- ウ その他森林環境教育の推進に必要な事項

(4) その他

その他、本協議会の目的を達成するために必要な事項

2 協議会の運営

(1) 役員

協議会には、会長を1名置き、委員の互選による。

なお、会長は、会長の職務を代行する者を指名することが出来るものとする。

(2) 協議会の開催

協議会は、会長が招集する。

協議会の開催は、委員全員の出席を原則とするが、やむを得ない場合は委員の了解をもって開催する。

(3) 議長

協議会の議長は会長が務めるものとする。

(4) 部会

協議会には、上記 1 の検討事項を検討するため必要な部会を置くことができる。

3 事務局

協議会の事務局は、北海道森林管理局計画部に置く。

事務局は、協議会の開催、運営に係る事務及び協議結果の集約等を行う。

4 その他

協議会の検討に当たって、会長が必要と認める場合は、委員以外の者を参加させ意見を聴くことができるものとする。

「北海道国有林の生物多様性保全を目指して」のポイント

- 生物多様性検討委員会 取りまとめ -

1 北海道の自然環境、森林資源

北海道では、我が国の中でも特有の動植物相による多様な生態系が形成。北海道国有林は、7割が天然林でその天然林は多様性に富み、良好な景観や自然環境を有する。

2 生物多様性の確保の観点から見た北海道国有林の現状

北海道国有林では、保護林や緑の回廊の設定を行うとともに、希少な野生生物が生息・生育する森林における調査や保護林等での巡視、盗掘防止柵の維持管理等を実施。

森林環境保全ふれあいセンター等において、国有林をフィールドに自然再生や生物多様性保全等の活動を支援。

3 生物多様性の確保の観点から見た課題と検討方向**(1) 天然林施業**

天然林施業は、量的な資源管理に重点が置かれがちであったことから、林分の樹種構成や林況の細かい差異に応じ、目標とする樹種構成等にも配慮することが必要であり、森林資源の持続性の維持と生物多様性保全を両立させるための適切な森林施業のあり方、森林管理基準を考え、天然林に係る施業基準等に反映させることを検討することが必要。

生物多様性保全の観点から重要とされる島嶼域の天然林や、樹木の種ないしは群集レベルでの分布域の末端地域の天然林については、生物多様性に資するプロジェクトを除き、原則として自然の推移に委ねる扱いに位置づけることが必要。また、原植生又は本来の生物群集への更新不能の状態にある地域の有無につき調査等を行い、今後の施業のあり方について検討することが必要。

(2) 保護林等

北海道国有林の自然度に見合った保護林のシェアの拡大や既存の保護林の連結、拡大、整理統合等が必要であり、既存の保護林の設定効果を見るための総合的な調査や遺伝子レベルの調査等の実施を検討することが必要。また、新たな森林生態系保護地域等の設定の必要性の有無につき、必要な調査の実施について検討することが必要。林木遺伝資源保存林については研究者のアドバイスを受けつつ、整理統合を検討することが必要。

森林生態系保護地域は、保存地区への入込者数が増加し、裸地化等の問題が生じていることから、保全利用地区を森林環境教育等のフィールドとしての活用を進めるとともに、保存地区の考え方等の普及に努力することが必要。

緑の回廊について、北海道全体の野生生物の交流について知見が得られていないことから、希少種の生息数の把握や高山植物を指標としたモニタリング調査と併せて、DNAマーカーによる調査等の活用を検討することが必要。

(3) 評価基準及び手法等

各職員が希少種の生息・生育地域等を確認できるようデータベースの整備が林野庁で検討されており、その際には、希少種の情報について他省庁等と連携することが望まれる。

モニタリング調査等に市民の参加を募ることが望まれることから、生物多様性に資するプロジェクトでは、参加者を呼び込むためのプログラムづくりをまず行うことが必要。

(4) 遺伝子レベルの保全

遺伝的多様性の評価が順次行われつつあり、遺伝子に関する調査については、関係機関等と連携し、保護林等の種類に応じた調査手法を検討した上で、残された課題の明示等を進めることが必要。

天然林の樹木の遺伝的多様性の地域差が明らかになりつつあり、北海道国有林における様々な植樹に当たっては、遺伝的多様性の攪乱が起こらないよう樹木の遺伝的多様性の地域差への配慮に努めることが必要。また、北海道の遺伝的多様性の攪乱が起こることを防止するため、ルール化を考えることも必要。

(5) 人材の育成

生物多様性保全に関心を持つ人材の養成が重要であり、職員の生物多様性に資するプロジェクトへの参画を通じ、生物多様性についての意識の向上、知識・技術・経験の積み重ねを図るための取組を検討することが必要。

(6) 生物多様性に資するプロジェクトの展開

生物多様性に資するプロジェクトの実施に当たっては、住民参加とし、公開して分かりやすく説明し、国民の理解を得る必要。

生物多様性に資するプロジェクトについては、まずはプロジェクトの中心となる森林管理署等において先駆的・実証的な取組を行い、そこで開発・実証された手法をそれ以外の署等に拡大していくことが適当。

生物多様性に資するプロジェクトの展開について

プロジェクト名	該当する森林管理署等 (は先行して行う署)	展開の方向
樹海更生プロジェクト	日高北部森林管理署 上川南部森林管理署	日高山脈中央地域の生物多様性を把握する調査や更新状況のモニタリング等を実施 同エリアの保護林等の見直しや天然更新のための作業種の検討へ展開(生物多様性検討委員会)
にしんの森再生プロジェクト	留萌南部森林管理署 留萌北部森林管理署 宗谷森林管理署	先行署において、市民参加も得ながら、にしんの森の再生事業に着手 「にしん」をシンボルに日本海側の森林の再生
十勝川源流部更生プロジェクト	十勝西部森林管理署 東天雪支署	十勝川源流域等の生物多様性を把握する調査や更新状況・虫害の状況のモニタリング等を実施 同エリアの保護林等の見直しや風倒被害地の施業手法等の検討へ展開(生物多様性検討委員会)
北限のブナ復元プロジェクト	後志森林管理署 渡島森林管理署 檜山森林管理署	先行署において、市民参加も得ながら、北限のブナ復元事業に着手 渡島半島のブナの保全へ展開

取りまとめの扱い

天然林や保護林等に係る既存の調査データのレビューや必要な調査の実施、プロジェクトのモニタリング調査等への市民参加などを提案。

また、その調査等の具体的な内容、手法等を調査方針(別紙)として取りまとめ。なお、保護林や天然林については、今後、林野庁において検討されることから必要により見直しもあり得る。

来年以降は、この取りまとめを踏まえ、学識経験者等の協力もいただきながら、天然林の取扱手法、保護林の再編等の検討を深めていく予定。

北海道国有林の生物多様性保全に関する調査方針

平成19年度から、林野庁の保護林等森林資源管理強化対策(「保護林の体系的かつ定期的なモニタリング調査等」及び「希少動植物種のデータベースの整備」)を活用した保護林等に係る調査等に加え北海道森林管理局独自の調査等を実施する。
 なお、保護林や天然林については、林野庁においても保護林等の保全や管理のあり方についての検討会、天然林のあり方についての検討会を開催し検討することになっており、それらの検討によっては、今後、必要によって見直しもあり得る。

区分	中間取りまとめでの指摘課題	対応の基本方針	今後の対応方向
森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林	コアエリア・バッファエリアの機能再評価	コアエリアの生物相の変遷を長期的に把握 バッファエリアの利用状況の把握	今年度より5年間で森林計画の樹立に合わせ計画区単位に、基礎調査、サンプルプロット設置によるコアエリア等の森林調査、バッファエリアの利用動態調査等を実施(保護林等森林資源管理強化対策のうち保護林モニタリング調査等を活用) 調査結果は、保護林管理に反映 植物相の劣化やバッファエリアでの過剰な入り込み等が確認された場合は、バッファエリアをコアエリアに移すなど、エリアの見直しを含め対策を検討 <u>来年度以降、生物多様性検討委員会の検討を受けてサンプルプロット内主要樹種の遺伝的データの取得を検討</u> <u>来年度以降、知床森林生態系保護地域においてバッファエリアを森林環境教育へ利用</u>
植物群落保護林	希少種が面積を含めて十分な保全状態にあるか 既存保全事業による対応が十分か 遺伝子レベルでの調査の必要性	保護対象植物を含む生物相の変遷を長期的に把握	今年度より5年間で森林計画の樹立に合わせ計画区単位に、基礎調査、サンプルプロット設置による森林調査を実施(保護林等森林資源管理強化対策のうち保護林モニタリング調査等を活用) 調査結果は、保護林管理に反映 <u>希少性の高い植物については、保護林内の群落分布の調査を実施(岨山植物群落保護林、東ヌブカウソコマクサ植物群落保護林で実施中)</u> 分布状態の劣化が見られた場合は、巡視の強化、エリアの見直しを含め対策を検討 <u>来年度以降、特に希少性の高いものについては、遺伝子レベルの調査を検討</u>
特定動物生息地保護林	保護林の面積が充分か 希少野生動植物の保護事業が適切なものになっているか	保護林内の保護対象動物の生息数調査 周辺地域を含む対象動物の分布状態の再確認 既存事業(巡視等)の評価	今年度より5年間で森林計画の樹立に合わせ計画区単位に、基礎調査、サンプルプロット設置による動物調査を実施(保護林等森林資源管理強化対策のうち保護林モニタリング調査等を活用) 調査結果は、保護林管理に反映 保護対象動物の生息状態に応じて既存巡視事業の配分の見直し
林木遺伝資源保存林	近隣の保護林と一体で保全を図る必要のあるものがあるか 一体的に取り扱うのが望ましくないものは既存データの収集と統合整理を検討 データの無いものは調査等が必要か関係機関と調整 遺伝子レベルでの調査の必要性	配置状況、希少性、育種等研究への必要性を含む既存保存林の再評価 管理にあたっては(独)森林総合研究所と連携	今年度より5年間で森林計画の樹立に合わせ計画区単位に、基礎調査、サンプルプロット設置による森林調査を実施(保護林等森林資源管理強化対策のうち保護林モニタリング調査等を活用) 調査結果は、保護林管理に反映 今年度、重要樹種の地域変異等について <u>遺伝子レベルでの調査を一部で先行して実施</u> <u>上記各種調査を通じた再評価の結果に応じて、配置、区分、面積等について見直しを図り、保存林としての利用価値の向上を目指す(独)森林総合研究所林木育種センターの行う林木遺伝資源保存林のモニタリング調査への協力</u>
緑の回廊	全道レベルでの機能再評価 遺伝子レベルでの調査の必要性	全道レベルでの機能再評価の結果に応じ、機能の高度化のための延長等を検討	緑の回廊モニタリング調査等を通じ、計画的に生物相を把握 <u>今年度、重要樹種の地域変異等について遺伝子レベルでの調査を一部実施</u>

注：下線部は北海道森林管理局独自の取組

区 分	中間取りまとめでの指摘課題	対応の基本方針	今後の対応方向
天然林全般	林分の樹種構成や林況の細かい差異に応じ、目標とする樹種構成等にも配慮すること、森林資源の持続性の維持と土地固有の生物多様性保全を両立させるための適切な施業のあり方、森林管理基準を考え、天然林に係る施業基準等に反映	プロジェクト等での取組を踏まえ、配慮すべき点を検討 森林施業のあり方、天然林に係る施業基準等の検討に当たっては専門家の意見を聞きながら施業方法等について検討	プロジェクト委員会の論議を踏まえ、にしんの森再生プロジェクト及び北限のブナ復元プロジェクトにおいて、 ・現地に関する既存データと人為的因子の収集・分析 ・植生調査等必要な現地調査 ・森林再生、生態系再生に向けた手法について検討の上、市民参加を得るなどにより事業を実施 生物多様性保全に配慮した施業方法等を検討するため、局内の検討チームを年内に立ち上げ また、プロジェクトでの調査を踏まえ、天然更新のための作業種や風倒被害地における施業手法についても検討
	天然林の伐採等により、森林の生物多様性を低下させる恐れがある地域を注意して見分け、そのような地域については天然林利用ではなく、人工林利用等に切り替え	専門家の意見を聞きながら、樹立計画の検討において天然林からの伐採を精査	専門家等の行った研究成果等の洗い出しを行うとともに、必要に応じて専門家の詳細な調査を行い、森林の生物多様性を低下させる恐れのある地域について確認し、今後の取扱いを検討
	生物多様性の保全の観点から重要とされる島嶼域の天然林や、樹木の種ないしは群集レベルでの分布域の末端地域の天然林については、森林環境保全ふれあいセンターなどで行う自然再生への取組を含む生物多様性に資するプロジェクトの取組を除き、原則として自然の推移に委ねることとし、「森林と人との共生林」の「自然維持タイプ」への位置づけ	生物多様性の保全の観点から重要とされる島嶼域等の天然林の具体的な箇所を検討	森林計画の後志胆振森林計画区、渡島檜山森林計画区においては、渡島半島一帯がブナ、ヒバの北限域となっているため、自然維持タイプへの見直しを検討するが、具体的に生物多様性に資するプロジェクトのエリアが確定するまでの間は、天然林の伐採を見合わせる取扱いで対応
	過去の森林施業等により原植生又は本来の生物群集への更新不能の状態にある地域の有無につき調査等を行い、その調査結果を踏まえて、今後の施業のあり方につき検討	専門家の意見を聞きながら、樹立計画の検討において反映	専門家等の行った研究成果等の洗い出しを行うとともに、必要に応じて専門家による詳細な調査を行い、更新不能の状態を作り出した条件や原因等について精査し、同様の条件にある地域での今後の取扱いに反映
	現在は脊梁部を中心に森林生態系保護地域が設定されているが、その他の高標高地の天然林、地域の生態系の核となっていると考えられる天然林等について、新たな森林生態系保護地域等の設定の必要性の有無につき、既存のデータをレビューした上で、必要な調査の実施を検討	プロジェクト委員会の論議を踏まえ、必要なデータの収集、調査を行い、森林生態系保護地域等の設定等を検討	プロジェクト委員会での論議を踏まえ、十勝川源流部を中心とする森林及び沙流川源流部を中心とする森林において、森林生態系保護地域等の設定等の必要性を検討するため、必要なデータの収集、調査を実施
	希少種のデータベース化に当たっては、他官庁等と情報を共有しつつ進めたり、希少種等に関する情報を森林GISを活用してデータベース化するなど、生物多様性の確保の観点からも活用	平成19年度～23年度にかけ国有林野を対象に希少動植物種に関する情報を蓄積・共有するデータベースを整備 分布情報等については、森林計画の樹立に合わせ計画区単位に、希少野生生物捕捉調査を5年間で実施	保護林等森林資源管理強化対策のうち希少野生動植物種のデータベースの整備に基づき、林野庁において、基本的な入力フォームの作成と全国的な文献情報等の収集・入力等を実施することとし、北海道森林管理局においては、地域ごとの具体的な生息・生育情報について現地調査を実施 なお、現地調査は、 ・希少野生生物の目撃情報に応じた現地調査 ・森林計画の樹立に合わせ次期森林計画策定となる森林管理署等を対象に希少野生生物捕捉調査を実施

注：下線部は北海道森林管理局独自の取組



国民の森林・国有林

編 集

林野庁 北海道森林管理局 指導普及課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電 話：011-622-5245

F A X：011-616-4021

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

発 行

平成20年3月